

星美学園短期大学

Seibi Gakuen College



Student Handbook

学生要覧・講義要項

2026

Respice Stellam

レスピチェ ステルラム

— 星を仰げ —

星は聖母マリアのシンボルです。

本学では、偉大な教会博士、聖ベルナルドのことば、

「レスピチェ ステルラム」すなわち、聖母マリアを仰ぎ、
その諸徳を模範とすることをモットーとしています。

聡明

善と悪を正しく識別できる聡明さをもつ人に

誠実

言葉や行いがいつも誠実である心の清らかな人に

温和

謙虚で優しく心の温かな人に

星美学園短期大学歌

金子賢之介 作詞
山本直忠 作曲



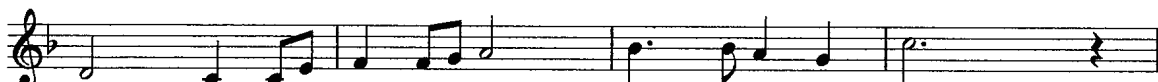
1.わ かか きき こい こー ろ は えい いち を た ず ね
2.わ かか きき こい こー ろ は えい いち を た ず ね
3.わ かか きき こい こー ろ は えい マ ずり ア の の そ と の の



つ よ ば ろ さ の ご ー と く た かろ く と び こ う
か お お り を き わ そ ー を う か やち け さ の は あ く な



ぎ う わ く の く も の そ ら か く す と も
う し れ い の の あ ー ら き 日 す あ ぶ と と も



い さ み ち し る ー べ わ す れ じ な
い ざ わ が ほ り ー う わ す れ じ な



し ゅ ん じ ゅ う の { 日 そ ー 日 } か ー が ー や く ー は
し ゅ ん じ ゅ う の { 日 そ ー 日 } か ー が ー や く ー は



ほ し の ひ か り ー ぞ Res - pi ce stel - lam
レス ピ チェ ステル - ラム

星美学園短期大学歌

- 一、若き心はえいちをたずね
翼の如く高く飛び交う
疑惑の雲の 空隠すとも
いざ道しるべ忘れじな
春秋の日々輝くは 星の光ぞ
レスピチェ ステルラム
- 二、若き命は泉の如く
喜びの環をば拵げ吹きあぐ
憂いの朽葉 ふる日あるとも
いざ我が母校忘れじな
春秋の空輝くは 星の光ぞ
レスピチェ ステルラム
- 三、若きひとみはマリアの園の
香りを競うか八千草の花
試練の嵐 吹きすさぶとも
いざ母マリア忘れじな
春秋のよる輝くは 星の光ぞ
レスピチェ ステルラム

第1章 星美学園短期大学の概要

- 1 沿革 ● 2
- 2 建学の精神・教育理念 ● 3
- 3 国内外のサレジアン・シスターズの姉妹校・児童養護施設 ● 3
- 4 星美学園短期大学学則（2026年度）（抄） ● 4

第2章 履修に関すること

- 1 2026年度 学事暦 ● 24
- 2 履修の手引き ● 25
 - 1 授業科目の構成 ● 25
 - 2 学習のしくみと卒業までの計画 ● 25
 - 3 授業の実施 ● 25
 - 4 科目と単位数 ● 26
 - 5 必修科目と選択必修・選択科目 ● 27
 - 6 単位の修得 ● 27
 - (1) 履修登録 ● 28
 - (2) 授業への参加 ● 32
 - (3) 試験 ● 35
 - 7 学籍 ● 39
 - 8 研究倫理 ● 40
- 3 教育課程と開講科目一覧 ● 41
 - 2024年度入学生用
「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「科目ナンバリングコード一覧」 ● 42
 - 1 幼児保育学科 ● 48
 - 幼児保育学科2年（2024年度入学生）
「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「学習成果」 ● 48
 - ・履修パターン ● 50
 - ・履修モデル ● 52
 - ・開講科目一覧 ● 57
 - 2 専攻科幼児保育専攻 ● 59
 - 2025年度以降専攻科入学生
「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「学習成果」 ● 59
 - ・開講科目一覧 ● 61

- 4 免許・資格取得のための教育課程 ● 62
 - 1 幼稚園教諭二種免許状の取得 ● 63
 - 2 特別支援学校教諭(知・肢・病)二種免許状の取得 ● 65
 - 3 保育士となる資格の取得 ● 67
 - 4 社会福祉主事任用資格の取得 ● 73
 - 5 ピアヘルパー資格の取得 ● 74
 - 6 准学校心理士資格の取得 ● 75
 - 7 認定ベビーシッター資格の取得 ● 76
 - 8 発達障がい児保育ベシックプログラムの修了認定資格の取得 ● 77
- 5 長期履修学生制度 ● 78
- 6 科目等履修生・聴講生制度 ● 79

第3章 大学生生活に関すること

- 1 学生生活 ● 82
 - 1 窓口 ● 82
 - 2 大学からの連絡方法 ● 82
 - 3 各種証明書、申請書、届出 ● 83
 - 4 施設・設備の利用 ● 83
 - 5 学生相談 ● 85
 - 6 クラス運営 ● 85
 - 7 サークル活動 ● 86
 - 8 アッセンブリーと大学行事 ● 86
 - 9 学生生活の心得とマナー ● 86
 - 10 健康に関すること ● 87
 - 11 海外渡航に関すること ● 88
 - 12 奨学金 ● 88
 - 13 災害傷害保険 ● 90
- 2 就職／進路 ● 91
- 3 図書館 ● 93
- 4 賞 ● 95
- 5 同窓会 ● 96
- 6 年間行事予定 ● 97
- 7 キャンパスマップ・校舎案内図 ● 103

第4章 講義要項

- 2026年度 講義要項 ● 107

Contents



第1章 星美学園短期大学の概要

1 沿 革

星美学園短期大学は、学校法人星美学園により1960(昭和35)年4月1日に設立されました。設立母体は通称サレジアン・シスターズと呼ばれる、カトリック扶助者聖母会です。イタリアのローマに本部があり、1872年にヨハネ・ボスコを創立者、初代総長マリア・ドメニカ・マザレロを共創立者として創立され、世界90余カ国に支部を有する国際的な女子修道会です。海外における学校、社会福祉等の事業は、およそ1,400カ所余に及びます。日本では本学園の他、都内や、静岡、大阪、九州等各地に姉妹校を有し、教育事業や社会福祉事業を通して社会の幸福に寄与しています。

年 譜

- | | |
|---------------|--|
| 1929年 (昭和4年) | イタリアからシスター・レティツィア・ベリアッティら6名の宣教女来日
宮崎市で明星幼稚園を開設 |
| 1939年 (昭和14年) | 東京三河島に支部を移し、星美学園を創設 |
| 1945年 (昭和20年) | 太平洋戦争中、東京大空襲によって、星美学園校舎全焼 |
| 1946年 (昭和21年) | 山梨県山中湖村東大寮の疎開地で星美学園開校 |
| 1947年 (昭和22年) | 東京赤羽台の旧陸軍赤羽工兵隊跡地を求め、東京星美学園幼稚園、小学校、
中学校、高等学校を設立 |
| 1960年 (昭和35年) | 星美学園短期大学家政科設立
初代学長 シスター・レティツィア・ベリアッティ
初代副学長 藤井武夫教授 |
| 1962年 (昭和37年) | 星美学園短期大学 新校舎落成 |
| 1963年 (昭和38年) | 星美学園短期大学保育科を設立
第二代学長 シスター平手シヅ就任 |
| 1967年 (昭和42年) | 星美学園短期大学国文科を設立 |
| 1969年 (昭和44年) | 各科の名称を家政学科、幼児教育学科、国文学科と改称 |
| 1980年 (昭和55年) | 第二代副学長 シスター平手シゲ就任 |
| 1986年 (昭和61年) | 星美総合計画により、校舎移転新築
星美学園短期大学創設25周年を記念して、図書館・大講義室を新築 |
| 1989年 (平成元年) | 第三代学長 シスター牧田トミ就任 |
| 1993年 (平成5年) | 家政学科を生活文化学科と改称 |
| 1993年 (平成5年) | 学長代行 島崎通夫就任 |
| 1994年 (平成6年) | 第四代学長 島崎通夫就任 |
| 1997年 (平成9年) | 第五代学長 久山宗彦就任 |
| 2000年 (平成12年) | 国文学科と生活文化学科を統合して人間文化学科を設置
第三代副学長 シスター古川千恵子就任 |
| 2001年 (平成13年) | 第六代学長 シスター武石聰子就任 |
| 2003年 (平成15年) | 専攻科幼児教育専攻設置 |
| 2004年 (平成16年) | 第四代副学長 シスター小島順子就任 |
| 2005年 (平成17年) | 幼児教育学科を幼児保育学科、専攻科幼児教育専攻を幼児保育専攻と改称 |
| 2007年 (平成19年) | 第七代学長 阿部健一就任 |
| 2009年 (平成21年) | 専攻科イタリア語イタリア文化専攻を設置 |
| 2010年 (平成22年) | 星美学園短期大学創設50周年を記念して、校舎内を改修 |
| 2014年 (平成26年) | 人間文化学科募集停止 |
| 2015年 (平成27年) | 人間文化学科および専攻科イタリア語イタリア文化専攻廃止 |
| 2016年 (平成28年) | 学校法人星美学園および学校法人日黒星美学園が合併し、学校法人星美学園となる |
| 2019年 (平成31年) | 男女共学化 |
| 2020年 (令和2年) | 第四代副学長 シスター小島順子退任
星美学園短期大学創設60周年 |
| 2023年 (令和5年) | 第五代副学長 町田治就任
幼児教育学科設立60周年 |
| 2025年 (令和7年) | 幼児保育学科募集停止 |
| 2026年 (令和8年) | 幼児保育学科廃止 |

2 建学の精神・教育理念

(1) 建学の精神

聖ヨハネ・ボスコが実践した「予防教育法による全人間教育」を行うことが本学の建学の精神です。

「予防教育法による全人間教育」とは、理性と宗教と慈愛に基づき、家庭的環境の中で、青少年の全人間的な育成を目指す教育です。

理性：命令や強制ではなく道理に基づいた語りかけと学生の納得による教育を行います。それは、学生に、大切にされているという思いと自律的に善を選び悪を避けさせる力を生み出します。

宗教：時代や周囲の影響に流される価値観ではなく、カトリック的な価値観、特にキリスト教的な愛について気づかせ、生きる指針となるよう導きます。

慈愛：教職員は、学生一人ひとりを、善なる心をもつ存在として大切にします。本学では、「愛情から信頼が生まれ、信頼から教育が生まれる（創立者 聖ヨハネ・ボスコの言葉）」と考えています。愛情の一つの表れは、「アシステンツァ（共にいる）」という教育方法です。本学では、「アシステンテ制度」として実施されています。

(2) 教育理念

本学では、建学の精神に基づいて育成すべき人間像を「聡明、誠実、温和」と定めています。

聡明とは、善と悪を正しく識別できる聡明さです。

誠実とは、言葉や行いがいつも誠実で、心の清らかなことです。

温和とは、謙虚で優しく心の温かなことです。

このような人間像を、カトリックの精神と価値観に基づいて育成することが、本学の教育理念です。

3 国内外のサレジアン・シスターズの姉妹校・児童養護施設

【国内】

学校法人星美学園（東京都）

星美学園短期大学
サレジアン国際学園中学校高等学校
サレジアン国際学園小学校
サレジアン国際学園幼稚園
サレジアン国際学園世田谷中学高等学校
サレジアン国際学園目黒星美小学校

学校法人星美学園（静岡県）

静岡サレジオ高等学校
静岡サレジオ中学校
静岡サレジオ小学校
静岡サレジオ幼稚園

学校法人城星学園（大阪府）

ヴェリタス城星学園高等学校
城星学園小学校
城星学園幼稚園

調布星美幼稚園（東京都）

長崎星美幼稚園（長崎県）

児童養護施設 星美ホーム（東京都）

児童養護施設 小百合ホーム（大分県）

4 星美学園短期大学学則（2026年度）（抄）

第1章 総 則

（目的）

第 1 条 本学は、教育基本法及び学校教育法に則り、カトリックの価値観に基づいて、広く豊かな教育を授け、深い専門的知識と技術を研究、教授し、国際社会において、自由と責任のうちに人間性を高める文化の樹立に貢献できる聡明、誠実、温かな人間を育成することを目的とする。

（名称）

第 2 条 本学は、星美学園短期大学と称する。

（位置）

第 3 条 本学を、東京都北区赤羽台四丁目2番14号に置く。

第2章 学 科

（学科）

第 4 条 本学に、幼児保育学科を置く。

（学科の目的）

第 5 条 幼児保育学科は、保育に関する豊かな専門知識と技術を習得し、社会人としての自覚をもって子どもをいつくしみ、育むことができる人材を養成することを目的とする。

（学生定員）

第 6 条 本学科の学生定員は、次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
幼児保育学科	0人	0人

（修業年限及び在学年限）

第 7 条 本学科の修業年限は、2年とする。

- 2 学生は、4年を超えて在学することができない。ただし、教授会の意見を聴いて学長が所定の年限を超えて在学することを認めた場合は、この限りでない。
- 3 交換留学等のために本学と協定を結んだ大学等において授業科目を履修する期間は、本学における修業年限に算入する。

第3章 学年、学期及び休業日

（学年）

第 8 条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学期）

第 9 条 学年を、次の2学期に分ける。

原則として

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に定める休日
 - (3) 本学の創立記念日
 - (4) 春期休業日概ね1か月間
 - (5) 夏期休業日概ね45日間、年間行事予定表で示す。
 - (6) 冬期休業日概ね2週間
- 2 前項の定めにかかわらず、学長は、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。
- 3 休業日であっても、授業・実習等を実施することがある。

第4章 入学、学士入学、短期大学士入学、再入学、転入学、休学、復学、留年、転学、退学及び除籍

(入学の時期)

第11条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 通常の課程以外の課程によって前号の課程を修了した者と文部科学大臣が認めた者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

- 2 提出の時期、方法及び提出すべき書類については、別に定める。

(入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに身元保証書その他の所定の書類を提出するとともに、入学金その他の所定の納入金を納付しなければならない。

- 2 学長は、教授会の意見を聴いて、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(学士入学、短期大学士入学、再入学及び転入学)

- 第16条 本学に学士入学、短期大学士入学、再入学又は転入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。
- 2 前項の志願者については、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。
 - 3 前項の定めにより入学を許可された者のすでに取得した授業科目及び単位数の取り扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。
 - 4 前項の入学を許可された者は、所定の納入金を納付しなければならない。
 - 5 本学退学の年度後3年以内に再入学を希望する場合は、学力試験を免除する。
 - 6 学士入学、短期大学士入学、再入学及び転入学についての納入金は、原則として1年次入学に準ずる。
 - 7 その他必要な事項については、別に定める。

(休学)

- 第17条 疾病その他やむを得ない事由により2月以上修学することのできない者は、学長の許可を得て、休学することができる。
- 2 疾病による休学には、休学願に医師の診断書を添付しなければならない。

(休学の期間)

- 第18条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の事由がある場合は、学長の許可を得て、引き続き更に1年以内に限り休学することができる。
- 2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。
 - 3 休学の期間は、第7条第2項の在学年限に算入しない。

(復学)

- 第19条 休学期間中にその事由が消滅した場合は、学長の許可を得て、復学することができる。

(留年)

- 第20条 学則第7条第1項及び第42条に定められた修業年限を超えて在籍する者を留年者とする。ただし、長期履修生を除く。

(転学及び退学)

- 第21条 転学又は退学しようとする者は、その事由を記した保護者連署による転学願又は退学願を提出の上、学長の許可を受けなければならない。
- 2 疾病による退学には、退学願に医師の診断書を添付しなければならない。

(除籍)

- 第22条 次の各号の一に該当する者は、教授会の意見を聴いて、学長が除籍する。
- (1) 第7条第2項に定める在学年限を超えた者
 - (2) 第18条第2項に定める休学の期間を超えてなお復学の手続をしない者
 - (3) 納入金の納付を怠り督促しても定められた期日までになお納入しない者
 - (4) 長期にわたり行方不明の者

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

- 第23条 本学の授業科目は、学科の専門教育科目及び資格取得に関する科目とし、授業科目の編成及びそ
-

の単位数は、別表で定める。

(単位の計算方法)

第24条 各授業科目の単位数を定めるに当たっては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容を持って構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(1年間の授業期間)

第25条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の授与)

第26条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 授業における出席不良の者は、試験を受けることができない。
- 3 履修科目として登録できる単位数の上限は、1年間で50単位とする。ただし、以下に該当するときは、この上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
 - (1) 所定の単位を優れた成績をもって修了したとき。
 - (2) 免許・資格取得を前提に必要な授業科目を履修するとき。
- 4 他大学等において履修した授業科目の単位を、30単位を超えない範囲で本学の単位として認定することができる。ただし、入学前に他大学等で修得した単位は、15単位を超えない範囲での認定とする。
- 5 前項の規定は、海外の大学等において修得した単位の認定について準用する。

(学習の評価)

第27条 学習の評価は、A+、A、B、C、Dをもってあらわし、A+、A、B、Cを合格とする。

(授業の不開講)

第28条 授業科目の履修登録者が5名以下の場合は、当該授業科目を開講しない。ただし、必修科目、卒業要件科目及び資格取得科目については、この限りでない。

- 2 前項本文の定めにかかわらず、学長が必要と認めたときは、履修登録者が5名以下の場合でも、当該授業科目を開講することがある。

第6章 卒業等

(卒業の要件)

第29条 学科の教育課程において所定の単位を修得し、下記の学習成果を身につけた者に対し、卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) カトリックの価値観に基づき、幅広い視野に立って、社会人としての教養と、豊かな人間性を身につけている。
- (2) 保育の基本的な知識・技術を習得するとともに、多様性を受け入れて一人ひとりの子どもに応じた保育を考えることができる。
- (3) 子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる。

- (4) 保育において必要とされる表現力と伝達力を身につけている。
- (5) 社会の一員として貢献し、他者と連携・協働できる能力を身につけている。

(卒業)

- 第30条 前条の卒業の要件を満たした者については、学年の途中においても、学期の区分に従い、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。
- 2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

(学位)

- 第31条 前条により卒業を認定した者に対して、本学学位規程の定めるところにより、教授会の意見を聴いて、学長が短期大学士を授与する。
- 2 学位規程については、別に定める。

(教育職員免許状の取得)

- 第32条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、幼稚園教諭2種免許状及び特別支援学校教諭(知的障害・肢体不自由・病弱)2種免許状である。
- 2 幼稚園教諭2種免許状を取得しようとする者は、第29条の規定によるほか、教育職員免許法及び同施行規則に基づく所定の授業科目及び単位を、別表2「幼稚園教諭2種免許状取得に必要な授業科目」に規定するとおり修得しなければならない。
 - 3 特別支援学校教諭2種免許状を取得しようとする者は、基礎資格となる教育職員免許状を取得している者及び取得見込みの者で、教育職員免許法及び同施行規則に基づく所定の授業科目及び単位を、別表2「特別支援学校教諭(知的障害・肢体不自由・病弱)2種免許状取得に必要な授業科目」に規定するとおり修得しなければならない。

第7章 入学検定料、入学金、授業料その他の納入金

(納入金)

- 第33条 入学検定料、入学金、授業料その他の納入金(以下「納入金」という。)は、別表5のとおりとする。

(納入金の納入期)

- 第34条 授業料、設備充実費及び教育充実費は、原則として次の2回の分納とする。
- 前期 4月10日
 - 後期 9月30日

(転学、退学及び停学の場合の授業料その他の納入金)

- 第35条 学期の途中で転学若しくは退学し又は除籍された者は、当該期分の授業料その他の納入金を納付しなければならない。
- 2 停学期間中の授業料その他の納入金は、納付しなければならない。

(休学者の納入金)

- 第36条 休学者の納入金は、休学が1学期にわたる場合、当該学期の授業料の半額とする。

(留年者の納入金)

- 第37条 学則第33条及び第53条の規定にかかわらず、留年者の納入金は、次のとおりとする。
- (1) 納入金の算出は、学期毎に行う。

- (2) 納入金は、基本料及び単位料とする。
- (3) 基本料は、1学期の授業料と1学期の教育充実費の合計の半額とする。
- (4) 単位料は、20,000円×履修単位数とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、1学期の履修単位が13単位以上になる場合は、学則別表5に基づいて算出された納入金の額を納入する。
- 3 専攻科の留年者で、1学期の履修単位が12単位以上になる場合は、学則別表6に基づいて算出された納入金の額を納入する。

(納入金の不返還)

第38条 納付した納入金は、原則として返還しない。ただし、入学辞退者については、次のとおりとする。

- (1) 受験時に納入した入学検定料及び入学手続き時に納入した入学金は、返還しない。
- (2) 3月31日までに辞退届を提出した者に対しては、授業料及びその他の入学手続き後の納入金を返還する。

第8章 専攻科

(専攻科)

- 第39条 本学に、専攻科を置く。
- 2 専攻科に、次の専攻を置く。
 - 幼児保育専攻

(目的)

第40条 専攻科は、短期大学における一般的及び専門的教養の基礎の上に、さらにその専攻分野についての学識を深め、その研究能力を培うことを目的とする。

(学生定員)

第41条 専攻科の学生定員は、次のとおりとする。

	入学定員	収容定員
幼児保育専攻	100人	100人

(修業年限及び在学年限)

- 第42条 専攻科の修業年限は、1年とする。
- 2 専攻科生は、2年を超えて在学することができない。ただし、教授会の意見を聴いて、学長が所定の年限を超えて在学することを認めた場合は、この限りではない。

(入学の時期)

第43条 入学の時期は、学年の始めとする。

(入学の資格)

- 第44条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。
- (1) 本学の幼児保育学科を卒業した者
 - (2) 前号と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

- 第45条 専攻科に入学を志願する者は、所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。
- 2 提出の時期、方法及び提出すべき書類については、別に定める。

(入学者の選考)

第46条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第47条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに身元保証書その他の所定の書類を提出するとともに、入学金その他の所定の納入金を納付しなければならない。

2 学長は、教授会の意見を聴いて、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(授業科目)

第48条 専攻科の教育課程は、別表3のとおりとする。

(修了に必要な単位数)

第49条 専攻科の学生は、前条に定めたそれぞれの専攻の授業科目のうちから22単位以上を履修しなければならない。

2 本学幼児保育学科の授業科目を新たに履修した者は、その授業科目を修了単位に加えることができる。

(修了の要件)

第50条 専攻科の教育課程において所定の単位を修得し、下記の学習成果を身につけた者に対し、修了を認定する。

- (1) カトリックの価値観と教養に基づき、広い視野に立って物事を熟考し、自律的に学びを深めていく素養を身につけている。
- (2) 基本的な保育の知識・技術に基づきながら自らの専門性を磨き、実践力を習得するとともに、向上心をもって専門性を探求することができる。
- (3) 子ども、そして子どもを取り巻く環境の多様性について理解し、多角的に考察するための知識および態度を習得している。
- (4) 保育および子どもに関わる諸問題について関心をもち、客観的に課題を整理し説明するための基本的な技術を習得している。
- (5) 保育者に求められるコミュニケーション力および他者と協働して取り組む姿勢を習得している。

(修了)

第51条 前条の修了の要件を満たした者については、学年の途中においても、学期の区分に従い、教授会の意見を聴いて、学長が修了を認定する。

2 学長は、修了を認定した者に対して、修了証書を授与する。

(発達障がい児保育ベーシックプログラム)

第52条 幼児保育学科及び専攻科幼児保育専攻を通して、本学独自の「発達障がい児保育ベーシックプログラム」(以下、この条において「本プログラム」という。)を行う。

2 学長は、本プログラムの履修を終了し、修了試験に合格し、幼稚園教諭2種免許と保育士資格を取得し、かつ専攻科を修了した者に、本プログラムの修了証書を授与する。

3 本プログラムの修了に関する事項の詳細は、別に定める。

(納入金)

第53条 入学検定料、入学金、授業料その他の納入金(以下「納入金」という。)は、別表6のとおりとする。

(準用規定)

第54条 本章に定める以外は、本学学則を準用する。

第9章 指定保育士養成施設

(設置・目的)

第55条 本学に、指定保育士養成施設を置く。本施設は、保育士となる資格の取得を目的とする。

2 本施設は、本学幼児保育学科の2年の教育課程及び専攻科幼児保育専攻の1年の教育課程を加えた3年間の教育課程を持つ施設である。

(名称)

第56条 本施設は、「星美学園短期大学幼児保育学科専攻科幼児保育専攻」と称する。

(修業年限及び在学年限)

第57条 本施設の修業年限は、本学幼児保育学科の2年の教育課程及び専攻科幼児保育専攻の1年の教育課程を加えた3年とする。

2 学生は、学則第7条2項及び第42条に定める範囲で在学することができる。

(学生定員)

第58条 本施設の学生定員は、次のとおりとする。

入学定員	収容定員
100人	300人

(授業の実施)

第59条 本施設で行われる、別表4にある「必修科目」及び「選択必修科目」のうち、実習及び演習科目は、50人以下で実施する。

(他の指定保育士養成施設において履修した単位の認定)

第60条 本施設に入所前及び入所後に他の指定保育士養成施設において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本施設の単位として認定することができる。

(保育士となる資格の取得)

第61条 保育士となる資格を取得しようとする者は、本学幼児保育学科を卒業し、かつ専攻科幼児保育専攻を修了するほか、児童福祉法施行規則第6条の2第1項第3号に基づく所定の授業科目及び単位を、別表4「保育士となる資格取得に必要な授業科目」に規定するとおり修得しなければならない。

(準用規定)

第62条 本章に定める以外は、本学学則を準用する。

第10章 職員組織

(職員組織)

第63条 本学に、学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他必要な職員を置く。

2 職員の職務は、学校教育法の定めるところにより次のとおりとする。

- (1) 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。
 - (2) 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
 - (3) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、研究に従事するとともに、学生を教授し、その研究を指導する。
 - (4) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、研究に従事するとともに、学生を教授し、その研究を指導する。
 - (5) 講師は、教授、准教授に準ずる職務に従事する。
 - (6) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、研究に従事するとともに、学生を教授し、その研究を指導する。
 - (7) 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。
 - (8) その他の職員は、それぞれ所定の職務を行う。
- 3 本学の、学務運営に必要な、職員の学内組織、その内容等に関する事項は、別に定める。

第11章 教授会

(教授会)

第64条 本学に、教授会を置く。

(教授会の構成)

第65条 教授会は、学長、副学長及び専任の教授をもって構成する。

- 2 前項の定めにかかわらず、学長が必要としたときは、学長は、教授会に准教授その他の職員の出席を認めることができる。

(教授会の招集)

第66条 教授会は、学長が招集し、その議長となる。学長に事故があるときは、副学長又は学長があらかじめ指定した教授が、議長となる。

(審議事項)

第67条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了
 - (2) 学位の授与
 - (3) 前2号に掲げるもののほか教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
- 2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について、学長の求めに応じ、意見を述べることができる。
 - 3 学長は、第1項第3号に掲げる事項の具体的な内容を別途細則において定める。

(その他)

第68条 本章に定めるもののほか、教授会についての必要な事項は、別に定める。

第12章 自己評価等

(自己評価等)

第69条 本学は、建学の理念の実現を目指し、本学に求められる社会的要請に応えるために、本学の教育研究活動及び管理運営等を自ら点検・評価し、将来計画に資するものとする。

- 2 前項の点検・評価についての必要な事項は、別に定める。

第13章 長期履修学生、科目等履修生、外国人留学生及び帰国子女、聴講生

(長期履修学生)

第70条 第7条第1項に定める修業年限を超える一定の期間にわたり授業科目を履修することを目的として、本学に入学することを希望する者がいるときは、学長は選考の上、教授会の意見を聴いて、長期履修学生として、入学を許可する。

- 2 長期履修学生に関して必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第71条 本学の学生以外の者で本学の授業科目の履修を希望する者がいるときは、学長は、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、教授会の意見を聴いて、科目等履修生として履修を許可することができる。

- 2 科目等履修生には、この学則第26条及び第27条の規定を準用して単位を与えることができる。
3 科目等履修生についての必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生及び帰国子女)

第72条 外国人留学生及び帰国子女で本学に入学を希望する者がいるときは、学長は、選考の上、教授会の意見を聴いて、入学を許可することができる。

- 2 外国人留学生及び帰国子女についての必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第73条 本学の学生以外の者で本学の特定の授業科目の聴講を希望する者がいるときは、学長は、本学の教育に支障のない限りにおいて選考の上、教授会の意見を聴いて、聴講生として授業への参加を許可することができる。

- 2 聴講生についての必要な事項は、別に定める。

第14章 賞 罰

(表彰)

第74条 学生として表彰に値すると認められる者がいるときは、学長は、教授会の意見を聴いて、表彰することができる。

(懲戒)

第75条 本学の教育の方針並びに学則及びその実施細則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学長は、教授会の意見を聴いて、懲戒することができる。

- 2 前項の懲戒は、退学、停学及び訓戒とする。
3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。
(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
(3) 正当の理由がなく出席常でない者
(4) 本学の秩序を乱した者
(5) 本学の建学の精神に反した者
4 懲戒についての必要な事項は、別に定める。

第15章 公開講座

(公開講座)

- 第76条 本学は、地域文化の向上及び生涯学習に資するため、その必要があると認めるときは、公開講座を開くことができる。
- 2 公開講座についての必要な事項は、別に定める。

第16章 高等学校との連携

(高等学校との連携)

- 第77条 本学は、地域文化や教育水準の向上に資するため、その必要があると認めるときは、特定の高等学校と協定を結んだ上、本学の授業及び公開講座を高校生に受講させることができる。
- 2 高等学校との提携についての必要な事項は、別に定める。

第17章 厚生施設

(厚生施設)

- 第78条 学生の生活を円滑にするための施設として、保健室、学生相談室、学生食堂、学生控室、就職指導室及び生活実習室を置く。
- 2 前項についての必要な事項は、別に定める。

第18章 図書館

(図書館)

- 第79条 本学に、図書館を置く。
- 2 図書館についての必要な事項は、別に定める。

第19章 研究所

(研究所)

- 第80条 本学に、日伊総合研究所を置く。
- 2 日伊総合研究所についての必要な事項は、別に定める。

第20章 研究生

(研究生)

- 第81条 本学の教員の指導を受け、特定分野の研究を希望する者がある場合、当該指導教員に支障がない限りにおいて、学長は、選考の上、研究生として入学を許可することがある。
- 2 研究生についての必要な事項は、別に定める。

第 2 1 章 補 則

(学則の改廃)

第 8 2 条 この学則の改廃は、教授会の意見を聴いて、理事会がこれを決定する。

(実施細目)

第 8 3 条 この学則を実施するために必要な細則は、学長が別に定める。

附 則

- 1 この学則は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。
ただし、第 6 条の収容定員については、令和 7 年 4 月 1 日から 100 人に変更し、令和 8 年 4 月 1 日から 0 人に変更する。

附 則

- 1 令和 8 年 4 月 1 日をもって、幼児保育学科を廃止する。

別表1 幼児保育学科専門教育科目

系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	配当学年		備考	
			必修	選択		1年	2年		
基礎教養	キリスト教学	演習	2		4	1年			
	人間学Ⅰ	演習	1				2年		
	人間学Ⅱ	演習	1			2年			
	基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ イタリア語入門Ⅰ イタリア語入門Ⅱ	演習 演習 演習 演習		1 1 1 1	2	1年 1年 1年 1年			「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」又は「イタリア語入門Ⅰ」「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを選択
聖書学特講 ドン・ボスコ研究 心理学 日本国憲法 情報処理 健康科学 体育実技	講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義 実技		2 2 2 2 2 2 2 1			1年 1年 1年 1年 1年 1年 1年	2年		
教育	教育原理	講義		2	54以上	1年			
	保育者論	講義		2			2年		
	教育方法論	講義		2			1年		
	保育・教育課程論	講義		2			1年		
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2			1年		2年
	特別支援教育総論	講義		2			1年		
	障害者教育総論(知・肢・病)	講義		2			1年		
	重複障害・LD等教育論	講義		2			2年		
	知的障害者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年		
	肢体不自由者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年		
	病弱者教育論(指導法を含む)	講義		1			2年		
視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)	講義		1		2年				
保育	保育原理	講義		2		2年			
	乳児保育Ⅰ	講義		2		2年			
	乳児保育Ⅱ	演習		1		2年			
	障がい児保育Ⅰ	演習		1		2年			
	障がい児保育Ⅱ	演習		1		2年			
	保育内容総論	演習		1		2年			
心理・人間関係	教育相談基礎論	講義		2		1年			
	発達心理学	講義		2		1年			
	子どもの理解と援助	演習		2		2年			
	子ども家庭支援の心理学	講義		1		2年			
	幼児と人間関係	演習		1		2年			
	保育内容の指導法「人間関係」	演習		1		2年			
	知的障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年			
	肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		1		2年			
	病弱者の心理・生理・病理	講義		1		2年			
	自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義		1		1年			
	自閉スペクトラム症者の支援	講義		1		1年			
視覚障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年				
聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年				
言葉	幼児と表現(言葉)	演習		1		1年			
	幼児と言葉(国語表現を含む)	演習		1		1年			
	保育内容の指導法「言葉」	演習		1		2年			
福祉	社会福祉論	講義		2		2年			
	子ども家庭福祉	講義		2		2年			
	子ども家庭支援論	講義		2		2年			
	子育て支援	演習		1		2年			
	社会的養護Ⅰ	講義		2		2年			
社会的養護Ⅱ	演習		1		2年				
環境	保育内容の指導法「環境」	演習		1		1年			
表現(音楽)	音楽基礎演習Ⅰ	演習		1		1年			
	音楽基礎演習Ⅱ	演習		1		1年			
	幼児と表現(音楽)Ⅰ	演習		2		1年			
	幼児と表現(音楽)Ⅱ	演習		1		2年			
	幼児と表現(音楽)Ⅲ	演習		1		1年			
	保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅰ	演習		1		1年			
	保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅱ	演習		1		2年			
表現(造形)	幼児と表現(造形)Ⅰ	演習		1		2年			
	幼児と表現(造形)Ⅱ	演習		1		2年			
	保育内容の指導法「表現(造形)」	演習		1		1年			
健康	幼児と健康Ⅰ	演習		1		1年			
	幼児と健康Ⅱ	演習		1		2年			
	保育内容の指導法「健康」	演習		1		2年			
	子どもの保健	講義		2		2年			
	子どもの健康と安全	演習		2		2年			
	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1		2年			
	子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1		2年			
情報	教育情報学	講義		1		1年			
教育実習	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)	実習		5		1年	2年	幼稚園二種免許状取得に必要な授業科目	
	特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)	実習		3		2年		特別支援学校教諭二種(知的・肢体・病弱者)免許状取得に必要な授業科目	
保育実習	保育実習Ⅰ(保育所)	実習		2		2年		保育士資格取得に必要な授業科目	
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	演習		1		2年			
キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習	2		4	1年			
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習	2			2年			
小 計			9	104	64以上				
合 計			113						

別表2 教職に関する専門教育科目
幼稚園教諭2種免許状取得に必要な授業科目

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		資 格 取 得 必 要 単 位 数	
		必 修	選 択 必 修		
施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法 体育実技 健康科学 基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ イタリア語入門Ⅰ イタリア語入門Ⅱ 情報処理	講義 実技 講義 演習 演習 演習 演習 講義	2 1 1 2	1 1 1 1 1	8
領域及び保育内容の指導法に関する科目	幼児と健康Ⅰ 幼児と健康Ⅱ 幼児と人間関係 幼児と言葉(国語表現を含む) 幼児と表現(音楽)Ⅰ 幼児と表現(造形)Ⅰ 幼児と表現(造形)Ⅱ	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	1 1 1 1 2 1 1		16
	保育内容総論 保育内容の指導法「健康」 保育内容の指導法「人間関係」 保育内容の指導法「環境」 保育内容の指導法「言葉」 保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅰ 保育内容の指導法「表現(音楽)」Ⅱ 保育内容の指導法「表現(造形)」	演習 演習 演習 演習 演習 演習 演習	1 1 1 1 1 1 1		
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理 保育者論 発達心理学 特別支援教育総論 保育・教育課程論	講義 講義 講義 講義 講義	2 2 2 2 2		10
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育方法論 教育情報学 教育相談基礎論	講義 講義 講義	2 1 2		5
教育実践に関する科目	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む) 保育・教職実践演習(幼稚園)	実習 演習	5 2		7
小 計			44	4	46
合 計			48		

特別支援学校教諭(知的障害・肢体不自由・病弱)2種免許状取得に必要な授業科目

免許法施行規則に定める科目区分	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		資 格 取 得 必 要 単 位 数
			必 修	選 択	
特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育総論	講義	2		2
特別支援教育領域に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理	講義 講義 講義	1 1 1		8
	知的障害者教育論(指導法を含む) 肢体不自由者教育論(指導法を含む) 病弱者教育論(指導法を含む)	講義 講義 講義	1 1 1		
	障害者教育総論(知・肢・病)	講義	2		
免許状に定められることとなる特別支援教育以外の領域に関する科目	視覚障害者の心理・生理・病理 聴覚言語障害者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義 講義 講義	1 1 1		7
	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む) 自閉スペクトラム症者の支援	講義 講義	1 1		
	重複障害・LD等教育論	講義	2		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)	実習	3		3
小 計			20	0	20
合 計			20		

別表3 専攻科 幼児保育専攻専門教育科目

区別	授 業 科 目	授業 形態	単位数		修了要件
			必修	選択必修	
教養・ キャリア	人格論	講義	4		6
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2		
幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	演習	2		4
	卒業研究	演習	2		
	特別演習A	演習		1	12 以上
	特別演習B	演習		1	
	特別演習C	演習		1	
	特別演習D	演習		1	
	特別演習E	演習		1	
	特別演習F	演習		1	
	特別演習G	演習		1	
	特別演習H	演習		1	
	特別演習I	演習		1	
	特別演習J	演習		1	
	特別演習K	演習		1	
	特別演習L	演習		1	
	特別演習M	演習		1	
	特別演習N	演習		1	
	特別演習O	演習		1	
	特別演習P	演習		1	
	特別演習Q	演習		1	
	特別演習R	演習		1	
特別演習S	演習		1		
特別演習T	演習		1		
特別演習U	演習		1		
特別演習V	演習		1		
特別演習W	演習		1		
特別演習X	演習		1		
保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1	
	子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1	
	社会的養護Ⅰ	講義		2	
	社会的養護Ⅱ	演習		1	
	子育て支援	演習		1	
	保育実習Ⅰ（施設）	実習		2	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習		1	
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1	
	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）	実習		2	
保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）	演習		1		
資格必修	ベビーシッター論	講義		2	
	発達障がい児指導法演習	演習		2	
小 計			10	43	22 以上
合 計			53		

別表4 保育士となる資格取得に必要な授業科目
必修科目

告示別表第1による教科目		授業科目	授業形態	単位		資格取得必要単位数	時間数	指定保育士養成施設		
系列	教科目			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年
保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義・2単位）	保育原理	講義	2		54	30		2年	
	教育原理（講義・2単位）	教育原理	講義	2			30	1年		
	子ども家庭福祉（講義・2単位）	子ども家庭福祉	講義	2			30		2年	
	社会福祉（講義・2単位）	社会福祉論	講義	2			30		2年	
	子ども家庭支援論（講義・2単位）	子ども家庭支援論	講義	2			30		2年	
	社会的養護Ⅰ（講義・2単位）	社会的養護Ⅰ	講義	2			30		2年	専攻科
	保育者論（講義・2単位）	保育者論	講義	2			30		2年	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学（講義・2単位）	発達心理学	講義	2		30	1年			
	子ども家庭支援の心理学（講義・2単位）	子ども家庭支援の心理学	講義	2		30		2年		
	子どもの理解と援助（演習・1単位）	子どもの理解と援助	演習	1		30	1年			
	子どもの保健（講義・2単位）	子どもの保健	講義	2		30		2年		
	子どもの食と栄養（演習・2単位）	子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅱ	演習 演習	1 1		30 30		2年 2年	専攻科 専攻科	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価（講義・2単位）	保育・教育課程論	講義	2		30	1年			
	保育内容総論（演習・1単位）	保育内容総論	演習	1		30		2年		
	保育内容演習（演習・5単位）	保育内容の指導法「健康」	保育内容の指導法「健康」	演習	1		30	1年	2年	
		保育内容の指導法「人間関係」	保育内容の指導法「人間関係」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「環境」	保育内容の指導法「環境」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「言葉」	保育内容の指導法「言葉」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「表現(造形)」	保育内容の指導法「表現(造形)」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」	演習	1		30			
		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」	演習	1		30			
	保育内容の理解と方法（演習・4単位）	幼児と健康Ⅰ	幼児と健康Ⅰ	演習	1		30	1年	1年	2年
		幼児と言葉(国語表現を含む)	幼児と言葉(国語表現を含む)	演習	1		30			
		幼児と表現（音楽）Ⅰ	幼児と表現（音楽）Ⅰ	演習	2		60			
		幼児と表現（造形）Ⅰ	幼児と表現（造形）Ⅰ	演習	1		30			
	乳児保育Ⅰ（講義・2単位）	乳児保育Ⅰ	講義	2		30		2年		
乳児保育Ⅱ（演習・1単位）	乳児保育Ⅱ	演習	1		30		2年			
子どもの健康と安全（演習・1単位）	子どもの健康と安全	演習	1		30		2年			
障害児保育（演習・2単位）	障がい児保育Ⅰ	障がい児保育Ⅰ	演習	1		30		2年		
	障がい児保育Ⅱ	障がい児保育Ⅱ	演習	1		30		2年		
社会的養護Ⅱ（演習・1単位）	社会的養護Ⅱ	演習	1		30		2年	専攻科		
子育て支援（演習・1単位）	子育て支援	演習	1		30		2年	専攻科		
保育実習	保育実習Ⅰ(実習・4単位：保育所実習2単位・施設実習2単位)	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2		70 (◎)		2年		
		保育実習Ⅰ（施設）	実習	2		70 (◎)			専攻科	
	保育実習指導Ⅰ（演習・2単位）	保育実習指導Ⅰ(保育所) 保育実習指導Ⅰ（施設）	演習 演習	1 1		30 30		2年	専攻科	
総合演習	保育実践演習（演習・2単位）	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2		30		2年		
合 計				54	0	54	1250			

(◎)「保育実習Ⅰ（保育所）」及び「保育実習Ⅰ（施設）」における実習日数（時間数）は10日（70時間）以上

選択必修科目

告示別表第2による教科目		授業科目	授業形態	単位		資格取得必要単位数	時間数	指定保育士養成施設		
系列	教科目			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	特別支援教育総論 障害者教育総論(知・肢・病) 重複障害・LD等教育論	講義		2	6以上	30	1年		
			講義		2		30	1年		
保育の対象の理解に関する科目	15単位以上	教育相談基礎論 幼児と人間関係 幼児と健康Ⅱ 知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理 自閉スペクトラム症者の支援 視覚障害者の心理・生理・病理 聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義	1	2		30			2年
			演習		1		30			2年
			演習		1		30			2年
			講義		1		15			2年
			講義		1		15			2年
			講義		1		15	1年		2年
			講義		1		15	1年		2年
			講義		1		15			2年
			講義		1		15			2年
			講義		1		15			2年
保育の内容・方法に関する科目	15単位以上	教育方法論 教育情報学 幼児と表現(音楽)Ⅱ 幼児と表現(音楽)Ⅲ 幼児と表現(造形)Ⅱ	講義	2			30	1年		
			講義		1		15	1年		
			演習		1		30			2年
			演習		1		30			2年
			演習	1			30			2年
保育実習	2単位	保育実習Ⅱ(保育所) 保育実習Ⅲ(保育所以外の施設) 保育実習指導Ⅱ又はⅢ(保育所) 保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)	実習		2	2	70(◎)			専攻科
			実習		2	(※)	70(◎)			専攻科
			演習 演習		1 1	1 (※)	30 30			専攻科 専攻科
合 計		18単位以上	合 計		4	25	9以上	620		

(※)「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを選択必修
 (◎)「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」における実習日数(時間数)は10日(70時間)以上

教養科目

告示による教科目		授業科目	授業形態	単位		資格取得必要単位数	時間数	指定保育士養成施設			
系列	教科目			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年	
教養科目	外国語、体育以外の科目	キリスト教学	演習	2			60	1年			
		人間学Ⅰ	演習	1			30		2年		
		人間学Ⅱ	演習	1			30		2年		
		聖書学特講	講義		2	6以上	30	1年			
		ドン・ボスコ研究	講義		2		30	1年			
		心理学	講義		2		30	1年			
		日本国憲法	講義		2		30		2年		
		情報処理	講義		2		30	1年			
		外国語	基礎英語Ⅰ 基礎英語Ⅱ イタリア語入門Ⅰ イタリア語入門Ⅱ	演習		1		30	1年		
				演習		1	2	30	1年		
演習				1		30	1年				
演習				1		30	1年				
体育	健康科学 体育実技	講義	1			15	1年				
		実技	1		2	30	1年				
合 計			6	14	10以上	435					

本学独自の科目

告示による教科目	授業科目	授業形態	単位		資格取得 必要単位数	時間数	指定保育士養成施設		
			必修	選択			第1学年	第2学年	第3学年
保育士資格取得教科目でないが、 学校独自の科目として開講された いる教科目	人格論	講義	4		14	60	1年	2年	専攻科
	卒業研究ゼミナール	演習	2			60			専攻科
	卒業研究	演習	2			—			専攻科
	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習	2			60			
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習	2			60			
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2			60			
	特別演習 A	演習		1	6 以上	30			専攻科
	特別演習 B	演習		1		30			専攻科
	特別演習 C	演習		1		30			専攻科
	特別演習 D	演習		1		30			専攻科
	特別演習 E	演習		1		30			専攻科
	特別演習 F	演習		1		30			専攻科
	特別演習 G	演習		1		30			専攻科
	特別演習 H	演習		1		30			専攻科
	特別演習 I	演習		1		30			専攻科
	特別演習 J	演習		1		30			専攻科
	特別演習 K	演習		1		30			専攻科
	特別演習 L	演習		1		30			専攻科
	特別演習 M	演習		1		30			専攻科
	特別演習 N	演習		1		30			専攻科
	特別演習 O	演習		1		30			専攻科
	特別演習 P	演習		1		30			専攻科
	特別演習 Q	演習		1		30			専攻科
	特別演習 R	演習		1		30			専攻科
	特別演習 S	演習		1		30			専攻科
	特別演習 T	演習		1		30			専攻科
	特別演習 U	演習		1	30			専攻科	
	特別演習 V	演習		1	30			専攻科	
	特別演習 W	演習		1	30			専攻科	
	特別演習 X	演習		1	30			専攻科	
	幼児と表現（言葉）	演習		1	30		1年		
	音楽基礎演習Ⅰ	演習		1	30		1年		
	音楽基礎演習Ⅱ	演習		1	30		1年		
ベビーシッター論	講義		2	30				専攻科	
発達障がい児指導法演習	演習		2	60				専攻科	
小 計			14	31	20	1200			
合 計			45		以上				

別表5 幼児保育学科の入学検定料、入学金、授業料その他の納入金

入学検定料	35,000円	
	日本国外で実施する場合は、別に定める。	
入 学 金	240,000円	入学手続き時納入
授 業 料	720,000円	年額
教育充実費	240,000円	年額
設備充実費	150,000円	年額 *設備充実費は、完納している留年者からは徴収しない。
*その他納入金には次の項目も含まれる。 各種資格取得料、実習費、個別教材費、科目等履修料、聴講料 *長期履修学生の納入金は、「長期履修学生規程」によって定める。		

別表6 専攻科の入学検定料、入学金、授業料その他の納入金

幼児保育専攻

入学検定料	15,000円	*幼児保育学科からの入学者には、入学検定料及び入学金を免除する。
入 学 金	150,000円	入学手続き時納入
授 業 料	660,000円	年額
教育充実費	240,000円	年額
設備充実費	150,000円	年額 *設備充実費は、完納している留年者からは徴収しない。
資格取得料	45,000円	*資格取得料は、保育士資格取得希望者のみ徴収する。

第2章 履修に関すること

1 2026年度 学事曆

－ 前期 －

日	曜	
2026年 4 月		
1	水	前期開始
6	月	前期講義開始
5 月		
24	日	学園創立記念日
7 月		
27	月	定期試験期間開始
31	金	定期試験期間終了 前期講義終了
8 月		
3	月	前期補講・追試験・再試験期間開始
7	金	前期補講・追試験・再試験期間終了
8	土	夏季休業開始（9月15日まで）
9 月		
15	火	夏季休業終了 前期終了

－ 後期 －

日	曜	
9 月		
16	水	後期開始 後期講義開始
12 月		
23	水	定期試験期間開始
24	木	講義終了
25	金	クリスマス（休業日） 冬季休業開始（1月5日まで）
2027年 1 月		
5	火	冬季休業終了
6	水	講義開始
19	火	定期試験期間終了 後期講義終了
20	水	後期補講・追試験・再試験期間開始
26	火	後期補講・追試験・再試験期間終了
30	土	春季休業開始（3月31日まで）
3 月		
13	土	修了式・閉学式
31	水	春季休業終了 後期終了

2 履修の手引き

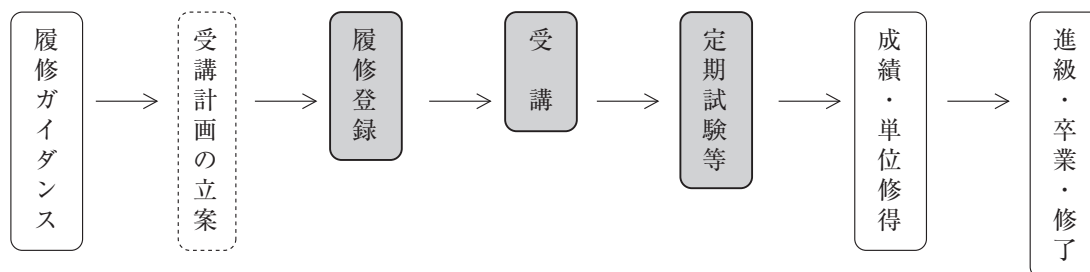
1 授業科目の構成

本学で開設されている授業科目は、次のように分けられる。

- 専門教育科目
 - ・幼児保育学科専門教育科目
 - ・専攻科幼児保育専攻専門教育科目
- 資格取得に関する専門教育科目
 - ・教職課程（幼稚園教諭二種、特別支援学校教諭二種）専門教育科目
 - ・保育士養成課程専門教育科目
 - ・社会福祉主事任用課程専門教育科目
 - ・ピアヘルパー資格課程専門教育科目
 - ・認定ベビーシッター資格課程専門教育科目
 - ・准学校心理士資格課程専門教育科目
 - ・発達障がい児保育ベーシックプログラム専門教育科目
- 他大学で履修し、本学において認定された科目

2 学習のしくみと卒業までの計画

(履修のしくみ)



3 授業の実施

- 授業は前期（15週）・後期（15週）の2学期に分けて実施される。前・後期あわせて30週をもって1学年となる。なお、教育実習・保育実習の期間は、含まれない。
- 授業科目は、前期に開講される〈前期科目〉、後期に開講される〈後期科目〉、および前・後期にわたって開講される〈通年科目〉に分けられる。前期科目および後期科目を、一括して〈半期科目〉と称する場合がある。なお、半期の半分の回数（8週）で開講する科目もある。
- 各期の末には試験等が実施され、成績評価が行われる（通年科目は、後期の末に、前・後期を通じての成績が評価されることになる）。なお、定期試験は、授業回数に含まれない。
- 各期の開講科目は、毎週の時間割のほかに、土曜日または休暇中に集中講義が設定される場合がある。なお、曜日によっては開講科目が、15週に満たない場合、他の曜日に振り替えて開講される場合がある。また、祝日に授業を行う場合がある。
- 履修登録者が5名以下の場合、授業維持困難とみなし、その年度は当該科目を開講しない場合がある。

4 科目と単位数

科目には、それぞれ単位数が定められている。

単位とは、一定の水準の学習をどれだけ行ったか、その量を示す基準である。

具体的には、**45時間の学習が1単位**と定められている。

学習時間は、実際に教室で講義に臨んだ時間（90分）のほか、教室外において、関連する読書を重ねたり、課せられたレポート・論文を書くこと、講義内容について考察を重ねるなどの予習・復習の自主学習の時間が含まれる。

科目は、〈講義〉〈演習〉〈実技、実習等〉の3種類に分けられる。それぞれの特性によって、しかるべき単位数が定められている。

各科目の単位の計算方法は、次の表の通りである。

単位の計算方法

● 1単位の学習時間：45時間

授業形態	単位数	学習時間	授業回数	開講期	教室内	教室外 (自主学習)	実習
講義・演習	4	180時間	30	通年	2時間 (90分)	4時間 (180分)	—
	2	90時間	15	半期			
	1	45(48)時間	8	1/4期			
	2	90時間	30	通年	2時間 (90分)	1時間 (45分)	
	1	45時間	15	半期			
実習・実技	1	45時間	15	半期			
教育実習	5	45時間+ 4週間	15～23	—	2時間 (90分)	—	4週間
	3	45時間+ 2週間					2週間
保育実習	2	88時間	—	—	—	—	11日
		70時間 (2024年度以降 入学生に適用)	—	—	—	—	10日 (2024年度以降 入学生に適用)

学習時間を図で示すと、例えば、次の通りである。

※「講義・演習科目」（2単位・半期）の場合の学習時間

$$2 \text{ 単位} = 90 \text{ 時間の学習} \left[\begin{array}{cc} \text{教室内} & \text{教室外 (自主学習の時間)} \\ \hline 2 \text{ 時間 (90分)} & 4 \text{ 時間 (180分)} \end{array} \right] \times 15 \text{ 回}$$

※「講義・演習・実習・実技科目」（1単位・半期）の場合の学習時間

$$1 \text{ 単位} = 45 \text{ 時間の学習} \left[\begin{array}{cc} \text{教室内} & \text{教室外 (自主学習の時間)} \\ \hline 2 \text{ 時間 (90分)} & 1 \text{ 時間 (45分)} \end{array} \right] \times 15 \text{ 回}$$

5 必修科目と選択必修・選択科目

- 1 〈必修科目〉とは、卒業するためには、その科目の単位を修得することが必須とされている科目をさす。
- 2 〈選択必修科目〉とは、2科目以上の複数科目群の中から、規定の単位数を修得することが必要とされている科目をさす。
- 3 〈選択科目〉とは、開設されている科目（群）の内から自由に選択をして、単位を修得する科目をさす。

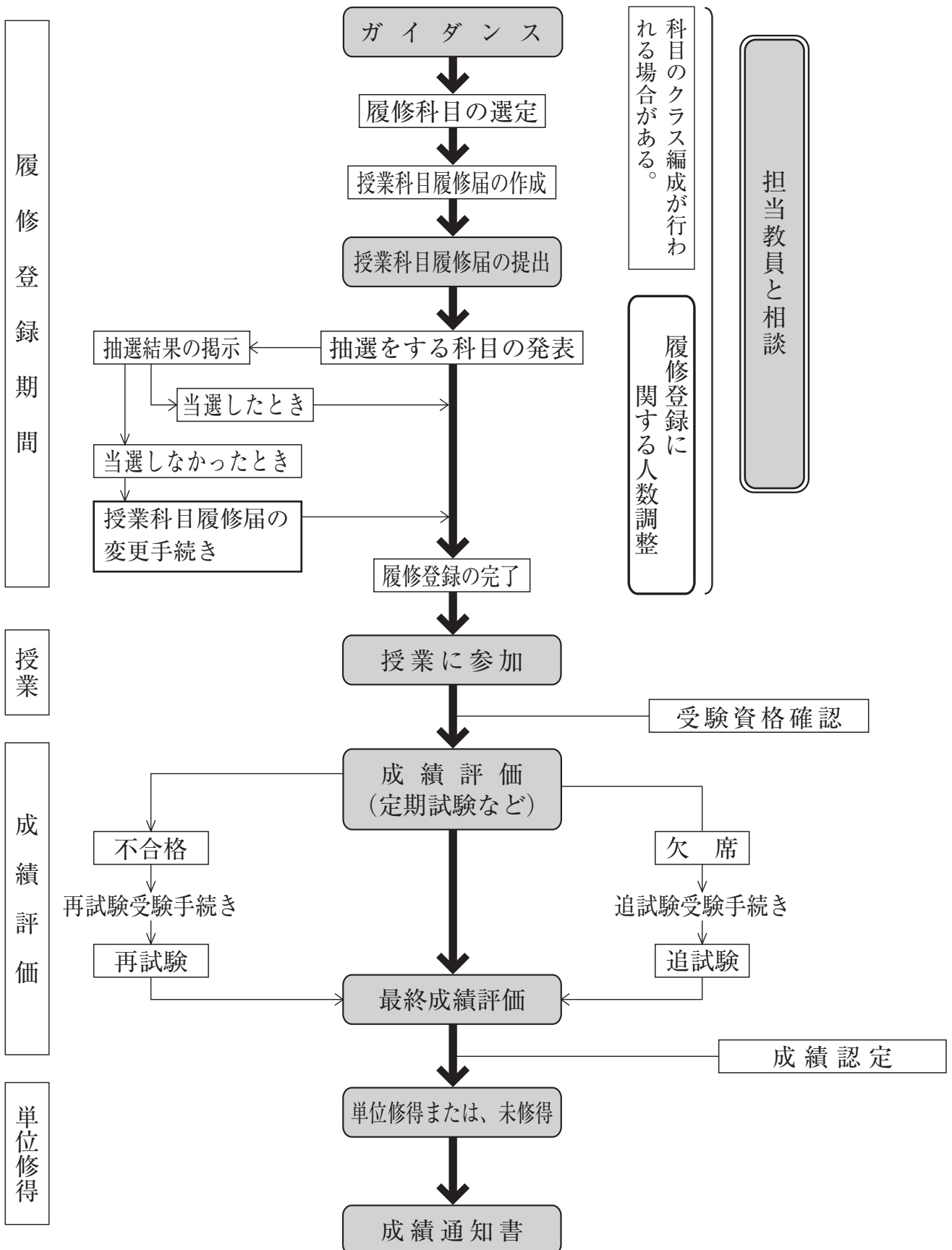
6 単位の修得

科目を履修し、単位を修得するためには、次の各項のいずれも欠けてはならない。

- 1 科目について、定められた方式によって履修登録を行う。
 - 2 履修登録を行った科目の授業に出席する。
 - 3 定期試験の受験、もしくはレポート等の提出を行うなど、定められた方法によって、合格の評価を得る。
 - 4 専攻科幼児保育専攻においては、「卒業研究」を定められた方法によって提出し、合格の評価を得る。
- ※ 履修ガイダンスから単位修得までの概要を、次ページに図示した。

(1) 履修登録

【履修ガイダンスから単位の修得まで】



履修登録について

【履修ガイダンス】

履修に関するガイダンスが開催される。授業科目の履修方法、履修の手続き等について具体的な指示があるので、必ず出席しなければならない。

【履修科目の登録】

「授業科目履修届」に、本年度（前期、後期、通年）履修するすべての科目を登録すること。

1. 諸届の提出窓口は、すべて、教務課である。原則として、本人が提出する。
2. 履修届提出期間中は、履修登録の追加を認める。ただし、取り消しをすることはできない。
3. 履修届提出締切以降は、原則として変更を認めない。
4. 後期の講義開始前に、履修登録確認期間が設定される。
5. 後期履修登録確認期間が実習と重なっている場合には、別途日程を提示する。
6. 具体的な日程については、「年間行事予定」を参照すること。また、日程や受付時間については、掲示により変更が発表されることがあるので、注意すること。

履修登録の責任

履修登録は、学生各自の計画のもとに、一人ひとりの責任によって行われる。定められた期間中に履修登録をしなかった科目については、成績・単位は与えられない。

したがって、登録の誤りのために、その年度に卒業ができなくなることもある。各アシスタントおよび担当教員は、履修計画の立案の際に助言を与えるが、登録についての責任は本人が負うものであるので、慎重に手続きを行うことが必要である。

資格の取得を希望する場合

各種の資格取得を希望する学生は、資格取得に関する専門教育科目を履修しなければならない。

CAP制度

本学では、単位制度を実質化し、学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く真に身につけることを目的とし、「CAP制度」を導入している。

「CAP制度」とは、単位の過剰登録を防ぐため、1年間または1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度をいう。

本学では、履修登録上限単位を、1年間で50単位と定めている。

対象となる科目は、卒業要件に算入できる科目であるが、以下の場合は、上限を超えて履修登録を認めている。

- ①所定の単位を優れた成績をもって修了したとき
- ②免許・資格取得を前提に、必要な授業科目を履修するとき

他学年の科目の履修

他学年向けの科目の受講を希望する場合には、当該科目の担当教員の承諾が必要である。
このときも、履修登録と受講については、前項と同様である。

重複登録の禁止

同一の時限に開講される複数の科目に対して、同時に履修登録を行うことはできない。

人数調整を行う科目

専門教育科目の基礎教養系列科目において、教室の大きさや授業運営の都合などにより、受講人数を制限する必要がある科目がある。

専門教育科目の基礎教養系列科目の選択科目において、登録者が多数にのぼる場合、人数調整が行われる。
最終的には、抽選による調整を行う。

抽選の結果を無視して、履修登録をすることはできない。あえて履修登録を申請したものは、当該科目についての登録は無効となる。

【抽選による人数調整について】

抽選を行う科目の履修登録の手順は、以下のとおりである。

[基礎教養系列の科目]

- 1 人数調整は、教務課において行われる。
 - 2 抽選結果の発表（掲示による）
- ※ 当選した場合は、当初の登録のとおり履修が認められる（特に手続きは必要ない）。
 - ※ 当選せず、科目を変更しなければならなくなった場合は、すみやかに登録の変更を行う。
この登録を怠ると、科目の履修は認められないことになる（教務課の指示に従う）。

[基礎教養系列以外の科目]

人数調整は、学科において行われる。

登録確認期間

登録期間中、学生は常に『学生要覧・講義要項』、「授業科目履修届」のコピー、成績表を携帯しておくこと。

○登録確認期間に訂正できることは、次のとおりである。

- ①資格等に係わる科目の追加登録
- ②重複登録の場合の訂正
- ③卒業・修了単位が足りない場合の追加登録

○後期登録確認期間には、次の各項の手続きができる。

- ①資格に係わる科目の追加登録
- ②卒業・修了単位が足りない場合の追加登録
- ③条件付科目の取り下げ

他大学等で修得する単位

本学入学前に、他大学において修得した単位は、15単位を限度として、認められる。

他大学等において修得した単位は、「単位修得証明書」を、ガイダンス時に教務課に提出する。

なお、他大学で単位を修得する必要がある場合、アシスタントおよび教務課に相談の上、手続きを進める。

(2) 授業への参加

出席

- 学生は、履修登録を行った科目の授業に参加することができる。
- 各授業において、各科目の担当教員が出欠を確認する。教務課職員が、これを補助する場合がある。
- 履修登録を行った科目について、原則として各科目開講回数の3分の2以上の出席が満たされると、その科目の定期試験の受験資格および単位修得資格を得ることができる。
半期科目……各期における開講回数の3分の2以上の出席を要する。
通年科目……各期、あるいは通年における開講回数の3分の2以上の出席を要する。

欠席

- 欠席は、本人の落ち度ではなく、やむを得ない事情によるものも含む。
※やむを得ない事情：本人の病気・けが、交通機関の障害・不通、気象警報発令の場合、忌引き、就職試験、実習
- 履修登録を行った科目の授業に欠席し、出席回数が開講回数の3分の2に満たない時、学生はその科目の定期試験の受験資格および単位修得資格を失う。例えば、15回授業を5回欠席し、遅刻または早退を1回した場合、定期試験の受験資格および単位修得資格を失う。遅刻・早退の回数が、合わせて3回になった時、1回の欠席回数として計上する。
※ただし、やむを得ない事情での欠席等は、担当教員により、しかるべき処置をとる場合がある。
- 3回欠席すると、科目担当教員から学科のアシスタントへ連絡が入る場合がある。
- 病気等により長期の欠席が見込まれる場合には、すみやかにアシスタント、クラスアドバイザーに相談し、しかるべき処置をとる。
- インフルエンザ等「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に定められている感染症により欠席する場合は、必ず医療機関による診断を受け、本学が指定する「学校感染症による出席停止届」（本学のWebサイトからダウンロード可）または医師の診断書を、登校できるようになった時点で、教務課に提出する。

遅刻

- 授業開始に遅れ、授業開始から15分までに入室した場合、遅刻とみなされる。
15分を越えた後に入室した場合、その科目は欠席とみなされる。
- 遅刻した際、学生はその授業の終了時まで必ず担当教員に申告をし、確認すること。
- 交通機関の事故等の事情のために遅刻した場合には、登校後、教務課窓口で、交通路線及び遅延時間を記入した「遅延証明書」（電子版を含む）を提出あるいは提示し、「遅刻届」に必要事項を記入し、担当教員に提出すれば、30分以内の入室を遅刻扱い、30分を超えて到着の場合は欠席扱いとなる。
ただし、恒常的な交通渋滞による遅延はその限りではなく、遅刻とされる。

早退

- 事情により授業終了時より15分前から退室する場合を、早退とする。
- 早退を希望する学生は、事前に早退する科目の担当教員に申し出て、許可を得なければならない。

忌 引

○忌引は、出席扱いにならないが、近親者の死去により、欠席をした場合は、会葬案内・礼状等の葬祭業者等が発行する書類に本人との続柄を明記し、教務課に提出すること。

【忌引の範囲】

1 等親 両親・・・・・・・・・・・・・・ 7日間

2 等親 祖父母・兄弟姉妹・・・・・・・・ 3日間

3 等親 伯（叔）父母、曾祖父母・・ 1日間

○日数は死去した日、または葬儀の日から連続して数え、本学の休日（休業日）も忌引日数に含めて数える。ただし、遠距離の場合、移動日数を考慮することもある。

大規模な交通機関にトラブルが発生した場合

大規模な交通機関の事故、あるいは台風・地震等による災害により、首都圏の JR 線および大手私鉄線が広範に運行を停止されることが予想される場合、前日までに、メール連絡ツール「イーパ (e-pa)」あるいは本学 Web サイトにて、授業の有無と実施、形態の連絡を行う。

また、当日早朝、首都圏の JR 線および大手私鉄線の運行が広範に停止された場合、午前 6 時を過ぎても交通機関が復旧されないときは、全日「遠隔授業」とする。

※なお、交通機関の復旧時間については、テレビ・ラジオ等による報道を基準とする。

※遠隔授業の実施については、各授業担当教員の指示に従うこと。

気象警報発令の場合

（通常授業期間内）

「東京都 23 区全域」に、気象警報「大雨（土砂災害、浸水害）」「暴風」「暴風雪」「大雪」、特別警報「大雨（土砂災害、浸水害）特別警報」、「暴風特別警報」「暴風雨特別警報」「大雪特別警報」のいずれかが発表され、翌日も警報が解除される見込みがない場合、前日までに、メール連絡ツール「イーパ (e-pa)」あるいは大学 Web サイトにて、授業の有無と実施、形態の連絡を行う。

※特別警報が発表された場合は、住んでいる地域が数十年に一度の、これまでに経験したことのないような、重大な危険が差し迫った異常な状態にあるため、ただちに地元市町村の避難情報に従うなど、適切な行動をとること。

注 1) 情報の入手方法（必ず各自で確認すること。）

気象庁サイト（ホームページ <http://www.jma.go.jp/>）

気象庁トップページ → 「気象警報・注意報」をクリック → 府県に「東京都」を選択

→ 「発表状況一覧」をクリック → 23 区西部・東部の全域に「警報」または「特別警報」が出ているか確認する。

注 2) 原則として、本学への電話による問い合わせはしない。

遠隔授業

○遠隔授業の形態

①課題提出型

学生が対面式授業で配布された、授業科目の教材・課題のプリントをもとに自宅学習を行い、期日までに、授業担当教員に提出物（レポート制作物等）を提出する方法。

②オンデマンド型

授業担当教員がインターネットツールを利用し、学生に直接、Google Classroom、メール連絡ツール「イーパ (e-pa)」等により提示した課題、講義録画ビデオを作成した上で配信した授業内容を学生が見て、課題に取り組む方法（Google Classroom、イーパ (e-pa)、YouTube 等）。

③同時双方向型

時間割に基づき、リアルタイムで教員がインターネットツールを用いて配信を行い、各学生もパソコンやスマートフォンでインターネットに接続し、双方向で授業を行う方法。（Google Meet 等）。

※祭日の授業や土曜日の補講は、「課題提出型」または「オンデマンド型」の組み合わせで行われる。
※「同時双方向型」の授業は、個別指導等、必要に応じて行われる。

○注意事項

- ・授業担当者から指示があるまでは、Google Classroom から退室しないこと。
成績評価が確定する前に課題を削除すると「欠席扱い」となる。
- ・遠隔授業の課題には、真摯に取り組むこと。白紙は「欠席扱い」となる。

実習期間中の授業

- 実習期間中（幼稚園教育実習、保育実習等）の授業は基本的には実施せず、授業回数 15 回を確保するために、補講日に授業が実施されるか、あるいは、「土曜日補講授業」が実施される。但し、8 回授業等で授業回数を確保できない場合は、実習期間中に授業相当の課題が課される。
- 実習期間が変更になり、授業を受けられなかった学生のためには、授業相当の課題が課される。その課題を提出することにより「出席扱い」となるが、課題を提出しない場合は「欠席」となる。
- 「特別支援学校教育実習」の「見学実習」は、「実習扱い」となる。

生成 AI の取り扱いについて

- 各授業科目において、担当教員が生成 AI の利用を許可する場合には、担当教員が示す方針のもと利用すること。特にレポートや課題で生成 AI を利用した場合には、どの部分でどのように利用したのかを明示すること（例：利用範囲、利用目的、生成 AI ツール名称、入力したプロンプトや出力日時等）。
- 生成 AI から得た情報の元となる情報はどこから発信されたものか、その情報源は信頼できるものか、自分で確かめる努力をすること。
- 各授業科目において、担当教員が生成 AI の利用を許可しない場合には、生成 AI を利用することは認められない。生成 AI を利用したことが判明した場合は、学習成果として認められず、ペナルティが課せられる。

(3) 試験

定期試験

- 1 前期・後期の授業終了時期に行われる試験を、「定期試験」という。
- 2 定期試験では筆記試験のほかに、小論文、レポート、作品の提出、実技・実習等によって成績評価が行われる場合がある。
- 3 試験は、授業期間の中で実施されることがある。
- 4 定期試験の実施日程、時間割は掲示等により発表する。質問等があれば、担当教員または、教務課に直接確認すること。
- 5 以下に該当する場合には、定期試験を受験することができない。

【定期試験の受験資格】

- ①当該科目の履修登録がなされていないとき。
- ②欠席回数が規定を越えたなどの理由により、授業に参加したと認定されないとき。
(欠席等についての詳細な規定は、別項「(2) 授業への参加」を参照すること。)
- ③教授会において、受験資格が認められなかったとき。
- ④授業料の納入が完了していないとき。
(受験後、受験資格が認められなかった場合は、その試験は無効となる。)

定期試験を受験する際の注意

【筆記試験についての注意事項】

- 1 試験の実施に関する諸伝達（日程、試験場、時間割、試験時間など）は、担当教員より掲示やメール連絡網などをもって行う。
- 2 定期試験開始後に、試験場を途中で退出することは認められない。やむを得ない事情で退出する場合は、退出後に試験場に戻ることはできない。
- 3 試験中に机の上に置くことができるものは、筆記用具（ペンケースは不可）のみである。その他の物は、かばんの中にしまっておくこと。
- 4 各種携帯端末等の電源を切り、かばんの中にしまっておくこと。携帯端末を時計として使用することはもちろん、机の上に置くことも認められない。
- 5 試験中は、教員、試験監督の指示に従う。
- 6 次の場合には、教員、試験監督より試験場から退場することが命じられ、答案は無効となる。
 - ①不正行為が発見されたとき。
他者の答案、試験の内容に関する事柄を記入した紙片や携帯電話等を見て、自分の答案用紙に書き写したことが認められたとき、また、試験の内容に関する事柄を記入した紙片や携帯電話等が、机上または身辺に発見されたとき、指示された持ち込み物以外のものを持ち込んだときは、不正行為とみなされる。
 - ②私語、不正な態度について、注意を受けても改めないとき。
 - ③教員、試験監督の指示に、ただちに従わないとき。
- 7 試験に際し、不正行為があった場合は、学則第75条により懲戒処分が行われる。あわせて、当該科目の成績は抹消される。
- 8 病気等やむを得ない事情がないにもかかわらず、試験に欠席した場合は、筆記試験は、0点となる。
- 9 試験開始後15分を越えて遅刻した場合、欠席と見なされ、原則としてその試験を受験することはできない。(追試験・再試験の場合も同様とする。)
ただし、交通機関のトラブル等により遅刻した場合は、通常の授業時と同様に「遅延届」を提出す

れば、30分以内の入室を遅刻扱い、30分を超えての到着は欠席扱いとする。

※ただし、受験については許可されることがあるので、教室に行き、教員の指示に従うこと。

※その他のやむを得ない事情での欠席は、p 36【追試験の受験資格】参照

10 追試験・再試験の受験の場合は、受験票を試験監督者に提示しなければならない。

【筆記試験以外のレポート・作品提出についての注意事項】

- 1 レポート・作品などは提出期日・時間を厳守し、指定されたところに提出する。提出期日・時間を過ぎたものは、理由を問わず受理されない。
- 2 担当教員から書式・用紙などが指示された場合は、指示に従うこと。
- 3 レポート提出票を貼付し、記入は黒のボールペンを使用する。
- 4 レポート提出票には、担当教員名をフルネームで記載する。
- 5 公表された著作物、写真等を引用あるいはコピーして使用する場合は、著作権法により出所の明示が義務づけられているので、注意すること。

定期試験の遅刻・欠席の扱い

試験開始	15分	30分
遅刻	欠席	
「遅延届」を提出した場合、遅刻 ※登校不可能の場合のみ教務課に電話連絡すること		欠席

※その他のやむを得ない事情での欠席は、p 36【追試験の受験資格】参照

追 試 験

- 1 やむを得ない事情（病気・事故等）によって定期試験が受験できなかった学生に対して、別の日程で試験を実施する場合がある。これを追試験という。
- 2 追試験実施後の成績評価は、A, B, C, D, Xとする。別項「成績評価の方法」を参照。
- 3 追試験の日程・時間割は、所定の日時まで、担当教員から伝達される。

【追試験の受験資格】

- ① 定期試験の受験資格がある学生のみ、追試験を受験することができる。
- ② 本人の落ち度ではなく、下記のやむを得ない事情により欠席した場合のみ、追試験を受験することができる。書類等は、ただちに教務課に提出し、必ず受験資格を確認すること。

	事 情	証明する書類	手続き等
1	本人の病気・けが	医療機関発行の書類（※）	原則、事前に（または事後速やかに）教務課まで連絡する
2	交通機関の障害・不通	交通機関が発行する証明書	登校ができないことを、教務課に電話連絡する
3	気象警報発令の場合		登校できないと判断した時点で、直ちに教務課に電話連絡する
4	忌引き ※ p33 参照	会葬礼状など、証明となる葬祭業者等が発行する書類	事前に教務課まで連絡する
5	就職試験	試験日時などがわかる証明書類	事前にキャリアセンターに申し出て、所定の証明書を教務課に提出する
6	実習		事前に教務課に申し出る

（※）医療費領収証・診療明細書・医師の診断書など

- ③ 上記以外に特殊な事由がある場合、追試験を受験するためには、教授会の許可が必要となる。

こうした場合、アシスタント、クラスアドバイザーおよび各科目の担当教員との連絡を密に取る必要がある。

- ④ 追試験で不合格点をとったときには、再試験を行うことがある。

【追試験の受験手続き】

- ① 追試験の受験資格者は、掲示やメール連絡網などにより、その学籍番号が発表される。
- ② 追試験受験者は、「定期試験欠席届」に、理由書または医師の診断書等を添えて、教務課に提出する。また、所定の期日内に「追試験申込書」を受付窓口へ提出し、手数料を納入して、受験票を受取る。
- ③ 追試験受験の手数料は、1科目につき800円とする。
- ④ 追試験が、筆記試験以外のレポート・作品等の提出であっても同様の手続きが必要である。
- ⑤ 追試験当日または提出時は、「**受験票**」を提示する。

再試験

- 1 成績評価において、合格点が得られなかった学生に対して、重ねて試験を実施する場合がある。これを再試験という。
- 2 再試験実施後の成績評価は、C、D、Xとする。別項「成績評価の方法」を参照。
- 3 再試験の実施の有無、日程・時間割については、所定の日時までに、掲示により発表する。
- 4 再試験にやむを得ない事情（病気・事故等）で欠席した場合は、再試験の追試験を行うことがある。
※【追試験の受験資格】参照
- 5 再試験で不合格をとったときは、その科目の単位は与えられない。必修科目の場合には、再履修が必要となる。

【再試験の受験手続き】

- ① 再試験の受験資格者は、掲示やメール連絡網などによりその学籍番号が発表される。
- ② 再試験受験者は、所定の期日内に「再試験申込書」を受付窓口へ提出し、手数料を納入して、受験票を受取る。
- ③ 再試験受験の手数料は、1科目につき1,000円とする。
- ④ 再試験が、筆記試験以外のレポート・作品等の提出でも同様の手続きが必要である。
- ⑤ 再試験当日または提出時は、「**受験票**」を提示する。

※追試験および再試験の受験者が、所定の期日内に、受験手続きをとらなかった場合、受験資格を失う。したがって、その科目の単位は与えられないことになる。

成績評価の方法および GPA 制度

各科目の成績は、担当教員が、以下の素点を総合して評価する。シラバスの各教員が示す、成績評価の方法と配分を確認すること。

- 1 定期試験の成績
試験の成績（素点）、追試験、再試験の成績（素点）、随時行われた試験の成績、課せられた小論文・レポート等の評価を総合したもの
- 2 演習、実技、実習、研究発表等の評価
- 3 基本的な受講態度

成績は、〈A+、A、B、C、D〉の5段階によって評価される。〈D〉は不合格である。また、成績表

には、〈A+、A、B、C、D〉の成績評価が示される。その評価の算定の基準になった得点は、各科目の担当教員により100点満点で教務課に報告される。

また、本学では履修登録科目の理解度を示す基準としてGPA制度に基づいた成績評価も行っている。GPA (Grade Point Average) とは、各成績評価に対してそれぞれポイント (GP) を定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものであり、学力を証明する指標として用いることがある。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格が多いと、GPA の値が小さくなる。選択科目および履修に際しては、各自が責任をもって管理すること。達成基準のGPA (B = 2.0) を下回った学生に対しては、面談等で学修指導を行うことがある。合格最低基準のGPA (C = 1.0) を下回った学生に対しては、面談や保護者に状況を文書で通知するなど、学修指導を行っている。

[成績評価の基準]

成績評価	得点	GP
A+	100点～90点	4.0
A	89点～80点	3.0
B	79点～70点	2.0
C	69点～60点	1.0
D (不合格)	59点～0点	0
X (失格・放棄による不合格)	0点	

←達成基準
←合格最低基準

[GPA の算出方法]

$$GPA = \frac{\langle \text{履修登録した科目の GP} \times \text{その科目の単位数} \rangle \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

※ GP (Grade Point) : 上記表を参照

- GPA は、成績表に記載され、奨学金審査や編入希望者の選考基準に活用される。順位について知りたい場合は、アシステンテに申し出ること。
- 前期末の定期試験 (本試験および追試験・再試験) が終了した後に、前期の成績表が出される。
- また、年度末に通年の成績表が出される。この成績表には、通年科目および後期科目に加えて、前期科目の成績も記載される。つまり、年度末の成績表には、通算および当該年度の履修科目に関するすべての成績が記録されることになる。
- 年度末に出された通年の成績表は、保護者にも郵送する。
- 成績評価について疑問・質問のある場合は、科目担当教員に申し出ること。

単位を修得できなかった科目について

【必修科目の単位を修得できなかった場合】

必修科目の単位を修得できなかった学生は、次年度において、その科目を再履修するものとする。

【選択科目の単位を修得できなかった場合】

履修登録をした科目 (必修科目をのぞく) のうち、いずれかの科目の単位を修得できなかったために、卒業に必要な単位数が満たない場合には、必要な単位を次年度以降に履修することになる。

7 学 籍

入学、学士入学、短期大学士入学、再入学、転入学、休学、復学、転学、退学および除籍については、学則第4章第11条から22条に規定されている。

病気などにより欠席が長期におよぶ場合、あるいは、在学中に海外に留学し、その後に復学して卒業したいとき、また転学、退学を望むときなどには、アシスタント、クラスアドバイザーと相談の上、しかるべき手続きを取ることになる。

8 研究倫理

「卒業研究」における研究倫理ガイドライン

「卒業研究」をはじめとする研究活動を行う場合、以下に示す**研究倫理**におけるルールを守らなければならない。研究を計画し実施する段階においては、以下の事項を熟読し、担当の指導教員からの助言・指導を受けながら進めることが求められる。

1. 基本原則

保育・教育に関する研究・実践活動等の実施及び公表において、これらの研究活動に参加する人の基本的人権に常に配慮しなければならない。とりわけ、子ども及びその家族の利益と幸福を損なうことがあってはならない。

2. 研究実施のための配慮・説明責任

- (1) 保育・教育に関する研究・実践活動を行う際、研究協力者に対して、あらかじめ研究目的、研究内容等を十分に説明し、同意を得た上で行うこと。
- (2) 研究協力者への研究内容の説明や同意は、できる限り丁寧に行うこと。可能な限り、研究の内容を説明し協力を要請する文書（依頼文）を準備し、口頭での丁寧な説明を加えるものとする。
- (3) インタビューやアンケート等、データの収集・採取するにあたり、研究協力者に対し、何らかの身体的・精神的負担または苦痛を伴うことがないか、担当の指導教員とよく相談し、指導を得ながら進めること。
- (4) 研究の途中であっても、研究協力者が同意を撤回することができることをあらかじめ伝えること。撤回の申し出があった時には、即日に関係する個人情報やデータなどを廃棄すること。

3. 情報管理の厳守

- (1) 本学教員及び学生は、研究・実践活動等によって得られた個人情報については、それを厳重に保管・管理し、研究目的以外に使用してはならない。また、研究のために利用する同意を得た情報以外は利用してはならない。
- (2) 情報管理の方法については、必ず担当の指導教員の指導を受けること。

4. 研究データ・資料の適切な取り扱い

研究雑誌、絵本、書籍などの文献、インターネット記事、作品を取り扱う際、盗用、ねつ造、改ざんなどの不正な手段を用いてはならない。また、これらの不正手段が行われないように、こうしたものの取り扱いについては、担当の指導教員の指導を受けること。

5. 研究成果の公表に伴う責任

- (1) 研究・実践活動等で得られた成果を、学会や書籍などに公表することが生じた場合、公表に際しては、あらかじめ研究協力者の同意を得なければならない。
- (2) 研究論文の執筆にあたっては、差別的表現や不適切な表現に十分に注意を払い、他者に不利益が及ぶことのないよう配慮しなければならない。

6. 研鑽の義務

研究倫理の遵守と、人や社会への誠実性を促進するために、研究倫理についての情報を常に確認し、学ぶ意欲・姿勢をもつこと。

3 教育課程と開講科目一覧

「カリキュラム・マップ」「カリキュラム・ツリー」「科目ナンバリングコード」 (保育者養成課程の概要)

本学では、幼児保育学科および専攻科幼児保育専攻において、「ディプロマポリシー」(DP)を定めている。「ディプロマポリシー」とは、本学の教育理念に基づき、どのような能力を身につけた者に卒業や修了を認定し、学位を授与するのかを定めた方針である。

「カリキュラム・マップ」は授業科目と「ディプロマポリシー」の関連を示した表である。一方、「カリキュラム・ツリー」は、個々の授業科目をどのような順序で学ぶのか、どの授業科目が相互に関連しているのかを図示している。「科目ナンバリングコード」は、授業科目に番号を付し分類することで学習の段階や順序等を示し、教育課程の体系性を明示している。

2024年度に幼児保育学科に入学した学生は、「2024年度入学生用 カリキュラム・マップ、ツリー」(P42-45)を参照されたい。このマップでは、各年次における学修段階を定めた。1年次は「保育の基礎を学ぶ」段階、2年次は「保育の専門性を身につける」段階、専攻科は「保育の専門性を深める」段階である。さらに、授業科目群を資格に応じた形式的分類ではなく、以下のように、学修内容に応じた内容的分類を行っている。

- ・社会人の基礎科目群
- ・保育の目的と基礎科目群
- ・子どもの理解と支援科目群
- ・保育の内容と指導法科目群
- ・保育の実践科目群

カリキュラム・ツリーでは、これら5つの科目群における個々の授業科目の順序性を理解することができる。

本学の教育課程を通じて、「ディプロマポリシー」で定めた目標を達成するために、どのような知識・技能・技術を修得していけばよいのか、いかなる順序で学びが進んでいくのかを展望するために活用してほしい。

2024（令和6）年度入学生 星美学園短期大学幼児保育学科 カリキュラムマップ

系 列	授 業 科 目	ディプロマ・ポリシー				
		1	2	3	4	5
基礎教養	キリスト教学	○				
	人間学Ⅰ	○				
	人間学Ⅱ	○				
	基礎英語Ⅰ	○				
	基礎英語Ⅱ	○				
	イタリア語入門Ⅰ	○				
	イタリア語入門Ⅱ	○				
	聖書学特講	○				
	ドン・ボスコ研究	○				
	心理学	○				
	日本国憲法	○	○			
	情報処理	○	○			
	健康科学	○	○			
	体育実技	○	○			
教育	教育原理		○			
	保育者論		○			
	教育方法論		○	○		
	保育・教育課程論		○			
	保育・教職実践演習（幼稚園）		○	○	○	○
	特別支援教育総論		○			
	障害者教育総論（知・肢・病）		○			
	重複障害・LD等教育論		○			
	知的障害者教育論（指導法を含む）		○	○	○	
	肢体不自由者教育論（指導法を含む）		○	○	○	
	病弱者教育論（指導法を含む）		○	○	○	
視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む）		○	○	○		
保育	保育原理		○			
	乳児保育Ⅰ		○	○	○	
	乳児保育Ⅱ		○	○	○	
	障がい児保育Ⅰ		○	○	○	
	障がい児保育Ⅱ		○	○	○	
	保育内容総論		○	○	○	
心理・人間関係	教育相談基礎論		○	○		
	発達心理学		○	○		
	子どもの理解と援助		○	○		
	子ども家庭支援の心理学		○	○		
	幼児と人間関係		○	○	○	
	保育内容の指導法「人間関係」		○	○	○	
	知的障害者の心理・生理・病理		○	○		
	肢体不自由者の心理・生理・病理		○	○		
	病弱者の心理・生理・病理		○	○		
	自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理		○	○		
	自閉スペクトラム症者の支援		○	○		
視覚障害者の心理・生理・病理		○	○			
聴覚言語障害者の心理・生理・病理		○	○			
言葉	幼児と表現（言葉）		○	○	○	
	幼児と言葉（国語表現を含む）		○	○	○	
	保育内容の指導法「言葉」		○	○	○	
福祉	社会福祉論		○			
	子ども家庭福祉		○			
	子ども家庭支援論		○			
	子育て支援		○	○	○	
	社会的養護Ⅰ		○			
	社会的養護Ⅱ		○	○	○	
環境	保育内容の指導法「環境」		○	○		
	音楽基礎演習Ⅰ		○	○	○	
表現（音楽）	音楽基礎演習Ⅱ		○	○	○	
	幼児と表現（音楽）Ⅰ		○	○	○	
	幼児と表現（音楽）Ⅱ		○	○	○	
	幼児と表現（音楽）Ⅲ		○	○	○	
	保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅰ		○	○	○	
	保育内容の指導法「表現（音楽）」Ⅱ		○	○	○	

表現（造形）	幼児と表現（造形）Ⅰ		○	○	○	
	幼児と表現（造形）Ⅱ		○	○	○	
	保育内容の指導法「表現（造形）」		○	○	○	
健康	幼児と健康Ⅰ		○	○	○	
	幼児と健康Ⅱ		○	○	○	
	保育内容の指導法「健康」		○	○	○	
	子どもの保健		○	○		
	子どもの健康と安全		○	○	○	
	子どもの食と栄養Ⅰ		○	○		
情報	子どもの食と栄養Ⅱ		○	○		
	教育情報学		○	○		
教育実習	幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む）		○	○	○	○
	特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）		○	○	○	○
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（保育所）		○	○	○	○
キャリア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	○			○	○
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	○			○	○

2023（令和5）年度・2024（令和6）年度入学生 星美学園短期大学専攻科幼児保育専攻 カリキュラムマップ

系列	授 業 科 目	ディプロマ・ポリシー				
		1	2	3	4	5
教養・キャリア	人格論	○				
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	○			○	○
幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	○	○	○	○	○
	卒業研究	○	○	○	○	○
	特別演習A		○	○		
	特別演習B		○	○		
	特別演習C		○	○		
	特別演習D		○	○		
	特別演習E		○	○		
	特別演習F		○	○		
	特別演習G		○	○		
	特別演習H		○	○		
	特別演習I		○	○		
	特別演習J		○	○		
	特別演習K		○	○		
	特別演習L		○	○		
	特別演習M		○	○		
	特別演習N		○	○		
	特別演習O		○	○		
	特別演習P		○	○		
	特別演習Q		○	○		
	特別演習R		○	○		
特別演習S		○	○			
特別演習T		○	○			
特別演習U		○	○			
特別演習V		○	○			
特別演習W		○	○			
特別演習X		○	○			
保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ		○	○		
	子どもの食と栄養Ⅱ		○	○		
	社会的養護Ⅰ		○			
	社会的養護Ⅱ		○	○	○	
	子育て支援		○	○	○	
	保育実習Ⅰ（施設）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅰ（施設）		○	○	○	○
	保育実習Ⅱ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習指導Ⅱ（保育所）		○	○	○	○
	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）		○	○	○	○
保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）		○	○	○	○	
資格必修	ベビーシッター論		○	○	○	○
	発達障がい児指導法演習		○	○	○	○

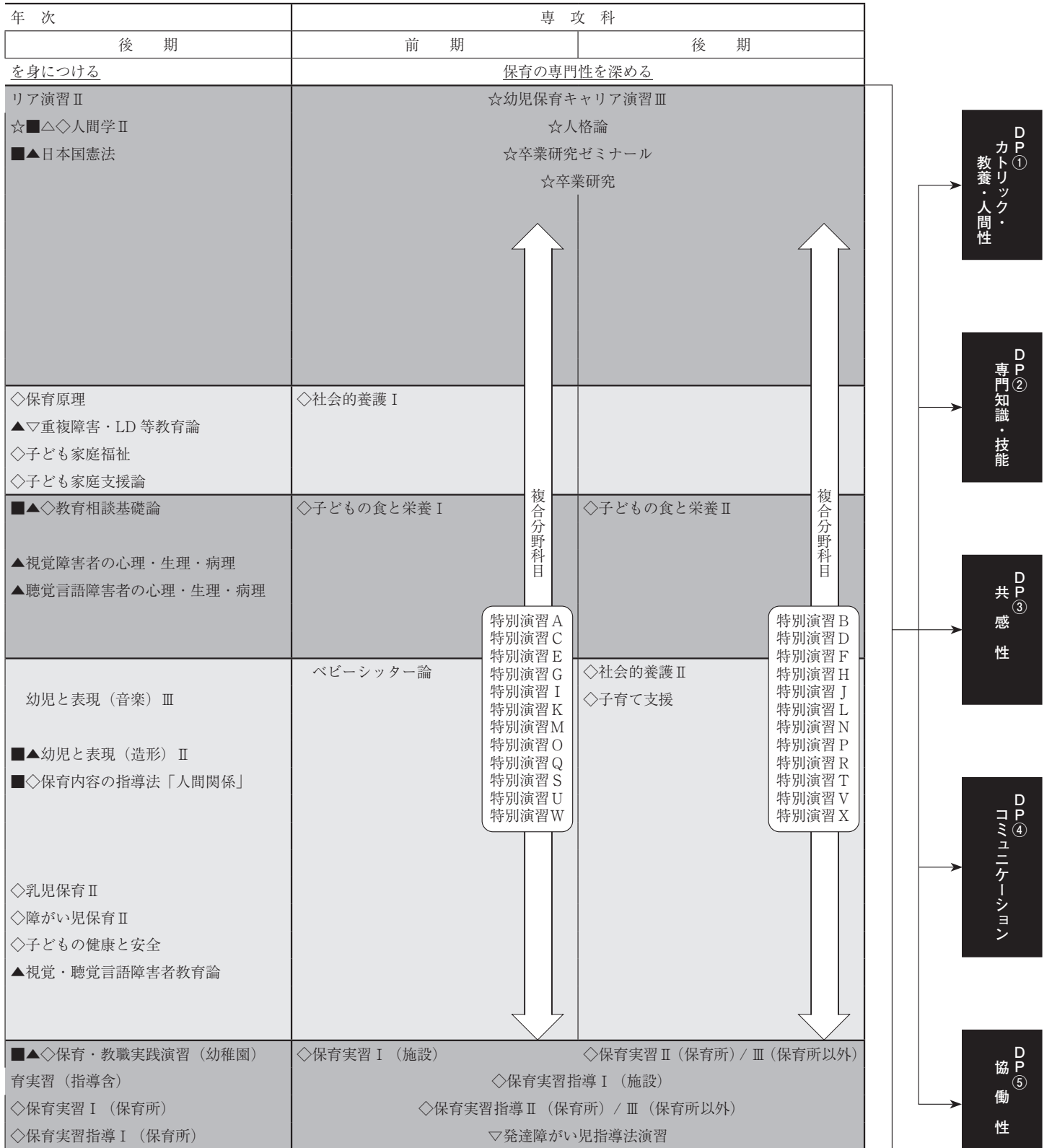
科目群名称 (上：教職課程) (下：保育士養成課程)	1 年 次		2
	前 期	後 期	前 期
	保育の基礎を学ぶ		保育の専門性
社会人の基礎 (施行規則第 66 条の 6 に定める科目) (教養科目)	☆幼児保育キャリア演習 I ☆■△◇キリスト教学 ★■△◇基礎英語 I ★■△◇イタリア語入門 I ■▲情報処理 ■◇健康科学	★■△◇基礎英語 II ★■△◇イタリア語入門 II 聖書学特講 ドン・ボスコ研究 心理学 ■▲◇体育実技	☆◇幼児保育キャ ☆■△◇人間学 I
保育の目的と基礎 (教育の基礎的理解に関する科目) (保育の本質・目的に関する科目)	■▲◇教育原理	■▲◇保育・教育課程論 ■▲▽◇特別支援教育総論 ▲▽障害者教育総論 (知・肢・病)	■▲◇保育者論 ◇社会福祉論
子どもの理解と支援 (道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目) (保育の対象の理解に関する科目)	■▲◇発達心理学 ■▲◇教育方法論 ▲▽自閉スペクトラム症者の心・生・病 ▲▽自閉スペクトラム症者の支援	◇子どもの理解と援助 ■▲教育情報学	◇子ども家庭支援の心理学 ◇子どもの保健 ▲▽知的障害者の心理・生理・病理 ▲肢体不自由者の心理・生理・病理 ▲病弱者の心理・生理・病理
保育の内容と指導法 (領域及び保育内容の指導法に関する科目) (保育の内容・方法に関する科目)	■▲◇幼児と健康 I ■◇幼児と表現 (音楽) I 幼児と表現 (言葉) ■▲◇保育内容の指導法「表現 (造形)」 音楽基礎演習 I	■▲◇幼児と言葉 (国語表現を含む) ■◇幼児と表現 (音楽) I ■▲◇保育内容の指導法「環境」 ■▲◇保育内容の指導法「表現 (音楽)」I 音楽基礎演習 II	■▲幼児と健康 II 幼児と表現 (音楽) II ■▲◇幼児と人間関係 ■▲◇幼児と表現 (造形) I ■▲◇保育内容の指導法「健康」 ■▲◇保育内容の指導法「言葉」 ■▲◇保育内容の指導法「表現 (音楽)」II ◇保育内容総論 ◇乳児保育 I ◇障がい児保育 I ▲知的障害者教育論 ▲肢体不自由者教育論 ▲病弱者教育論
保育の実践 (教育実践に関する科目) (保育実習、総合演習)	■▲幼稚園教育実習 (指導含) 【前期】		■▲幼稚園教育実習 (指導含) 【後期】 ▲特別支援学校教

(注 1) 各科目名称の記号について

☆：卒業必修科目 ★：卒業選択必修 ■：幼稚園教諭二種免許状必修科目 ▲：特別支援学校教諭二種免許状必修科目 ▽：発達障が

(注 2) 各科目の横に記載された番号①～⑤は、ディプロマポリシー (DP) の番号①～⑤と対応している。

学科・専攻科幼児保育専攻 カリキュラム・ツリー



い児保育ベーシックプログラム必修科目 ◇：保育士となる資格必修科目

社会人の基礎科目	保育の目的と基礎科目	子どもの理解と支援科目
Y1-1A001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅰ	Y2-1A001 ■▲◇教育原理	Y3-1A001 ■▲◇発達心理
Y1-1A002 ☆■▲◇キリスト教学	Y2-1B002 ■▲◇保育・教育課程論	Y3-1A002 ◇子どもの理解
Y1-1A003 ★■▲◇基礎英語Ⅰ	Y2-1A003 ■▲▽◇特別支援教育総論	Y3-1A003 ■▲◇教育方法
Y1-1A004 ★■▲◇基礎英語Ⅱ	Y2-1A004 ▲▽障害者教育総論(知・肢・病)	Y3-1A004 ■▲教育情報学
Y1-1A005 ★■▲◇イタリア語入門Ⅰ	Y2-2A001 ■▲◇保育者論	Y3-1A005 ▲▽自閉スペクトラム
Y1-1A006 ★■▲◇イタリア語入門Ⅱ	Y2-2A002 ◇保育原理	Y3-1A006 ▲▽自閉スペク
Y1-1A009 聖書学特講	Y2-2B003 ▲▽重複障害・LD等教育論	Y3-2A001 ◇子ども家庭支
Y1-1A010 ドン・ボスコ研究	Y2-2A004 ◇社会福祉論	Y3-2B002 ■▲◇教育相談
Y1-1A011 心理学	Y2-2A005 ◇子ども家庭福祉	Y3-2A003 ◇子どもの保健
Y1-1A012 ■▲情報処理	Y2-2B006 ◇子ども家庭支援論	Y3-2A004 ▲▽知的障害者の
Y1-1A014 ■◇健康科学	Y2-3A001 ◇社会的養護Ⅰ	Y3-2A005 ▲肢体不自由者の
Y1-1A015 ■▲◇体育実技		Y3-2A006 ▲病弱者の心理
Y1-2B001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅱ		Y3-2A007 ▲視覚障害者の
Y1-2B002 ☆■▲◇人間学Ⅰ		Y3-2A008 ▲聴覚言語障害者
Y1-2B003 ☆■▲◇人間学Ⅱ		Y3-3A001 ◇子どもの食と
Y1-2A004 ■▲日本国憲法		Y3-3A002 ◇子どもの食と
Y1-3C001 ☆幼児保育キャリア演習Ⅲ		
Y1-3C002 ☆人格論		
Y1-3C003 ☆卒業研究ゼミナール		
Y1-3C004 ☆卒業研究		

(注1) 各科目名称の記号について

☆：卒業必修科目

★：卒業選択必修科目

■：幼稚園教諭二種免許状必修科目

▲：特別支援学校教諭二種免許状必修科目

▽：発達障がい児保育ベーシックプログラム必修科目

◇：保育士となる資格必修科目

(注2) 科目のコードについて

Y1 - 1 A 001

① ② ③ ④

	①学問分野	②学年	③難易度	④通
Y1	社会人の基礎	1 短大1年	A 基礎	001 順
Y2	保育の目的と基礎	2 短大2年	B 発展	
Y3	子どもの理解と支援	3 専攻科	C 応用	
Y4	保育の内容と指導法			
Y5	保育の実践			
Y6	複合分野			

ンバリングコード一覧

	保育の内容と指導法	保育の実践
学	Y4-1A001 ■▲幼児と健康Ⅰ	Y5-1C001 ■▲幼稚園教育実習(指導含)
と援助	Y4-1A002 ■▲◇幼児と言葉(国語表現を含む)	Y5-2C002 ▲特別支援学校教育実習(指導含)
論	Y4-1A003 ■▲◇幼児と表現(音楽)Ⅰ	Y5-2C003 ■▲◇保育・教職実践演習(幼稚園)
	Y4-1A004 幼児と表現(言葉)	Y5-2C004 ◇保育実習Ⅰ(保育所)
症者の心理・生理・病理	Y4-1B005 ■▲◇保育内容の指導法「表現(造形)」	Y5-2C005 ◇保育実習指導Ⅰ(保育所)
トラム症者の支援	Y4-1B006 ■▲◇保育内容の指導法「環境」	Y5-3C001 ◇保育実習Ⅰ(施設)
援の心理学	Y4-1B007 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ	Y5-3C002 ◇保育実習指導Ⅰ(施設)
基礎論	Y4-1A008 音楽基礎演習Ⅰ	Y5-3C003 ◇保育実習Ⅱ(保育所)
	Y4-1A009 音楽基礎演習Ⅱ	Y5-3C004 ◇保育実習指導Ⅱ(保育所)
心理・生理・病理	Y4-2A001 ■▲幼児と健康Ⅱ	Y5-3C005 ◇保育実習Ⅲ(保育所以外)
心理・生理・病理	Y4-2A002 ■▲◇幼児と人間関係	Y5-3C006 ◇保育実習指導Ⅲ(保育所以外)
・生理・病理	Y4-2A003 ■▲◇幼児と表現(造形)Ⅰ	Y5-3C007 ▽発達障がい児指導法演習
心理・生理・病理	Y4-2A004 ■▲幼児と表現(造形)Ⅱ	
の心理・生理・病理	Y4-2A005 幼児と表現(音楽)Ⅱ	
栄養Ⅰ	Y4-2A006 幼児と表現(音楽)Ⅲ	複合分野
栄養Ⅱ	Y4-2B007 ■▲◇保育内容の指導法「健康」	Y6-3B001 特別演習A
	Y4-2B008 ■▲◇保育内容の指導法「言葉」	Y6-3B002 特別演習B
	Y4-2B009 ■▲◇保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ	Y6-3B003 特別演習C
	Y4-2B010 ■▲◇保育内容の指導法「人間関係」	Y6-3B004 特別演習D
	Y4-2A011 ◇保育内容総論	Y6-3B005 特別演習E
	Y4-2B012 ◇乳児保育Ⅰ	Y6-3B006 特別演習F
	Y4-2B013 ◇乳児保育Ⅱ	Y6-3B007 特別演習G
	Y4-2B014 ◇障がい児保育Ⅰ	Y6-3B008 特別演習H
	Y4-2B015 ◇障がい児保育Ⅱ	Y6-3B009 特別演習I
	Y4-2B016 ◇子どもの健康と安全	Y6-3B010 特別演習J
	Y4-2B017 ▲知的障害者教育論	Y6-3B011 特別演習K
	Y4-2B018 ▲肢体不自由者教育論	Y6-3B012 特別演習L
	Y4-2B019 ▲病弱者教育論	Y6-3B013 特別演習M
	Y4-2B020 ▲視覚・聴覚言語障害者教育論	Y6-3B014 特別演習N
	Y4-3B001 ベビーシッター論	Y6-3B015 特別演習O
	Y4-3B002 ◇社会的養護Ⅱ	Y6-3B016 特別演習P
	Y4-3B003 ◇子育て支援	Y6-3B017 特別演習Q
		Y6-3B018 特別演習R
		Y6-3B019 特別演習S
		Y6-3B020 特別演習T
		Y6-3B021 特別演習U
		Y6-3B022 特別演習V
		Y6-3B023 特別演習W
		Y6-3B024 特別演習X

し番号
次

1 幼児保育学科

2024 年度入学生

幼児保育学科 ディプロマ・ポリシー

幼児保育学科では、以下に挙げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に学位を与える。

DP1 カトリック・教養・人間性

カトリックの価値観に基づき、幅広い視野に立って、社会人としての教養と、豊かな人間性を身につけている。

DP2 専門知識・技能

保育の基本的な知識・技術を習得するとともに、多様性を受け入れて一人ひとりの子どもに応じた保育を考えることができる。

DP3 共感性

子どもをいとおしむ心とまなざしをもち、子どもの立場に立って考えたり、共感することができる。

DP4 コミュニケーション

保育において必要とされる表現力と伝達力を身につけている。

DP5 協働性

社会の一員として貢献し、他者と連携・協働できる能力を身につけている。

幼児保育学科 カリキュラム・ポリシー

幼児保育学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針によってカリキュラムを編成している。

1. カトリックの価値観および創立者ドン・ボスコの精神を学ぶことができる。

2. 社会人としての基礎的な知識・教養が習得できる。

3. 保育の基本的な知識・技能が習得できる。
(幼稚園教諭二種免許状の取得および保育士資格の取得準備ができる)

4. 障がいの理解およびインクルーシブ保育に関わる基本的な知識、対応力・指導力が習得できる。
(特別支援学校教諭二種免許状の取得および発達障がい児保育ベーシックプログラムの取得準備ができる)

DP1 カトリック・教養・人間性

DP2 専門知識・技能

5. 子どもの理解と支援のための基礎的な知識と、子どもの視点に立って考える態度を習得できる。 } DP3 共感性
6. 保育で必要とされる表現力、伝達力が習得できる。 } DP4 コミュニケーション
7. 他者と協働し、一つの目標に取り組む実践的な学びを通して、社会性を習得できる。 } DP5 協働性

幼児保育学科の学習成果

幼児保育学科では、ディプロマ・ポリシーに対応する、以下の学習成果を定めている。

1. カトリックの価値観をふまえつつ、現代社会の諸問題を柔軟に捉えることができる思考力を習得している。 } DP1 カトリック・教養・人間性
2. 社会人として必要な基礎的な知識・教養を習得している。 }
3. 保育の基本的な知識・技術を総合的に習得し、子どもの最善の利益に向けて、子どもに寄り添った保育を計画できる。 } DP2 専門知識・技能
4. 障がい児を保育する上で必要とされる基本的な知識・技術を理解し、インクルーシブ保育に必要な思考力・判断力を習得している。 }
5. 子どもの姿を多面的に理解・判断するための知識・技術を習得し、一人ひとりの子どもに愛情をもって関わる姿勢を身につけている。 } DP3 共感性
6. 保育者として必要な表現力、伝達力として適切な言葉で話す・書く力を習得している。 } DP4 コミュニケーション
7. 集団の目標達成に向かって保育者として他者と協働しながら、自らの実践を客観的に振り返り改善する姿勢を身につけている。 } DP5 協働性

— 2024 入学生履修パターン —

幼児保育学科	卒業に必要な単位	64 単位	2024 (令和6)・2023 (令和5) 年度幼児保育学科入学
専攻科幼児保育専攻	修了に必要な単位	22 単位	2026 (令和8)・2025 (令和7) 年度専攻科入学

履修パターン **【必要単位数】**

A 幼稚園教諭二種免許

		卒業要件	1 年次	2 年次	計
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4
	選択必修 外国語	2	2	0	2
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1
	選択科目	5 3		3 1	3 4
	必修科目 キャリア	4	2	2	4
短期大学卒業 (2 年間) 修得単位	計	6 4	3 8	3 8	7 6

B 保育士資格<保育士養成3年課程 93単位以上>

		卒業要件	1 年次	2 年次	計	
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4	
	選択必修 外国語	2	2	0	2	
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1	
	選択科目	5 3		3 1	4 0	7 1
	必修科目 キャリア	4	2	2	4	
短期大学卒業 (2 年間) 修得単位	計	6 4	3 8	4 4	8 2	
		修了要件	-	-	専攻科	計
専攻科幼児保育専攻専門教育科目	修了必修	1 0	-	-	1 0	1 0
	選択科目	1 2	-	-	1 8	1 8
専攻科修了 (1 年間) 修得単位	計	2 2	-	-	2 8	2 8
短期大学卒業 + 専攻科修了 (3 年間) [保育士養成施設卒業] 修得単位	計					1 1 0

**C 幼稚園教諭二種免許
保育士資格<保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了**

		卒業要件	1 年次	2 年次	計	
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4	
	選択必修 外国語	2	2	0	2	
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1	
	選択科目	5 3		3 1	4 5	7 6
	必修科目 キャリア	4	2	2	4	
短期大学卒業 (2 年間) 修得単位	計	6 4	3 8	4 9	8 7	
		修了要件	-	-	専攻科	計
専攻科幼児保育専攻専門教育科目	修了必修	1 0	-	-	1 0	1 0
	選択科目	1 2	-	-	1 9	1 9
専攻科修了 (1 年間) 修得単位	計	2 2	-	-	2 9	2 9
短期大学卒業 + 専攻科修了 (3 年間) [保育士養成施設卒業] 修得単位	計					1 1 6

**D 幼稚園教諭二種免許
特別支援学校教諭二種免許**

		卒業要件	1 年次	2 年次	計
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4
	選択必修 外国語	2	2	0	2
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1
	選択科目	5 3		3 1	4 0
	必修科目 キャリア	4	2	2	4
短期大学卒業 (2 年間) 修得単位	計	6 4	3 8	4 4	8 2

**E 幼稚園教諭二種免許
特別支援学校教諭二種免許
保育士資格<保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了**

		卒業要件	1 年次	2 年次	計	
幼児保育学科専門教育科目	必修科目 基礎教養	4	2	2	4	
	選択必修 外国語	2	2	0	2	
	選択科目 必修基礎教養	1	5 4	1	1	
	選択科目	5 3		3 1	5 7	8 8
	必修科目 キャリア	4	2	2	4	
短期大学卒業 (2 年間) 修得単位	計	6 4	3 8	6 1	9 9	
		修了要件	-	-	専攻科	計
専攻科幼児保育専攻専門教育科目	修了必修	1 0	-	-	1 0	1 0
	選択科目	1 2	-	-	1 9	1 9
専攻科修了 (1 年間) 修得単位	計	2 2	-	-	2 9	2 9
短期大学卒業 + 専攻科修了 (3 年間) [保育士養成施設卒業] 修得単位	計					1 2 8

※星槎大学との教育連携により、本学在学中から「小学校教諭二種免許状」や「小学校教諭一種免許状」に必要な科目を履修することが可能です。免許状の取得に必要な単位数は、履修ガイダンスにて説明します。

A 幼稚園教諭二種免許

幼児保育学科専門教育科目

76



幼児保育学科専門教育科目				
必修	選択必修	選択		必修
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア
4	2	1	65	4
76				

B 保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>

幼児保育学科専門教育科目

専攻科幼児保育専攻
専門教育科目

82 **28**



幼児保育学科専門教育科目					専攻科幼児保育専攻専門教育科目	
必修	選択必修	選択		必修	必修	選択
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア	教養・キャリア、 幼児教育研究	幼児教育研究、保育 士必修、資格必修
4	2	1	71	4	10	18
110						

C 幼稚園教諭二種免許

保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

幼児保育学科専門教育科目

専攻科幼児保育専攻
専門教育科目

87 **29**



幼児保育学科専門教育科目					専攻科幼児保育専攻専門教育科目	
必修	選択必修	選択		必修	必修	選択
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア	教養・キャリア、 幼児教育研究	幼児教育研究、保育 士必修、資格必修
4	2	1	76	4	10	19
87					29	
116						

D 幼稚園教諭二種免許

特別支援学校教諭二種免許

幼児保育学科専門教育科目

82



幼児保育学科専門教育科目				
必修	選択必修	選択		必修
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア
4	2	1	71	4
82				

E 幼稚園教諭二種免許

特別支援学校教諭二種免許
保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

幼児保育学科専門教育科目

専攻科幼児保育専攻
専門教育科目

99 **29**



幼児保育学科専門教育科目					専攻科幼児保育専攻専門教育科目	
必修	選択必修	選択		必修	必修	選択
基礎教養	外国語	基礎教養	基礎教養、教育、保育、心理・人間関係、言葉、福祉、環境、表現(音楽)、表現(造形)、健康、情報、教育実習、保育実習	キャリア	教養・キャリア、 幼児教育研究	幼児教育研究、保育 士必修、資格必修
4	2	1	88	4	10	19
99					29	
128						

履修パターンAの履修モデル 幼稚園教諭二種免許

* 社会福祉主事任用

* 准学校心理士

1年次						2年次						単位数		
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育		B P	単位数
キリスト教学	[必]					2	人間学Ⅰ	[必]					1	4
							人間学Ⅱ	[必]					1	
基礎英語Ⅰ	[外]					1								2
基礎英語Ⅱ	[外]					1								
健康科学	[必]					1								66 (卒業要件54以上)
心理学						2	日本国憲法		[幼]	[特]			2	
情報処理		[幼]	[特]			2								
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1								
							保育者論		[幼]	[特]	[保]		2	
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2	
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論			[特]		[BP]	2	
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	保育原理				[保]		2	
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅰ				[保]		2	
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅱ				[保]		1	
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	障がい児保育Ⅰ				[保]		1	
子どもの理解と援助				[保]		1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2	
幼児と表現(言葉)						1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1	
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1	
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	知的障害者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	
音楽基礎演習Ⅰ						1	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1	
音楽基礎演習Ⅱ						1	社会福祉論				[保]		2	
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		2	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1	
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1	
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と健康Ⅱ		[幼]	[特]			1	
教育情報学		[幼]	[特]			1	保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1	
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5	
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]					2	幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]					2	4
1年次 修得単位 計						38	2年次 修得単位 計						38	76
短期大学卒業 修得単位 計														

履修パターンBの履修モデル 保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>

- * 社会福祉主事任用
- * 准学校心理士
- * ピアヘルパー
- * 認定ベビーシッター

1年次							2年次							単位数		
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B	P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B		P	単位数
キリスト教学	[必]						2	人間学Ⅰ	[必]						1	4
								人間学Ⅱ	[必]						1	
基礎英語Ⅰ	[外]						1								1	2
基礎英語Ⅱ	[外]						1								1	
健康科学	[必]						1	日本国憲法		[幼]	[特]				2	72 (卒業要件54以上)
ドン・ボスコ研究							2									
情報処理		[幼]	[特]				2									
体育実技		[幼]	[特]	[保]			1									
教育原理		[幼]	[特]	[保]			2	保育者論		[幼]	[特]	[保]			2	
教育方法論		[幼]	[特]	[保]			2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]			2	
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]			2	重複障害・LD等教育論		[特]		[BP]			2	
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]		2	保育原理				[保]		2		
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]		2	乳児保育Ⅰ				[保]		2		
発達心理学		[幼]	[特]	[保]			2	乳児保育Ⅱ				[保]		1		
子どもの理解と援助				[保]			1	障がい児保育Ⅰ				[保]		1		
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]		1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1		
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]		1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1		
幼児と表現(言葉)							1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2		
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭支援の心理学				[保]		2		
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]			1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1		
音楽基礎演習Ⅰ							1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1		
音楽基礎演習Ⅱ							1	知的障害者の心理・生理・病理		[特]		[BP]		1		
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			2	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1		
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]			1	社会福祉論				[保]		2		
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭福祉				[保]		2		
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]			1	子ども家庭支援論				[保]		2		
教育情報学		[幼]	[特]				1	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1		
								幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1		
								幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1		
								保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1		
								子どもの保健				[保]		2		
								子どもの健康と安全				[保]		1		
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]				0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0		
								保育実習Ⅰ(保育所)				[保]		2		
								保育実習指導Ⅰ(保育所)				[保]		1		
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]						2	幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]					2	4	
1年次 修得単位 計							38	2年次 修得単位 計							44	82
短期大学卒業 (2年間) 修得単位 計																
専攻科																
専攻科幼児保育専攻専門科目							修了	幼二	特二	保育	B	P	単位数	単位数		
人格論							[必]						4	6		
幼児保育キャリア演習Ⅲ							[必]					2				
卒業研究ゼミナール							[必]					2	4			
卒業研究							[必]					2				
特別演習A												1	18 (修了要件12以上)			
特別演習B												1				
子どもの食と栄養Ⅰ										[保]		1				
子どもの食と栄養Ⅱ										[保]		1				
社会的養護Ⅰ										[保]		2				
社会的養護Ⅱ										[保]		1				
子育て支援Ⅰ(演習)										[保]		1				
保育実習Ⅰ(施設)										[保]		2				
保育実習指導Ⅰ(施設)										[保]		1				
保育実習Ⅱ(保育所)										[保]		2				
保育実習指導Ⅱ(保育所)										[保]		1				
ベビーシッター論												2				
発達障がい児指導法演習											[BP]	2				
修了 修得単位 計												28		28		
保育士養成施設卒業 (3年間) 修得単位 総計																
110																

履修パターンCの履修モデル 幼稚園教諭二種免許

保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

- * 社会福祉主事任用
- * 准学校心理士
- * ピアヘルパー
- * 認定ベビーシッター

1年次						2年次						単位数	
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育		B P
キリスト教学	[必]					2	人間学Ⅰ	[必]					1
							人間学Ⅱ	[必]					1
基礎英語Ⅰ	[外]					1							
基礎英語Ⅱ	[外]					1							
健康科学	[必]					1	日本国憲法		[幼]	[特]			2
聖書学特講						2							
情報処理		[幼]	[特]			2							
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1							
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育者論		[幼]	[特]	[保]		2
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論		[特]		[BP]		2
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	保育原理				[保]		2
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅰ				[保]		2
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	乳児保育Ⅱ				[保]		1
子どもの理解と援助				[保]		1	障がい児保育Ⅰ				[保]		1
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1
幼児と表現(言葉)						1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	子ども家庭支援の心理学				[保]		2
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1
音楽基礎演習Ⅰ						1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1
音楽基礎演習Ⅱ						1	知的障害者の心理・生理・病理		[特]		[BP]		1
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		2	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]		1	社会福祉論				[保]		2
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]		1	子ども家庭福祉				[保]		2
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	子ども家庭支援論				[保]		2
教育情報学		[幼]	[特]			1	保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1
							保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1
							子どもの保健				[保]		2
							子どもの健康と安全				[保]		1
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5
							保育実習Ⅰ(保育所)				[保]		2
							保育実習指導Ⅰ(保育所)				[保]		1
幼児保育キャリア演習Ⅰ	[必]					2							
							幼児保育キャリア演習Ⅱ	[必]					2
1年次 修得単位 計						38	2年次 修得単位 計						49
短期大学卒業(2年間) 修得単位 計													87

77
(卒業要件54以上)

専攻科													
専攻科幼児保育専攻専門科目	修了	幼二	特二	保育	B P	単位数	単位数						
人格論	[必]					4	6						
幼児保育キャリア演習Ⅲ	[必]					2							
卒業研究ゼミナール	[必]					2							
卒業研究	[必]					2	4						
特別演習C						1							
特別演習D						1							
特別演習G						1							
子どもの食と栄養Ⅰ				[保]		1							
子どもの食と栄養Ⅱ				[保]		1							
社会的養護Ⅰ				[保]		2							
社会的養護Ⅱ				[保]		1							
子育て支援Ⅰ(演習)				[保]		1							
保育実習Ⅰ(施設)				[保]		2							
保育実習指導Ⅰ(施設)				[保]		1							
保育実習Ⅲ(保育所以外の施設)				[保]		2							
保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)				[保]		1							
ベビーシッター論						2							
発達障がい児指導法演習					[BP]	2							
修了 修得単位 計						29	29						
保育士養成施設卒業(3年間) 修得単位 総計													116

19
(修了要件12以上)

履修パターンDの履修モデル 幼稚園教諭二種免許
特別支援学校教諭二種免許

* 社会福祉主事任用
* 准学校心理士

1年次						2年次						単位数	
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育		B P
キリスト教学	[必]					2	人間学 I	[必]					1
							人間学 II	[必]					1
基礎英語 I	[外]					1							
基礎英語 II	[外]					1							
健康科学	[必]					1							
聖書学特講						2	日本国憲法		[幼]	[特]			2
情報処理		[幼]	[特]			2							
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1							
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育者論		[幼]	[特]	[保]		2
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論			[特]	[BP]		2
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	障がい児保育 I				[保]		1
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	障がい児保育 II				[保]		1
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	知的障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1
子どもの理解と援助				[保]		1	肢体不自由者教育論(指導法を含む)			[特]			1
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	病弱者教育論(指導法を含む)			[特]			1
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1
幼児と表現(言葉)						1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1
音楽基礎演習 I						1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1
音楽基礎演習 II						1	知的障害者の心理・生理・病理			[特]	[BP]		1
幼児と表現(音楽) I		[幼]	[特]	[保]		2	肢体不自由者の心理・生理・病理			[特]			1
保育内容の指導法「表現(音楽) I		[幼]	[特]	[保]		1	病弱者の心理・生理・病理			[特]			1
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]		1	視覚障害者の心理・生理・病理			[特]			1
幼児と健康 I		[幼]	[特]	[保]		1	聴覚言語障害者の心理・生理・病理			[特]			1
教育情報学		[幼]	[特]			1	保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1
							社会福祉論				[保]		2
							保育内容の指導法「表現(音楽) II		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と表現(造形) I		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と表現(造形) II		[幼]	[特]	[保]		1
							幼児と健康 II		[幼]	[特]			1
							保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5
							特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)			[特]			3
幼児保育キャリア演習 I	[必]					2	幼児保育キャリア演習 II	[必]					2
1年次 修得単位 計						38	2年次 修得単位 計						44
短期大学卒業 修得単位 計													82

72 (卒業要件54以上)

履修パターンEの履修モデル 幼稚園教諭二種免許
 特別支援学校教諭二種免許
 保育士資格 <保育士養成3年課程 93単位以上>
 発達障がい児保育ベーシックプログラム修了

- * 社会福祉主事任用
- * 准学校心理士
- * ピアヘルパー
- * 認定ベビーシッター

1年次							2年次							単位数
幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	幼児保育学科専門教育科目	卒業	幼二	特二	保育	B P	単位数	
キリスト教学	[必]					2	人間学Ⅰ	[必]					1	4
							人間学Ⅱ	[必]					1	
基礎英語Ⅰ	[外]					1								2
基礎英語Ⅱ	[外]					1								
健康科学	[必]					1	日本国憲法		[幼]	[特]			2	89 (卒業要件54以上)
ドン・ボスコ研究						2								
情報処理		[幼]	[特]			2								
体育実技		[幼]	[特]	[保]		1								
教育原理		[幼]	[特]	[保]		2	保育者論		[幼]	[特]	[保]		2	
教育方法論		[幼]	[特]	[保]		2	保育・教職実践演習(幼稚園)		[幼]	[特]	[保]		2	
保育・教育課程論		[幼]	[特]	[保]		2	重複障害・LD等教育論		[特]		[BP]		2	
特別支援教育総論		[幼]	[特]		[BP]	2	保育原理				[保]		2	
障害者教育総論(知・肢・病)			[特]		[BP]	2	乳児保育Ⅰ				[保]		2	
発達心理学		[幼]	[特]	[保]		2	乳児保育Ⅱ				[保]		1	
子どもの理解と援助				[保]		1	障がい児保育Ⅰ				[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	障がい児保育Ⅱ				[保]		1	
自閉スペクトラム症児・者の支援			[特]		[BP]	1	保育内容総論		[幼]	[特]	[保]		1	
幼児と表現(言葉)						1	教育相談基礎論		[幼]	[特]			2	
幼児と言葉(国語表現を含む)		[幼]	[特]	[保]		1	子ども家庭支援の心理学				[保]		2	
保育内容の指導法「環境」		[幼]	[特]	[保]		1	幼児と人間関係		[幼]	[特]	[保]		1	
音楽基礎演習Ⅰ						1	保育内容の指導法「人間関係」		[幼]	[特]	[保]		1	
音楽基礎演習Ⅱ						1	知的障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1	
幼児と表現(音楽)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		2	肢体不自由者教育論(指導法を含む)			[特]			1	
保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」		[幼]	[特]	[保]		1	病弱者教育論(指導法を含む)			[特]			1	
保育内容の指導法「表現(造形)」		[幼]	[特]	[保]		1	視覚・聴覚言語障害者教育論(指導法を含む)			[特]			1	
幼児と健康Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	知的障害者の心理・生理・病理			[特]		[BP]	1	
教育情報学		[幼]	[特]			1	肢体不自由者の心理・生理・病理			[特]			1	
							病弱者の心理・生理・病理			[特]			1	
							視覚障害者の心理・生理・病理			[特]			1	
							聴覚言語障害者の心理・生理・病理			[特]			1	
							保育内容の指導法「言葉」		[幼]	[特]	[保]		1	
							社会福祉論				[保]		2	
							子ども家庭福祉				[保]		2	
							子ども家庭支援論				[保]		2	
							保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」		[幼]	[特]	[保]		1	
							幼児と表現(造形)Ⅰ		[幼]	[特]	[保]		1	
							幼児と表現(造形)Ⅱ		[幼]	[特]	[保]		1	
							幼児と健康Ⅱ		[幼]	[特]			1	
							保育内容の指導法「健康」		[幼]	[特]	[保]		1	
							子どもの保健				[保]		2	
							子どもの健康と安全				[保]		1	
幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			0	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)		[幼]	[特]			5	
							特別支援学校教育実習(事前事後の指導を含む)			[特]			3	
							保育実習Ⅰ(保育所)				[保]		2	
							保育実習指導Ⅰ(保育所)				[保]		1	
幼児保育キャリア演習Ⅰ [必]						2							4	
							幼児保育キャリア演習Ⅱ [必]							2
1年次 修得単位 計 38							2年次 修得単位 計 61							99
短期大学卒業 (2年間) 修得単位 計														
専攻科														
専攻科幼児保育専攻専門科目							修了	幼二	特二	保育	B P	単位数	単位数	
人格論							[必]					4	6	
幼児保育キャリア演習Ⅲ							[必]				2			
卒業研究ゼミナール							[必]				2	4		
卒業研究							[必]				2			
特別演習H											1	19 (修了要件12以上)		
特別演習I											1			
特別演習J											1			
子どもの食と栄養Ⅰ										[保]	1			
子どもの食と栄養Ⅱ										[保]	1			
社会的養護Ⅰ										[保]	2			
社会的養護Ⅱ										[保]	1			
子育て支援Ⅰ(演習)										[保]	1			
保育実習Ⅰ(施設)										[保]	2			
保育実習指導Ⅰ(施設)										[保]	1			
保育実習Ⅲ(保育所以外の施設)										[保]	2			
保育実習指導Ⅲ(保育所以外の施設)										[保]	1			
ベビーシッター論											2			
発達障がい児指導法演習										[BP]	2			
修了 修得単位 計											29		29	
保育士養成施設卒業 (3年間) 修得単位 総計 128														

[2024 (令和6) 年度入学生]

卒業に必要な単位数・・・64単位

幼児保育学科 開講科目一覧

幼児保育学科専門教育科目

※2024 (令和6)・2025 (令和7) 年度に開講した授業科目名・職名は、当時のもの

掲載頁	系 列	授 業 科 目	授業形態	単位数		卒業要件	開講学年		開講期	卒業	教職免許		資格 保育士	発達 BP	職 名	担 当	備 考
				必修	選択		1年	2年			幼二	特二					
—	基礎教養	キリスト教学	演習	2		4	1年	通年	●	○	○	○		講師	滝口ひとみ		
—		人間学Ⅰ	演習	1			2年	前期	●	○	○	○		講師	武内 裕輝		
—		人間学Ⅱ	演習	1			2年	後期	●	○	○	○		講師	武内 裕輝		
—		基礎英語Ⅰ	演習		1		1年	前期	●						講師	吉田紀容美	「基礎英語Ⅰ」 又は「イタリア語入門Ⅰ」 「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを選択
—		基礎英語Ⅱ	演習		1	1年	後期	●						講師	田中 美加		
—		イタリア語入門Ⅰ	演習		1	1年	前期	●	○	○	○			講師	工藤 恭子		
—		イタリア語入門Ⅱ	演習		1	1年	後期	●						講師	ピエトロニーロ・ミランジェロ		
—		聖書学特講	講義		2	1年	前期							講師	武内 裕輝		
—		ドン・ボスコ研究	講義		2	1年	前期							講師	浦田慎二郎		
—		心理学	講義		2	1年	後期							講師	吉田 望		
—		日本国憲法	講義		2		2年	後期		○	○			講師	秋山 武吉		
—		情報処理	講義		2	1年	前期			○	○			教授	中島千恵子		
—		健康科学	講義	1		1年	前期		●	○	○			講師	佐藤 勉		
—		体育実技	実技		1	1年	後期			○	○	○		講師	遠山 健太		
—		教育原理	講義		2	1年	前期			○	○	○		講師	齋藤 博志		
—		保育者論	講義		2		2年	前期		○	○	○		講師	徳田多佳子		
—	教育方法論	講義		2	1年	前期			○	○	○		教授	井出麻里子			
—	保育・教育課程論	講義		2	1年	後期			○	○	○		教授	大井 美緒			
—	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		2		2年	後期		○	○	○		教授	打越みゆき			
—	特別支援教育総論	講義		2	1年	後期			○	○	○		専任講師	竹森 亜美			
—	障害者教育総論 (知・肢・病)	講義		2	1年	後期				○	○		講師	荻野梨紗子			
—	重複障害・LD 等教育論	講義		2		2年	後期			○	○		専任講師	竹森 亜美			
—	知的障害者教育論 (指導法を含む)	講義		1		2年	前期			○	○		教授 専任講師	井出麻里子 竹森 亜美			
—	肢体不自由者教育論 (指導法を含む)	講義		1		2年	前期			○	○		講師	渡邊 章			
—	病弱者教育論 (指導法を含む)	講義		1		2年	前期			○	○		講師	渡邊 章			
—	視覚・聴覚言語障害者教育論 (指導法を含む)	講義		1		2年	後期			○	○		講師	村尾 愛美			
—	保育	保育原理	講義		2	54 以上 (次頁の科目も含む)	2年	後期				○		講師	徳田多佳子		
—		乳児保育Ⅰ	講義		2		2年	前期					○		講師	清水かおり	
—		乳児保育Ⅱ	演習		1		2年	後期					○		講師	清水かおり	
—		障がい児保育Ⅰ	演習		1		2年	前期					○		講師	岡本 明博	
—		障がい児保育Ⅱ	演習		1		2年	後期					○		講師	岡本 明博	
—		保育内容総論	演習		1		2年	後期					○		講師	古川 寿子	
—		教育相談基礎論	講義		2			2年	後期		○	○	○		講師	佐藤 亜美	
—		発達心理学	講義		2		1年	前期			○	○	○		講師	荻野梨紗子	
—		子どもの理解と援助	演習		1		1年	後期					○		講師	藪中 征代	
—		子ども家庭支援の心理学	講義		2			2年	後期				○		教授 専任講師 専任講師	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季	
—	心理・ 人間関係	幼児と人間関係	演習		1		2年	前期		○	○	○		専任講師	坂本 真季		
—		保育内容の指導法「人間関係」	演習		1		2年	後期		○	○	○		講師	藪中 征代		
—		知的障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期			○			講師	木下 愛		
—		肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期			○			講師	渡邊 章		
—		病弱者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期			○			講師	渡邊 章		
—		自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義		1	1年	前期				○		○	専任講師	竹森 亜美		
—		自閉スペクトラム症者の支援	講義		1	1年	前期				○		○	専任講師	竹森 亜美		
—		視覚障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年	前期			○			講師	大内 進		
—		聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義		1		2年	後期			○			講師	村尾 愛美		
—		言葉	演習		1		1年	前期						講師	菅野 清子		
—	幼児と言葉 (国語表現を含む)	演習		1		1年	後期		○	○	○		講師	古川 寿子			
—	保育内容の指導法「言葉」	演習		1		2年	前期		○	○	○		講師	古川 寿子			
—	福祉	社会福祉論	講義		2		2年	前期				○		講師	野崎 陽弘		
—		子ども家庭福祉	講義		2		2年	後期				○		講師	野田 敦史		
—		子ども家庭支援論	講義		2		2年	後期				○		専任講師	坂本 真季		
—		子育て支援	演習		1		2年	後期				○		講師	平田美智子	★	
—		社会的養護Ⅰ	講義		2		2年	前期				○		講師	平野 美香	★	
—		社会的養護Ⅱ	演習		1		2年	後期				○		講師	平野 美香	★	

掲載頁	系 列	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		卒 業 要 件	開 講 学 年	開 講 期	卒 業	教 職 免 許		資 格 保 育 士	発 達 BP	職 名	担 当	備 考
				必 修	選 択					幼 二	特 二					
—	環 境	保育内容の指導法「環境」	演 習		1		1 年	後 期		○	○	○		教授	大井 美緒	
—		音楽基礎演習Ⅰ	演 習		1		1 年	前 期						教授	町田 治	
—		音楽基礎演習Ⅱ	演 習		1		1 年	後 期						教授	町田 治	
—	表 現 (音楽)	幼児と表現(音楽)Ⅰ	演 習		2		1 年	通 年		○	○	○		教授 講師 講師 講師 講師	町田 治 浅賀ひろみ 武内理恵 中野由紀子 長永理恵 恵須川理津子	
—		幼児と表現(音楽)Ⅱ	演 習		1		2 年	前 期						教授 講師 講師 講師 講師	町田 治 山岸智秋 武内理恵 浅賀ひろみ 中野由紀子 長永理恵 恵須川理津子	
—		幼児と表現(音楽)Ⅲ	演 習		1		2 年	後 期						教授 講師 講師 講師 講師	町田 治 山岸智秋 武内理恵 浅賀ひろみ 中野由紀子 長永理恵 恵須川理津子	
—		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅰ」	演 習		1		1 年	後 期		○	○	○		講師	二木 秀幸	
—		保育内容の指導法「表現(音楽)Ⅱ」	演 習		1		2 年	前 期		○	○	○		講師	中野由紀子	
—	表 現 (造形)	幼児と表現(造形)Ⅰ	演 習		1		2 年	前 期		○	○	○		講師	森井 圭	
—		幼児と表現(造形)Ⅱ	演 習		1		2 年	後 期		○	○	○		講師	森井 圭	
—		保育内容の指導法「表現(造形)」	演 習		1		1 年	前 期		○	○	○		准教授	藤原 明子	
—	健 康	幼児と健康Ⅰ	演 習		1		1 年	前 期		○	○			教授	打越みゆき	
—		幼児と健康Ⅱ	演 習		1		2 年	前 期		○	○			講師	遠山 健太	
—		保育内容の指導法「健康」	演 習		1		2 年	前 期		○	○	○		教授	打越みゆき	
—		子どもの保健	講 義		2		2 年	前 期				○		講師	田中 笑子	
—		子どもの健康と安全	演 習		1		2 年	後 期				○		講師	田中 笑子	
—		子どもの食と栄養Ⅰ	演 習		1		2 年	前 期				○				
—		子どもの食と栄養Ⅱ	演 習		1		2 年	後 期				○		講師	佐藤 陽子	★
—	情 報	教育情報学	講 義		1		1 年	後 期		○	○			教授	中島千恵子	
—	教 育 実 習	幼稚園教育実習 (事前事後の指導を含む)	実 習		5		1 年	2 年	通 年 前 期	○	○			教授 教授 教授	中島千恵子 井出麻里子 大井 美緒	幼稚園二種 免許状取得 に必要な授 業科目
—		特別支援学校教育実習 (事前事後の指導を含む)	実 習		3		2 年	通 年			○			専任講師 専任講師	竹森 亜美 坂本 真季	特別支援学 校教諭二種 (知・肢・病) 免許状取得 に必要な授 業科目
—	保 育 実 習	保育実習Ⅰ(保育所)	実 習		2		2 年	後 期				○		教授	打越みゆき	保育士資 取得に必要 な授業科目 実習日数 (時間数)10 日(70時間) 以上
—		保育実習指導Ⅰ(保育所)	演 習		1		2 年	後 期				○				
—	キ ャ リ ア	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演 習	2		4	1 年	通 年	●					教授 准教授 専任講師	※ 学科専任教員	
—		幼児保育キャリア演習Ⅱ	演 習	2			2 年	通 年	●					教授 准教授 専任講師	※ 学科専任教員	
小 計					9	104										64
合 計						113										以上

★幼児保育学科2年課程で卒業する学生には2年次でも履修を認めている科目

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 専任講師 竹森 亜美 専任講師 坂本 真季

2 専攻科幼児保育専攻

2026年度入学生

専攻科幼児保育専攻 ディプロマ・ポリシー

本学のカリキュラムは、幼児保育学科2年を卒業し、更に専攻科1年を修了することで、高い保育技術・技能をもった保育者を育成することを目指している。

以下に挙げる資質・能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に修了を認定する。

DP1 カトリック・教養・人間性

カトリックの価値観と教養に基づき、広い視野に立って物事を熟考し、自律的に学びを深めていく素養を身につけている。

DP2 専門知識・技能

基本的な保育の知識・技術に基づきながら自らの専門性を磨き、実践力を習得するとともに、向上心をもって専門性を探求することができる。

DP3 思考力・判断力

子ども、そして子どもを取り巻く環境の多様性について理解し、多角的に考察するための知識および態度を習得している。

DP4 課題探求力・表現力

保育および子どもに関わる諸問題について関心をもち、客観的に課題を整理し説明するための基本的な技術を習得している。

DP5 コミュニケーション・協働性

保育者に求められるコミュニケーション力および他者と協働して取り組む姿勢を習得している。

専攻科幼児保育専攻 カリキュラム・ポリシー

専攻科幼児保育専攻では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針によってカリキュラムを編成している。

1. カトリックの価値観と教養に基づき社会人そして保育者としての倫理観を備え、愛情をもって他者に接する姿勢と、探求心をもって自律的に学ぶ力を習得できる。 } DP1 カトリック・教養・人間性
2. 保育現場で必要とされる知識・技術および思考力・判断力を習得できる。(保育士資格、発達障がい児保育ベーシックプログラム修了証の取得を目指す) } DP2 専門知識・技能
3. 子どもの発達および障がいに関わる知識を身につけ、子ども理解に基づく対応を習得できる。

- | | | |
|--|---|-------------------|
| 4. 現代の子どもを取り巻く環境について理解し、子育て支援の基本的な姿勢を習得できる。 | } | DP3 思考力・判断力 |
| 5. 保育および子どもに関する諸問題について探求し、客観的な情報に基づく考察力と説明力を習得できる。 | } | DP4 課題探求力・表現力 |
| 6. 目的に合わせた取り組みを企画・実践・反省・改善をする中で、他者と積極的に協働することができる。 | } | |
| 7. 他者とともに活動を計画・実践・省察することを通して、保育者として必要なコミュニケーション力および相手の立場を尊重し協働する力を習得できる。 | } | DP5 コミュニケーション・協働性 |

専攻科 幼児保育専攻の学習成果

- | | | |
|--|---|-------------------|
| 1. キリスト教・カトリックの価値観と教養に基づき、社会人そして保育者として愛情をもって他者と接する姿勢と自律的に学ぶ力を習得している。 | } | DP1 カトリック・教養・人間性 |
| 2. 保育現場で必要とされる知識・技術および思考力・判断力を習得している。 | } | DP2 専門知識・技能 |
| 3. 子どもの発達・情緒・障がいを含む子ども理解に基づく対応を習得している。 | } | |
| 4. 子どもを取り巻く環境を捉え、保護者支援・子育て支援の基本的な姿勢を習得している。 | } | DP3 思考力・判断力 |
| 5. 保育や子どもに関する諸問題に関心をもって探求し、客観的な情報に基づいて考察できる力と説明する力を習得している。 | } | DP4 課題探求力・表現力 |
| 6. 他者と活動を計画・実践・省察することを通して、保育者として必要なコミュニケーション力および他者と協働する姿勢を習得している。 | } | DP5 コミュニケーション・協働性 |

修了に必要な単位数・・・・・・・・・・ 22単位

履修上の注意

- 1 保育士資格取得希望者は、資格取得に必要な科目の単位を修得しなくてはならない。「4 免許・資格取得のための教育課程」の「3 保育士となる資格の取得」を参照しつつ、細心の注意をもって履修計画を立てること。
- 2 修了に必要な合計単位数は、22単位以上となる。
- 3 幼児保育学科の科目を履修することができるが、先ず専攻科の科目で22単位以上となるように履修すること。

[2026 (令和8) 年度 専攻科入学生] (2024 (令和6) 年度 幼児保育学科入学)
2026 (令和8) 年度 専攻科幼児保育専攻開講科目一覧

専攻科 幼児保育専攻専門教育科目

掲載頁	区別	授業科目	授業形態	単位数		修了要件	2024	2025	2026	開講期	修了	教職免許		資格		発達	職名	担当	備考	
				必修	選択必修		年度	年度	年度			開講期	修了	幼二	特二					保育士
109	キャリア	人格論	講義	4		6			専攻科	通年	●						教授	阿部 健一		
110		幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2					専攻科	通年	●									
111	幼児教育研究	卒業研究ゼミナール	演習	2		4			専攻科	通年	●						※学科専任教員			
118		卒業研究	演習	2					専攻科	通年	●									
119		特別演習 A	演習		1				専攻科	前期							教授	町田 治		
120		特別演習 B	演習		1				専攻科	後期							教授	町田 治		
121		特別演習 C	演習		1				専攻科	前期							教授	武田 秀美		
122		特別演習 D	演習		1				専攻科	後期							教授	武田 秀美		
123		特別演習 E	演習		1				専攻科	前期							教授	中島千恵子		
124		特別演習 F	演習		1				専攻科	後期							教授	中島千恵子		
125		特別演習 G	演習		1				専攻科	前期							教授	井出麻里子		
126		特別演習 H	演習		1				専攻科	後期							教授	井出麻里子		
127		特別演習 I	演習		1				専攻科	前期							教授	打越みゆき		
128		特別演習 J	演習		1				専攻科	後期							教授	打越みゆき		
129		特別演習 K	演習		1				専攻科	前期							教授	大井 美緒		
—		特別演習 L	演習		1				専攻科	後期							—	—	今年度閉講	
130		特別演習 M	演習		1				専攻科	前期							教授	服部 純一		
131		特別演習 N	演習		1				専攻科	後期							教授	服部 純一		
—		特別演習 O	演習		1				専攻科	前期							—	—	今年度閉講	
—		特別演習 P	演習		1				専攻科	後期							—	—	今年度閉講	
132		特別演習 Q	演習		1				専攻科	前期							准教授	竹森 亜美		
133		特別演習 R	演習		1				専攻科	後期							准教授	竹森 亜美		
—	特別演習 S	演習		1				専攻科	前期							—	—	今年度閉講		
134	特別演習 T	演習		1				専攻科	後期							准教授	坂本 真季			
135	特別演習 U	演習		1				専攻科	前期							講師	野口 祐里			
136	特別演習 V	演習		1				専攻科	後期							講師	野口 祐里			
137	特別演習 W	演習		1				専攻科	前期							講師	森井 圭			
—	特別演習 X	演習		1				専攻科	後期							—	—	今年度閉講		
138	保育士必修	子どもの食と栄養Ⅰ	演習		1		2年	専攻科	前期							○	講師	新澤 佳代		
139		子どもの食と栄養Ⅱ	演習		1		2年	専攻科	後期							○	講師	新澤 佳代		
140		社会的養護Ⅰ	講義		2			2年	専攻科	前期							○	講師	平野 美香	
141		社会的養護Ⅱ	演習		1			2年	専攻科	後期							○	講師	平野 美香	
142		子育て支援	演習		1			2年	専攻科	後期							○	講師	平田美智子	
143		保育実習Ⅰ (施設)	実習		2				専攻科	前期							○			
144		保育実習指導Ⅰ (施設)	演習		1				専攻科	前期							○			
145		保育実習Ⅱ (保育所)	実習		2				専攻科	後期										
146		保育実習指導Ⅱ (保育所)	演習		1				専攻科	後期										
147		保育実習Ⅲ (保育所以外の施設)	実習		2				専攻科	後期										
148	保育実習指導Ⅲ (保育所以外の施設)	演習		1				専攻科	後期										「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習指導Ⅲ」のいずれかを選択必修実習時間10日(70時間)以上	
149	資格必修	ベビーシッター論	講義		2			専攻科	前期								講師	平野 美香		
150		発達障がい児指導法演習	演習		2			専攻科	通年							○	教授 准教授 准教授	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季		
小計				10	43	22														
合計				53		以上														

※学科専任教員 教授 町田 治 教授 武田 秀美 教授 中島千恵子 教授 井出麻里子 教授 打越みゆき
教授 大井 美緒 教授 服部 純一 准教授 竹森 亜美 准教授 坂本 真季

4 免許・資格取得のための教育課程

各種免許と資格

免許・資格の種類		免許・資格取得料及び納入時期			備考
		1年次	2年次	専攻科	
幼稚園教諭二種免許状		45,000円			1年次履修登録後、6月頃納入。
特別支援学校 教諭二種免許状	教育実習費		15,000円		2年次履修登録後、6月頃納入。専攻科で 実習を行う場合は、専攻科で6月頃納入。
	資格申請料		5,000円	*5,000円	2年次履修登録後、6月頃納入。 ※専攻科で実習を行う場合は、個人申請。
保育士資格	保育実習費		20,000円		2年次履修登録後、6月頃納入。
	資格取得料			45,000円	専攻科履修登録後、6月頃納入。
社会福祉主事任用					成績証明書及び卒業証明書をもって証明さ れる。
ピアヘルパー			9,000円		受験する年度の11月頃納入。
准学校心理士			16,500円		申請年度7月頃 資格審査手数料・事務手 続料等3,500円納入。合格者は11～12月 頃に登録事務手数料・年会費3年分・事務 手続料等として13,000円納入。
認定ベビーシッター				9,700円	専攻科、12～1月頃納入。
発達障がい児保育 ベーシックプログラム					無料。
小学校教諭免許状（一種、二種）		※星槎大学との教育連携により、本学在学中から必要な科目を履修することが 可能です。本学の学費の他に、星槎大学の科目の受講料等別途費用がかかります。免許状取得に必要な単位数は、星槎大学入学ガイダンス等にて説明し ます。			

- ・各資格の申し込みは、原則4月の履修登録時に行う。
- ・履修登録を行い、所定の単位を修得し、免許・資格取得料を納入することにより資格が得られる。
(資格によっては、試験が必要な場合もある。)
- ・申し込みの詳細については、教務課より掲示されるので、よく確認すること。
- ・免許・資格取得料は納入後は返付されない。また、経済情勢の急激な変動などにより改訂することもある。

1 幼稚園教諭二種免許状の取得 (2019年度以降入学生)

幼稚園教諭二種免許状（以下、幼稚園教諭免許状）は、幼児保育学科に設定されている幼稚園教諭免許状取得に必要な科目の単位を修得し、幼児保育学科を卒業することにより授与されるものである。

幼稚園教諭免許状の取得条件

資格を取得するには、次頁の表に示す通り、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」を8単位、「教職に関する科目」を38単位、修得しなければならない。

幼稚園教育実習

1. 幼稚園教育実習は、本学が内諾を得た幼稚園（本人が希望する幼稚園を含む。ただし、無認可幼稚園は認められない）で実施される。
2. 幼稚園教育実習は、前期（1年次11月に2週間）と後期（2年次6月に2週間）の計4週間にわたって実施される。
3. 幼稚園教育実習を行うためには、次に定める条件が求められる。条件がクリアされていない場合は個別指導を行う。個別指導を受けない場合、あるいは指導の効果が認められない場合は、実習を行うことは出来ない。

(1) 「幼稚園教育実習（事前事後の指導を含む）」の授業について

◆学習態度・意欲

- ① 授業には全回出席すること。体調不良・事故等避けられない事情によって欠席した場合は、授業前に担当教員に連絡を入れ、次の授業前に指導を受けること。体調不良で欠席する場合は、必ず病院に行き、診断書もしくは病院のレシートを提出すること。
- ② 授業中は熱心に講義を聴き、課題に取り組むこと。
- ③ 教職員からの連絡には速やかに応じること。

◆提出物

- ① 幼稚園教育実習関連の書類は正確に記入し、期限内に提出すること。
- ② 授業内に課された課題を期限内に提出すること。
- ③ 提出した課題が合格点に達していること（合格点に達するまで再提出が課される）。

(2) 取得単位について

- ① 幼稚園教育実習【前期】（1年次11月）
1年の前期が終了した時点で、「教育方法論」を取得していること。
- ② 幼稚園教育実習【後期】（2年次6月）
1年の後期が終了した時点で「保育・教育課程論」を取得し、かつ次頁の「教職に関する科目」に指定されている科目を10単位以上取得していること。

(3) 健康について

- ① 実習を行う前に健康診断を受け、その結果が実習に支障がないこと。支障がある場合は、実習前までに治療し、支障が無くなった旨の証明書を提出すること。
- ② 既往歴のある場合は事前に申告すること。

免許取得料

幼稚園教諭免許状に必要な免許取得料に関しては、「4. 免許・資格取得のための教育課程」の「各種免許と資格」の項を参照すること。なお、一旦納入された資格取得料は返付されない。

幼稚園教諭免許状の申請

幼稚園教諭免許状は、幼児保育学科卒業までに幼稚園教諭免許状取得に必要な要件を満たし、手続きを終えた者に限り、本学より東京都教育委員会に一括申請する。本科卒業後専攻科修了までに必要単位を満たした場合は、各自個人申請することによって、免許を取得することが出来る。

■ ■ ■ 幼稚園教諭二種免許状取得に必要な授業科目 (2022年度以降入学生) ■ ■ ■

基礎資格	短期大学士(幼児教育学)
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	8単位
教科及び教職に関する科目	38単位
幼稚園教諭二種免許状取得に必要な単位	46単位

・教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

教育職員免許法施行規則に定める科目	単位数	本学が開設している授業科目	開講学年	単位数	備考(履修方法等)
日本国憲法	2	日本国憲法	2年	2	
体育	2	健康科学	1年	1	
		体育実技	1年	1	
外国語コミュニケーション	2	基礎英語Ⅰ	1年	2	「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」又は「イタリア語入門Ⅰ」「イタリア語入門Ⅱ」のいずれか2単位の履修が必要である。
		基礎英語Ⅱ	1年		
		イタリア語入門Ⅰ	1年		
		イタリア語入門Ⅱ	1年		
情報機器の操作	2	情報処理	1年	2	
免許法による修得単位	8	本学の修得単位		8	

・教科及び教職に関する科目

施行規則に定める科目区分等		単位数	本学が開設している授業科目	開講学年	単位数	備考(履修方法等)		
領域及び保育内容の指導演法に関する科目	領域に関する専門的事項	12	健康	幼児と健康Ⅰ	1年	1		
			人間関係	幼児と健康Ⅱ	2年	1		
			環境	幼児と人間関係	2年	1		
			言葉	幼児と言葉(国語表現を含む)	1年	1		
			表現	幼児と表現(音楽)Ⅰ	1年	2		
	領域及び保育内容の指導演法に関する科目	保育内容の指導演法(情報機器及び教材の活用を含む。)	6	幼児と表現(造形)Ⅰ	2年	1		
				幼児と表現(造形)Ⅱ	2年	1		
				保育内容総論	2年	1		
				保育内容の指導演法「健康」	2年	1		
				保育内容の指導演法「人間関係」	2年	1		
				保育内容の指導演法「環境」	1年	1		
				保育内容の指導演法「言葉」	2年	1		
				保育内容の指導演法「表現(音楽)Ⅰ」	1年	1		
				保育内容の指導演法「表現(音楽)Ⅱ」	2年	1		
保育内容の指導演法「表現(造形)」	1年	1						
教育の基礎的理解に関する科目等	教育の基礎的理解に関する科目	6	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	1年	2	*教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)を含む。	
			教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	保育者論	2年	2	*教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)を含む。	
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	*教育原理 *保育者論			*	
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達心理学	1年	2		
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育総論	1年	2		
			教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	保育・教育課程論	1年	2		
	道徳、総合的な学習の時間等の指導演法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	4	4	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育方法論	1年	2	**幼児理解の理論及び方法を含む
				幼児理解の理論及び方法	教育情報学	1年	1	
				教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	**教育方法論 **教育相談基礎論			**
				教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談基礎論	2年	2	**幼児理解の理論及び方法を含む
教育実践に関する科目	5	5	幼稚園教育実習(事前事後の指導を含む)	1年 2年	5	「幼児保育学科専門教育科目」に含まれない「教職専門科目」で、文部科学省が指定している幼稚園教諭免許状取得に必要な科目である。教育実習は1年後期、2年前期に各1回実施される。事前事後の指導は1年、2年にわたって適宜開講される。		
			教職実践演習	保育・教職実践演習(幼稚園)	2年	2		
免許法による修得単位		29	本学の修得単位		38			

2 特別支援学校教諭二種免許状 (知的障害者・肢体不自由者・病弱者) の取得

特別支援学校教諭二種免許状（以下、特別支援学校教諭免許状）は、幼稚園教諭二種免許状取得者、および取得見込者が、特別支援学校教諭免許状の取得に必要な科目の単位を修得することにより、取得できる。

特別支援学校免許状の取得条件

資格を取得するには、次頁の表に示す通り、「特別支援教育の基礎理論に関する科目」、「特別支援教育領域に関する科目」、「免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目」、「心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習」の必修科目を履修しなければならない。

特別支援学校教育実習

- 1 特別支援学校における教育実習は、本学が依頼し、承諾を得た学校にて実施される。
- 2 特別支援学校の学校数には限りがあるため、毎年 20 名程度が教育実習を受けることができる。
- 3 教育実習を受けることができる学生は、2月の成績認定後に希望者の中から選抜される。
- 4 選抜は、2年次において実習を予定している1年次生、専攻科において実習を予定している2年次生が対象となる。
- 5 選抜を受けようとする者は、以下の基準を満たす必要がある。
 - 〈1年次生〉
 - (1) 幼稚園教育実習（前期）に正規の実習期間で参加していること。
 - (2) 幼稚園教育実習（前期）の実習評価がB以上であること。
 - (3) 「特別支援教育総論」、「障害者教育総論（知・肢・病）」の単位を修得していること。
 - (4) その他の諸条件については、実習ハンドブック「選抜対象条件（1年次生）」を参照すること。
 - 〈2年次生〉
 - (1) 幼稚園教諭第二種免許取得見込者であること。
 - (2) 幼稚園教育実習（後期）の成績（事前事後指導含む）がB以上であること。
 - (3) 次頁の「特別支援教育の基礎理論に関する科目」、「特別支援教育領域に関する科目」、「免許状に定められることになる特別支援教育領域以外の領域に関する科目」のうち必修科目の単位を修得していること。
 - (4) その他の諸条件については、実習ハンドブック「選抜対象条件（2年次生）」を参照すること。
- 6 特別支援学校教育実習は、10月から12月の期間に2週間にわたって行われる。
- 7 特別支援学校教育実習を行うには、次の条件を満たしておくこと。
 - ①実習を行う前に健康診断を受け、その結果が実習に支障がないこと。
 - ②実習前に麻疹抗体証明を提出すること。
 - ③既往歴のある場合は、事前に申告すること。
- 8 特別支援学校教育実習に関わるガイダンスは、1年次の4月に行う。

免許取得料

特別支援学校教諭免許状に必要な免許取得料に関しては、「4. 免許・資格取得のための教育課程」の「各種免許と資格」の項を参照すること。なお、一旦納入された免許取得料は返付されない。

特別支援学校教諭免許状の申請

特別支援学校教諭免許状は、幼児保育学科卒業までに特別支援学校教諭免許状取得に必要な要件を満たし、手続きを終えた者に限り、本学より東京都教育委員会に一括申請する。そのために必要な手続き等については、その都度指示する。専攻科にて教育実習を行う場合等は、各自、居住地の都道府県教育委員会にて個人申請することによって免許を取得することができる。

■特別支援学校教諭（知的障害・肢体不自由・病弱）二種免許状取得に必要な授業科目（2023年度以降入学生）■

基礎資格	短期大学士(幼児教育学)
有する教諭の普通免許状の種類	幼稚園教諭二種免許状
特別支援学校教諭（知的障害・肢体不自由・病弱）二種免許状取得に必要な単位	20単位

・特別支援教育に関する科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目	本学が開設している授業科目	中心となる領域	含む領域	開講学年	単位数	備考
特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育総論			1年	2	
特別支援教育領域に関する科目	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理	知		2年	1
		肢体不自由者の心理・生理・病理	肢		2年	1
		病弱者の心理・生理・病理	病		2年	1
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者教育論（指導法を含む）	知		2年	1
		肢体不自由者教育論（指導法を含む）	肢		2年	1
		病弱者教育論（指導法を含む）	病		2年	1
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害者教育総論（知・肢・病）	知	肢・病	1年	2	
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	視覚障害者の心理・生理・病理	視		2年	1
		聴覚言語障害者の心理・生理・病理	聴		2年	1
		自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	発達	重	1年	1
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚・聴覚言語障害者教育論（指導法を含む）	視	聴	2年	1
		自閉スペクトラム症者の支援	発達	重	1年	1
・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複障害・LD等教育論	重		2年	2	
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	特別支援学校教育実習（事前事後の指導を含む）			2年	3	
特別支援学校教諭（知・肢・病）二種免許状取得に必要な単位					20単位	

3 保育士となる資格の取得 (2024年度入学生)

本学は、3年課程の指定保育士養成施設「星美学園短期大学幼児保育学科専攻科幼児保育専攻」である。
(平成15年3月27日関厚発第0327015号指定)

「保育士資格」は、幼児保育学科および専攻科幼児保育専攻に設定されている保育士資格取得に必要な科目の単位を修得し、幼児保育学科を卒業、専攻科幼児保育専攻を修了することによって授与されるものである。保育士資格取得希望者の決定は、入学後のガイダンスにおいて行われる。

保育士資格の取得条件

幼児保育学科と専攻科幼児保育専攻の通算3年間の学修により資格を取得することができる。資格を取得するには、幼児保育学科及び専攻科幼児保育専攻で必要な科目の単位を修得しなければならない。

幼児保育学科在学中に、保育士資格取得のために課せられた科目の単位を修得していなければ、専攻科に進んでも資格の取得はできないので、幼児保育学科入学時から、計画的に履修する必要がある。

- (1) 保育実習は、「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」の、3回を行わなければならない。
- (2) 「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅱ（保育所）」は、原則として、同じ保育所で実習を行う。
- (3) 実習施設に関しては、「保育実習Ⅰ（保育所）」・「保育実習Ⅱ（保育所）」は、本人が選んだ希望する保育所で実習を行う¹。その際、無認可保育所での実習は認められないので、注意すること。「保育実習Ⅰ（施設）」・「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」に関しては、本学が内諾を得ている実習施設で実習を行う²。

保育実習に行く条件

星美学園短期大学幼児保育学科、専攻科では3回の保育実習がある。この保育実習を行うためには、以下に定める条件をすべてクリアしてはならない。これらはいずれも、星美学園が目指す保育者としての資質を養うためにとっても大切な事項である。

1. 健康について

- ① 実習を行う前に健康診断を受け、その結果が、実習に支障がないこと。
- ② 実習を行う前に、「麻疹・風疹に関する問診票」を提出すること。
- ③ 実習前の定められた期限に細菌検査を受け、その結果が、実習に支障がないこと。
(新型コロナウイルス感染症の抗原検査もしくはPCR検査を行う場合がある。)
- ④ 既往歴（大けが、発作、アレルギー、心身の不調など）のある場合は事前に申告し、実習に支障がないこと。

2. 保育士資格に必要な科目（「保育実習」「保育実習指導」を除く）に関して、次の事項を満たしていること。

- ① 幼児保育学科本科卒業までに、本科で開講している保育士必修科目は原則的に取得しておくこと。本科における未履修科目については、専攻科で単位の修得をしなければならない。
- ② 「保育実習Ⅰ（保育所）」については、2年生前期までの保育士必修科目について、80%以上の科目数が取得できていない場合は実習に行くことはできない。
- ③ 幼児保育学科2年前期末のGPAが1.0に届かない場合は実習に行くことはできない。また、幼児保育学科2年後期末のGPAが1.0に届かない場合は、専攻科での実習に行くことはできない。
- ④ 幼児保育学科2年前期末の履修している全科目の出席率が70%未満の場合は実習に行くことはできない。
- ⑤ 保育士必修科目の授業については全回出席していること。やむをえない場合であっても、実習前の保育士必修科目の授業を1/3以上欠席し失格になった場合、実習に行くことはできない。
- ⑥ 原則として、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」が完了していない場合、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の実習は行くことができない。

¹ 申し込みをした自治体によっては希望とは異なる保育所に配属されることがある。

² 「保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）」については自己開拓を認めることがある。

実習施設の都合により、実習の順序が入れ替わった場合、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」が合格点を取っても、「保育実習Ⅰ」の保育所または施設のいずれかの実習が不合格の場合は、「保育実習Ⅱ・Ⅲ」の単位は取ることができない。

- ⑦ 「保育実習指導」と「保育実習」はセットで単位を取るため、どちらかが失格・不合格の場合、両方とも単位が取れなくなる。

3. 事務上の手続き・行動について

- ① 専攻科幼児保育専攻進学希望者に対しては、1年次から、「保育実習ガイダンス」が行われるので、必ず出席し、手順について、詳細を確認すること。
- ② 保育実習関連の書類等は正確に記入し、期限内に提出すること。
- ③ 保育実習関連の費用を期限内に納入すること。
- ④ 教職員の呼出・連絡にはすみやかに誠実に応じ、自らも積極的に報告・相談・連絡をすること。
- ⑤ 保育実習中の就職活動¹、および、保育実習1週間前～終了後1週間の期間のアルバイトは禁止(感染症対策など、特別に自宅待機期間が設けられている場合は、その期間を守ること)。

4. 「保育実習」「保育実習指導」の授業に関して、次の事項を満たしていること。

- ① 「保育実習」の授業、および、個別に行う事前・事後指導にすべて出席していること。
やむをえず欠席する場合は、必ず事前に保育実習担当教員全員にメールで連絡を入れ、欠席した分の補講もしくは課題を次の授業までに完了させる必要がある。
- ② 「保育実習指導」の授業、および事前事後指導における課題を期限内に提出すること。
- ③ 「保育実習指導」の授業、および事前事後指導における課題等が合格点に達すること。
- ④ 度重なる提出物の遅れ、授業への無断欠席、課題の不合格が続き、改善の様子が見られない場合は、実習担当者で審議のうえ、実習を中止とする。目安としては、提出遅れが3回続いた場合、3回目で実習担当者と個別面談の上、保護者に連絡を入れて事情の説明をし、行動改善計画を提出する。行動改善がなく、通算で5回目となった場合、実習を中止する。
- ⑤ その他、不正行為および学則に違反する行為など、学生として不適切な行為があった場合には、実習を中止する。実習担当者と個別面談の上、保護者に連絡を入れて事情の説明をし、行動改善計画を提出する。行動改善がない場合、実習を中止する。

5. 「保育実習」「保育実習指導」は、上記の1～4および、次の項目のすべてを満たした場合に合格となる。

- ① すべての実習が、それぞれ **70時間以上を満たし**、完了していること。
- ② 実習終了後、遅くとも3日以内に『保育実習日誌』を実習施設に提出し、1週間以内にお礼状(封書)を送付すること。
- ③ 事後指導終了後、指定された期日までに保育実習日誌を提出し、合格点に達していること。
- ④ 授業評価、実習園評価、日誌評価、事前事後指導評価を総合した成績が、及第点(60点)に達していること。

保育士資格取得に必要な単位

保育士資格取得には、次頁以降に示した保育士の資格に関する科目を3年間で合計93単位以上修得しなければならない。

<幼稚園教育実習未経験者への補習>

幼稚園での教育実習を完了せずに保育実習に臨む場合は、保育実習担当教員の指示に従い、所定の日数、保育所等でボランティアを行い、日誌記入の練習を行う。

¹ 実習開始日より4週間前までに保育実習担当教員に届け出た場合、公務員試験(保育士)のみ受験可能とします。但し、その場合であっても実習施設の意向が優先されること、実習中の受験は1回のみ、実習の休日(1日)が試験日にあてられる可能性があることに留意して下さい。

■■■■保育士資格取得に必要な修業教科目■■■■

保育士養成施設卒業に必要な単位数	単位数		
	必修	選択	計
	78	15	93

【設置単位数】

教科目の種別	設置単位数	単位数		
		必修	選択	計
教養科目	10 単位以上	6	14	20
告示別表第1による教科目	51 単位以上	54	0	54
告示別表第2による教科目	18 単位以上	4	25	29
小計		64	39	103
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目		14	31	45
合計		78	70	148

【保育士資格取得に必要な履修単位数】

教科目の種別	保育士資格取得に必要な履修単位数	単位数		
		必修	選択	計
教養科目	8 単位以上	6	4 以上	10 以上
告示別表第1による教科目	51 単位以上	54	0	54
告示別表第2による教科目	9 単位以上	4	5 以上	9 以上
計		64	9 以上	73 以上
保育士資格取得教科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目		14	6 以上	20 以上
合計		78	15 以上	93 以上

(3年間で93単位以上)

【教養科目】

厚生労働省告示による教科目				本学における教科目の開設状況等							本学における履修方法				
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	必修	選択	設置単位数	授業時間数	対象学年					
教養科目	外国語、 体育以外の 科目	不問	6 以上	キリスト教学	演習			2	60	1 年		必修			
				人間学Ⅰ	演習	1			30		2 年		必修		
				人間学Ⅱ	演習	1			30		30	2 年		必修	
				聖書学特講	講義		2		30	1 年					
				ドン・ボスコ研究	講義		2		30	1 年					
				心理学	講義		2		30	1 年					
				日本国憲法	講義		2		30			2 年			
	外国語	演習	2 以上	基礎英語Ⅰ	演習			1	30	1 年			「基礎英語Ⅰ」「基礎英語Ⅱ」又は「イタリア語入門Ⅰ」「イタリア語入門Ⅱ」のいずれかを2単位選択必修		
				基礎英語Ⅱ	演習		1	30	1 年						
				イタリア語入門Ⅰ	演習		1	30	1 年						
				イタリア語入門Ⅱ	演習		1	30	1 年						
	体育	講義	1	健康科学	講義	1			15	1 年		必修			
		実技	1	体育実技	実技	1			30	1 年		必修			
	設置単位数		10 単位以上		本学における設置単位数			20 単位							
履修単位数		10 単位以上		本学における最低履修単位数			10 単位以上								

【必修科目】

厚生労働省告示別表第1による教科目				本学における教科目の開設状況等							本学における履修方法
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数 必修 選択	授業時間数	対象学年			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	30		2年	必修	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	30	1年		必修	
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	2	30		2年	必修	
	社会福祉	講義	2	社会福祉論	講義	2	30		2年	必修	
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	30		2年	必修	
	社会的養護 I	講義	2	社会的養護 I	講義	2	30		2年	専攻科 必修	
	保育者論	講義	2	保育者論	講義	2	30		2年	必修	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	発達心理学	講義	2	30	1年		必修	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	30		2年	必修	
	子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	1	30	1年		必修	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	30		2年	必修	
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養 I	演習	1	30		2年	専攻科 必修	
				子どもの食と栄養 II	演習	1	30		2年	専攻科 必修	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育・教育課程論	講義	2	30	1年		必修	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1	30		2年	必修	
	保育内容演習	演習	5	保育内容の指導法「健康」	演習	1	30		2年	必修	
				保育内容の指導法「人間関係」		1	30		2年	必修	
				保育内容の指導法「環境」		1	30	1年		必修	
				保育内容の指導法「言葉」		1	30		2年	必修	
				保育内容の指導法「表現(造形)」		1	30	1年		必修	
				保育内容の指導法「表現(音楽)」I		1	30	1年		必修	
				保育内容の指導法「表現(音楽)」II		1	30		2年	必修	
	保育内容の理解と方法	演習	4	幼児と健康 I	演習	1	30	1年		必修	
				幼児と言葉(国語表現を含む)		1	30	1年		必修	
				幼児と表現(音楽) I		2	60	1年		必修	
				幼児と表現(造形) I		1	30		2年	必修	
	乳児保育 I	講義	2	乳児保育 I	講義	2	30		2年	必修	
	乳児保育 II	演習	1	乳児保育 II	演習	1	30		2年	必修	
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	1	30		2年	必修	
障害児保育	演習	2	障がい児保育 I	演習	1	30		2年	必修		
			障がい児保育 II		1	30		2年	必修		
社会的養護 II	演習	1	社会的養護 II	演習	1	30		2年	専攻科 必修		
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	1	30		2年	専攻科 必修		
保育実習	保育実習 I	実習	4	保育実習 I (保育所)	実習	2	70◎		2年	必修	
				保育実習 I (施設)		2	70◎		専攻科 必修		
	保育実習指導 I	演習	2	保育実習指導 I (保育所)	演習	1	30		2年	必修	
				保育実習指導 I (施設)		1	30		専攻科 必修		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習	2	30		2年	必修	
設置単位数		51 単位以上		本学における設置単位数		54 単位					
履修単位数		51 単位以上		本学における最低履修単位数		54 単位					

©2023年度までの幼児保育学科入学生:88

【選択必修科目】

厚生労働省告示別表第2による教科目				本学における教科目の開設状況等							本学における履修方法		
系列	教科目	授業形態	設置単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数		授業時間数	対象学年				
						必修	選択						
保育の本質・目的に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育の内容・方法に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15以上	特別支援教育総論	講義		2	30	1年			このうち15単位以上を選択必修	
				障害者教育総論（知・肢・病）	講義		2	30	1年				
				重複障害・LD等教育論	講義		2	30		2年			
				教育相談基礎論	講義		2	30		2年			
				幼児と人間関係	演習	1		30		2年			必修
				幼児と健康Ⅱ	演習		1	30		2年			
				知的障害者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				肢体不自由者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				病弱者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	講義		1	15	1年				
				自閉スペクトラム症者の支援	講義		1	15	1年				
				視覚障害者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				聴覚言語障害者の心理・生理・病理	講義		1	15		2年			
				教育方法論	講義	2		30	1年				必修
				教育情報学	講義		1	15	1年				
幼児と表現（音楽）Ⅱ	演習		1	30		2年							
幼児と表現（音楽）Ⅲ	演習		1	30		2年							
幼児と表現（造形）Ⅱ	演習	1		30		2年		必修					
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2	70◎			専攻科 「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」「保育実習指導Ⅲ」の履修が必要		
				保育実習Ⅲ（保育所以外の施設）	実習		2	70◎					
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1	30					
				保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設）	演習		1	30					
設置単位数	18単位以上	本学における設置単位数			29単位								
履修単位数	9単位以上	本学における最低履修単位数			9単位以上								

©2023年度までの幼児保育学科入学生:88

【本学独自の科目】

本学における教科目の開設状況等								本学における履修方法
左に対応して開設されている教科目	授業形態	設置単位数		授業時間数	対象学年			
		必修	選択					
保育士資格取得教科目でないが、学校独自の科目として開講されたいる教科目	人格論	講義	4		60		専攻科	必修
	卒業研究ゼミナール	演習	2		60		専攻科	必修
	卒業研究	演習	2		60		専攻科	必修
	幼児保育キャリア演習Ⅰ	演習	2		60	1年		必修
	幼児保育キャリア演習Ⅱ	演習	2		60	2年		必修
	幼児保育キャリア演習Ⅲ	演習	2		60		専攻科	必修
	特別演習A	演習		1	30		専攻科	
	特別演習B	演習		1	30		専攻科	
	特別演習C	演習		1	30		専攻科	
	特別演習D	演習		1	30		専攻科	
	特別演習E	演習		1	30		専攻科	
	特別演習F	演習		1	30		専攻科	
	特別演習G	演習		1	30		専攻科	
	特別演習H	演習		1	30		専攻科	
	特別演習I	演習		1	30		専攻科	
	特別演習J	演習		1	30		専攻科	
	特別演習K	演習		1	30		専攻科	
	特別演習L	演習		1	30		専攻科	
	特別演習M	演習		1	30		専攻科	
	特別演習N	演習		1	30		専攻科	
	特別演習O	演習		1	30		専攻科	
	特別演習P	演習		1	30		専攻科	
	特別演習Q	演習		1	30		専攻科	
	特別演習R	演習		1	30		専攻科	
	特別演習S	演習		1	30		専攻科	
	特別演習T	演習		1	30		専攻科	
	特別演習U	演習		1	30		専攻科	
	特別演習V	演習		1	30		専攻科	
	特別演習W	演習		1	30		専攻科	
	特別演習X	演習		1	30		専攻科	
	幼児と表現（言葉）	演習		1	30	1年		
	音楽基礎演習Ⅰ	演習		1	30	1年		
	音楽基礎演習Ⅱ	演習		1	30	1年		
ベビーシッター論	講義		2	30		専攻科		
発達障がい児指導法演習	演習		2	30		専攻科		
本学における設置単位数		45 単位						
本学における最低履修単位数		20 単位以上						

このうち 20 単位以上を選択必修

4 社会福祉主事任用資格の取得

社会福祉主事とは、都道府県、市および福祉事務所を置く町村に置かれる職である（社会福祉法第18条）。地方自治体の社会福祉事務所の職員（ケースワーカー）として、福祉六法（生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、老人福祉法）に基づき、保護・援助を必要とする人のために相談・指導・援助を行う。具体的には、福祉サービスを必要とする生活困窮者や母子家庭、老人、障害者の相談にのり、生活保護の適用や保育所等の福祉施設への入所のための手続きを行う。

社会福祉主事任用資格とは、社会福祉主事として任用される際に要求される資格のことである。よって、福祉事務所において社会福祉主事として採用された際、活きる資格である。ただし、社会福祉に関する基礎的な事項を学習した証明になることから、社会福祉主事任用資格を採用条件として職員募集をする民間の福祉施設もある。

履修条件

下記の科目の中から、3科目以上を履修し、卒業すると「社会福祉主事任用資格」を取得できる。

■■■社会福祉主事任用資格に関する開講科目■■■

授業科目名	単位数	指定科目 * 1
社会福祉論	2	社会福祉概論
子ども家庭福祉	2	児童福祉論
保育原理	2	保育理論
教育原理	2	教育学
心理学	2	心理学

* 1：指定科目は、社会福祉法第19条第1項に基づく「厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目」の名称である。本学では、授業科目名に記された科目が指定科目の読み替え範囲に該当する。

〔資格の証明〕

社会福祉主事任用資格は、履修済科目が記載された成績証明書および卒業証明書をもって証明される。

5 ピアヘルパー資格の取得

ピアヘルパー資格は、学生を対象とした「NPO 法人 日本教育カウンセラー協会」の認定資格である。ピアヘルパーとは、カウンセリングの素養を持ちながら仲間を援助するという意味で、具体的には仲間の話を聞きながら、心の重荷を分け持ち、相手の心を軽くするような手伝いをするることである。

取 得 条 件

ピアヘルパーの資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 幼児保育学科生および専攻科生であること。
- 2 下記の科目を履修し、その単位を修得していること。

① 発達心理学	2 単位
② 教育相談基礎論	2 単位
③ 子ども家庭支援論	2 単位（2 年次生は単位修得見込み）

合 計 6 単位

- 3 日本教育カウンセラー協会の認定試験を受験し、合格すること。

認 定 試 験

認定試験受験手続きは10～11月上旬、認定試験は2月上旬に行われる。詳細は、教務課の掲示により確認すること。

6 准学校心理士資格の取得

准学校心理士資格は、「一般社団法人 学校心理士認定運営機構 准学校心理士資格認定委員会」の認定資格である。准学校心理士は、学校心理士になるための資格である。従来、学校心理士取得には、大学院修了や4年制大学卒業に加え、一定期間の実務経験が必要であった。しかし、准学校心理士を取得することで、短期大学卒業者も学校心理士を取得することが可能になった。

なお、学校心理士認定運営機構によると、学校心理士とは学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対して、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって、心理教育的援助サービスを行うことのできる者である。

准学校心理士取得条件

准学校心理士の資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 幼児保育学科生および専攻科生であること。
- 2 幼稚園教諭2種免許状または保育士の資格を有していること（取得見込みを含む）。
- 3 下記の科目を履修し、その単位を修得していること。

① 発達心理学	2単位
② 特別支援教育総論	2単位
③ 教育相談基礎論	2単位（2年次は単位修得見込み）
合計	6単位
- 4 「一般社団法人学校心理士認定運営機構 准学校心理士資格認定委員会」の審査を受け、合格すること。

資格認定審査

資格認定審査の申請は、7～8月に行われ、審査結果は10～12月に通知される。審査に合格した場合、その後の登録手続きを行うことによって、資格認定証が授与される。

学校心理士受験資格の付与

准学校心理士の資格を有する者が学校心理士の受験資格を得ようとするには、下記の条件を満たさなければならない。なお、准学校心理士の資格有効期間は原則、3年間である。この期間のうちに、学校心理士受験資格の申請を行う必要がある。

- 1 幼稚園や特別支援学校等の1条校または保育所等の保育施設において、3年間の専門的な実務経験を有すること。
- 2 准学校心理士として学校心理士認定運営機構や学校心理士会の研修会に参加し、10ポイント以上の研修ポイントを取得すること。

7 認定ベビーシッター資格の取得

認定ベビーシッターとは、「公益社団法人 全国保育サービス協会」の認定資格である。この資格は、ベビーシッターとして必要な職業倫理を備え、専門知識・技術を有することを証明するものである。保育士養成校で取得するには、認定ベビーシッター資格取得指定校として認定された大学・短期大学にて、「在宅保育」に関する科目を修得する必要がある、本学はその指定校となっている。

取得条件

認定ベビーシッターの資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 保育士の資格取得に必要な科目（「3 保育士となる資格の取得」参照）と専攻科科目「ベビーシッター論」を修得し、かつ専攻科幼児保育専攻を修了すること。
- 2 すでに保育士の資格を取得していて、科目等履修生として専攻科科目「ベビーシッター論」を履修し、その単位を修得すること。

8 発達障がい児保育ベーシックプログラムの修了認定資格の取得

発達障がい児保育ベーシックプログラム修了認定資格は、本学独自の認定資格である。この資格は、保育の現場で発達障がい児に適切な支援ができる基本的な知識・技術・態度を有することを証明するものである。

取得条件

「発達障がい児保育ベーシックプログラム」の修了認定資格を取得するには、下記の条件を満たしていなければならない。

- 1 本学幼児保育学科で幼稚園教諭2種免許状を取得しており、本学専攻科幼児保育専攻にて保育士の資格を取得見込であること。
- 2 幼児保育学科にて以下の科目の単位を修得すること。

①障害者教育総論（知・肢・病）	2単位
②特別支援教育総論	2単位
③自閉スペクトラム症者の心理・生理・病理	1単位
④自閉スペクトラム症者の支援	1単位
⑤重複障害・LD等教育論	2単位
⑥知的障害者の心理・生理・病理	1単位

- 3 専攻科幼児保育専攻にて以下の科目の単位を修得すること。

発達障がい児指導法演習 2単位

- 4 修了試験に合格すること。

※修了試験に関しては、別途ガイダンスを行う。

※修了試験にやむを得ない事情（病気・事故等）で欠席した場合は、追試験を行うことがある。【追試験の受験資格】参照

5 長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、学則第7条第1項に定められている修業年限を超えて、一定の期間にわたり計画的に授業科目を履修し、卒業することができる制度である。

- ・その目的は、2年の修業年限では卒業に必要な単位の修得が困難な者に、本学所定の単位を修得し、短期大学士の学位を得る機会を提供することにある。
- ・長期履修学生は、「星美学園短期大学長期履修学生規程」の定めに従う。

6 科目等履修生・聴講生制度

1 科目等履修生

科目等履修生制度とは、本学の学生以外の者（卒業生・協定書を締結している高等学校生徒を含む）が、本学の科目または課程を履修することができる制度である。

- ・その目的は、学習することを希望する社会人、または何らかの目的で本学の科目を履修することを希望する者に、その機会を提供することにある。
- ・履修資格は、高等学校を卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を終了した者、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者である。
- ・科目等履修生は、「科目等履修生規程」の定めに従う。

※出願手続等の詳細については「教務課」に問い合わせる。

2 聴講生

聴講生制度とは、本学の学生以外の者（卒業生を含む）が、本学の科目を聴講することができる制度である。

- ・その目的は、学習することを希望する社会人、または何らかの目的で本学の科目を聴講することを希望する者に、その機会を提供することにある。
- ・聴講資格は、高等学校を卒業した者、通常の課程による12年の学校教育を終了した者、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者である。
- ・聴講生が聴講する科目は、単位を認定しない。
- ・聴講生は、別に定める「聴講生規程」の定めに従う。

※出願手続等の詳細については「教務課」に問い合わせる。

第3章 大学生活に関すること

1 学生生活

1 窓口

正門

正門から入構する際には、守衛所で学生証を提示してください。

校舎の開閉時間

セキュリティ上、下記の時間帯を厳守してください。()内は学生の完全下校時刻です。日曜・祝日・年末年始および短大の指定の休日は原則として入れません。大学行事などにより時間が変更になる場合があります。詳細な日程は、本学 Web ページでご確認ください。

授業期間	4 限までの平日	8:30～17:30 (17:20)
	5 限までの平日	8:30～18:30 (18:20)
	土曜日	8:30～15:30 (15:20)
長期休業期間 (夏季/冬季/春季)	平日	8:30～16:00 (15:30)
	土曜日	8:30～15:00 (14:30)

※休業日は、Web ページのカレンダー参照

事務部窓口と担当業務

部署名		担当業務	取扱時間
受付	企画管理・ 学生支援課	・ピアノ個人利用受付 ・学生生活 ・大学行事 ・特別教室の鍵の貸出 ・奨学金 ・印刷依頼 ・保健室利用 ・学生保険 ・コピー機に関する問い合わせ ・サークル関係手続 ・遺失物 ・学割発行 ・学生証再発行 ・身上変更届 ・納入金・会計・精算 ・各種証明書発行 ・e-pa	[授業期間] 平日 8:50～17:00 土曜日 8:50～15:00
	事務室	・学籍・履修・授業 ・PC の個人利用受付	[長期休業期間] 平日 8:50～15:00 土曜日 8:50～14:00
キャリアセンター		・就職 ・進学 ・アルバイト ・ボランティア ・インターンシップ	
図書館		・図書館利用	図書館利用案内を参照のこと

※休業日は、Web ページのカレンダー参照

2 大学からの連絡方法

大学から学生への連絡・通知等は原則として掲示またはメール配信 (e-pa、Google クラウドルームなど) により行います。一度通知した事項はその当日から全学生に周知されたものとして取り扱います。通知を見なかったという理由で不利益が生じても、学生本人の責任となり、事後に異議を申し立てることはできません。毎日確認するよう心がけてください。また、通知の内容に関して、電話等での問い合わせには応じません。なお、上記以外の連絡方法として本学 Web サイトの緊急情報があります。

	掲示内容	掲示板設置場所
掲示	授業、試験、実習、免許・資格に関すること	1 階事務室前・教務課前
	アッセンブリー予定、行事に関すること	1 階事務室前
	奨学金に関すること	1 階事務室前
	サークル、各種イベント、緊急・重要案件	学生玄関周辺
	図書館	副学長室前、図書館前
	みなさんの声	学長室前

掲示	アルバイト情報、ボランティア・インターンシップ募集	1階東側階段横
	公務員、編入学情報、就職活動イベント情報	キャリアセンター前
パソコン	求人票	キャリアセンター内 PCにて確認
e-pa (イーパ)	e-paは他人にアドレスを知られずに連絡を受け取ることのできる一斉メール送信システムです。必ず事前にシステムへメールアドレスを登録してください。メールアドレスを変更した場合は、速やかに登録更新をしてください。	
Webサイト	本学Webサイトトップページ「緊急情報」に災害時などの緊急時にお知らせしたい情報が掲載されます。	

3 各種証明書、申請書、届出

証明書の種類(名称)	手数料	申込手順
在学証明書	300円	1. 「各種証明書発行申込書」を記入、または本学Webサイトよりダウンロードしてプリントアウトし、必要事項を記入する。 2. 1階受付で手数料を支払う。 3. 1階事務室に申込書を提出する。 ※原則、発行には3日間(土日・祝日含まず)かかります。また、本学所定外の様式で発行する場合は、7～10日かかります。 ※英文証明は、手数料が異なります。
健康診断証明書	300円	
推薦書	300円	
人物紹介状	400円	
人物推薦書等(本学所定外の書式)	400円	
幼児保育学科 成績証明書(修得単位を含む)	300円	
専攻科 成績証明書(修得単位を含む)	300円	
幼児保育学科 卒業見込証明書	300円	
幼児保育学科 卒業証明書	300円	
専攻科 修了見込証明書	300円	
幼稚園教諭免許状取得見込証明書	300円	
特別支援学校教諭免許状取得見込証明書	300円	
指定保育士養成施設卒業見込証明書(保育士資格取得見込証明)	300円	
学力に関する証明書(幼稚園二種免許)	300円	
学力に関する証明書(特別支援学校二種免許)	300円	

届出名称	届出先	届出用紙の入手法
休学届・復学届・退学届	1階事務室	1階事務室
身上変更届		1階事務室または 本学Webサイトよりダウンロードしてプリントアウトする。
学校感染症による出席停止届		
忌引届		
海外渡航届		
印刷依頼	1階受付	1階受付
学割交付申請書		
物品借用申請書		
精算依頼書		

4 施設・設備の利用

<使用可能な教室>

※使用ルールは変更になる場合があります。

教室名称	概要
講義教室	403, 405の教室は講義教室です。授業などで使用していない時は使用可能です。飲食もできます。

特別教室	前頁の講義教室以外の教室はすべて特別教室です。機器等の故障につながるため、原則、特別教室への <u>飲食物の持ち込みは禁止</u> されています。施錠されていますので、使用する場合は1階受付で手続きをして鍵を借りてください。
大講義室	授業のほか、大学行事や式典の際に使用します。室内は飲食厳禁です。
情報処理教室 (311室, 301室)	授業などで使用していない時間帯に、PCを利用することができます。1階事務室で手続きをしてください。詳しくは、「情報処理教室利用案内」をご覧ください。
ピアノレッスン室 (408～412室)	5室あります。1階受付で手続きをして鍵を借りてください。
404室	学生が自由に利用することができます。整理棚が設置されており、クラス活動などで使用する物品を保管することができます。学生の共有スペースですので、私物は放置せず、整理整頓や美化を心掛けて使用してください。
図工室 (414室)	授業などで使用していない時間帯に図工室で製作などの作業を行うことができます。1階受付で手続きをして鍵を借りてください。
リトミック室 (415室)	授業などで使用していない時間帯に使用することができます。オルガン、卓球台、各種スポーツ用具があります。ピアノは音楽担当教員の許可がなければ使用できません。
図書館	図書館棟1階です。「図書館利用カード(学生証)」で図書等の貸し出しができます。詳しくは図書館利用案内・図書館Webサイトをご覧ください。
教員研究室	専任教員にはオフィスアワーが設定されており、その時間帯は研究室に待機しています。オフィスアワーは時間割に掲載されています。
講師室 (1階 講師室・407室)	非常勤の先生方の控室です。原則として学生は入室できません。非常勤の先生に連絡のある場合は1階事務室に申し出てください。
230室	実習の事後面談、個別指導で使用します。保育関係図書、子育て支援実習関係教材などが保管されています。
更衣室	指定された教室を利用してください。時間割配布時にお知らせします。他の教室は使用しないでください。
各種相談室	学生相談室(212室)、学習相談室(231室)。詳しくは、「5. 学生相談(p.85)」をご覧ください。

<その他のサービス>

鍵盤楽器の使用 P：ピアノ E：電子ピアノ O：オルガン	下記に設置されています。施錠されている場合は1階受付で手続きをしてください。 <1階>：玄関入口ピエタ像前(P)、ステラホール(P) <3階>：ラウラルーム(P) <4階>：ML教室(P,E)、ピアノレッスン室(各P)、リトミック室(P,E)、403室(E)、405室(E)
その他楽器の使用	担当教員の許可を得て、使用することができます。
ステラホール	1階にある学生食堂です。常時、利用できます。
ラウラルーム	3階にある学生ラウンジです。常時、利用できます。
ランチショップ	VIDES(ボランティア団体)によるカレーライスの出張販売やリストランテの運営があります。VIDESの日程については掲示で確認してください。
自動販売機	学生玄関前(屋外)、1階ステラホール内、3階ラウラルーム内に設置されています。故障などの問い合わせは1階受付へ。
給茶機・電子レンジ	1階ステラホール前廊下に給茶機と電子レンジ(3台)が設置されています。
コピー機	1階キャリアセンター前に設置されています。故障などの問い合わせは1階受付へ。(モノクロ片面印刷1枚10円、フルカラー片面印刷1枚50円。)
掲示板の使用	掲示板を使用したい場合は、1階受付に申し出てください。
OA機器等の貸し出し	1階事務室でCDデッキを借りることができます。私的な目的での利用はできません。
個人ロッカー・靴箱・傘立て	入学時に一人1つずつ貸与されます。使用上の注意については「9. 学生生活の心得とマナー(p.86)」をご覧ください。
ブーツロッカー	個人の靴箱には収まらないサイズの靴を入れるロッカーです。1階事務室で手続きをしてください。
無線LAN(FREE Wi-Fi)	個人の端末をインターネットツールに接続し、課題などに取り組むことができます。アクセスポイントのある教室等は、掲示で確認してください。

5 学生相談

相談機関	概要	場所
クラスアドバイザー アシスタント・ゼミ担当教員	学生生活、成績・進路、友人・人間関係、家庭に関することなど 一般的な相談に応じます。	各研究室
学生相談室	カウンセラーが相談に応じています。開室などについては、1階 事務室前、2階学生相談室前の掲示を確認してください。	2階 212 室
学習相談室	講義の受け方や勉強方法、レポートや総合研究のまとめ方、就職 試験・公務員試験対策、四大編入試験対策などの学習相談に専任 教員が対応しています。	2階 231 室
障がい学生支援	星美学園短期大学では、障がいの有無に関わらず、すべての学生 が公平・平等に修学できる多様性を尊重する学びの場をめざしま す。障がいなどの理由により継続的に日常生活、社会生活に相当 な制限を受ける状態にある学生に対して、合理的配慮を行います。 アシスタントにご相談ください。声のかけやすい教員に申し出て いただくのでも結構です。	
オフィスアワー	オフィスアワーとは、授業等（障がい者サポート含む）に関する学生 からの質問・相談に応じるため先生が設けている時間です。オフィス アワーの時間は、時間割に掲載されていますので、先生に質問・ 相談のある学生は、オフィスアワーを利用して各研究室を訪ねて ください。（研究室の場所は『学生要覧』校舎案内図参照。）もち ろんほかの時間でも先生の都合がよければ質問・相談も差し支え ありませんが、授業や会議等で時間を確保できないこともあるた め、オフィスアワーの利用をおすすめします。なお、非常勤の先 生に対する質問・相談については、授業終了後に受け付けます。	2階各研究室ほか
企画管理・学生支援課	経済面（奨学金）、住居など生活面に関する相談。	1階受付
教務課	講師の先生方への窓口。免許・資格の申請に関すること。	1階事務室
キャリアセンター	就職・進路・アルバイト・ボランティア・インターンシップに関 すること。	1階キャリアセン ター
図書館	文献・資料に関すること。	図書館棟 1階
ハラスメント相談窓口	ハラスメントに関すること。 ※メールでも受け付けています。 c_hp@seibi.ac.jp	相談員について は、副学長室前に 掲示しています。

6 クラス運営

クラス運営委員

クラス運営や大学行事を円滑に行うために、クラスごとに下記の運営委員を選出します。

委員名	概要	担当
クラスリーダー	クラスアドバイザーと連絡をとり、クラス運営や大学行事等 を円滑に行うようクラスをリードする。	アドバイザー・学生部
星美祭実行委員	学園祭を企画・運営する。	学生部
宗教委員	宗教行事をサポートする。	CMP
防災委員	防災訓練を企画・運営する。	防災 WG
災害時学生ボランティア※	災害発生時に自発的に学内外でボランティア活動を行う。	学生部・防災 WG

※ 2022 年 10 月に赤羽警察署との協定により発足した、大規模災害発生時に学校・地域・避難所等においてボランティア
として活動する有志

7 サークル活動

サークル活動は、学生の皆さんが主体的に行うものです。友人同士活動を共にすることは、教養を高めたり、相互理解や協力により人間関係を構築したりしていくことにも繋がります。これらは、本学の建学の精神・教育理念に掲げている内容です。そのため、本学では、学生の皆さんの思いで立ち上げたサークル活動が充実していくよう、大学の資源を提供し、有意義な学生生活を創り上げる応援をしています。

設立条件	3人を目安とします。メンバーが揃ったら、部長が所定の期日までに「サークル設立申請書」を1階事務室へ提出してください。学生部で顧問教員を調整した後、学生部委員会での承認をもって設立されます。条件が揃えば所定の期限を過ぎても随時申請することができ、承認されると正式に活動を始めることができます。
構成メンバー	円滑に活動を行うために、部長、副部長、会計をおきます。
顧問	円滑に活動するために、顧問をおきます。原則として本学専任教員とします。部長は、企画・立案、活動において顧問の助言を受けてください。
サークル部長会	各サークルの代表者により部長会を組織しています。サークル部員が大学行事などに積極的に参加し、円滑に活動できるよう、サークル部長会はサークル活動全般の運営に関わります。

8 アッセンブリーと大学行事

月曜日の3限をアッセンブリーの時間とし、宗教行事、講話・講演、各種ガイダンスをはじめ、サークル活動、諸行事のためのミーティング、さらに実習指導やキャリア支援などの幅広い活動や集会を行います。月間予定は掲示されますので各自で確認してください。

大学行事は、学生生活を豊かにするための機会です。行事を通して、知識や経験を深め、カトリック精神に親しみ、建学の精神を理解するためのチャンスにしてください。主な行事は以下のとおりです。

聖母祭（5月）、学長講話・全体修礼（7月・1月）、星美祭（10月）、追悼セレモニー（11月）、クリスマスを迎えるミサ（12月）、修了式（3月）

9 学生生活の心得とマナー

学生証	学生証は星美学園短期大学の学生であることを証明する正規の身分証明書です。常に携帯し、紛失したり破損したりしないよう大切に扱きましょう。有効期限は入学年度の4月1日から、専攻科生は1年間です。学園に入る際など、必要ときにはいつでも提示できるようにしてください。退学・除籍などで学籍を離れる場合には直ちに本学に返却します。学生証を紛失した時は、速やかに1階事務室に申し出て、手数料（2,000円）を受付で支払い、再発行の手続きをしてください。
身上書提出 身上変更届	入学時には身上書を提出します。身上書の内容に変更（住所変更等）があった場合は、速やかに「身上変更届」を1階事務室に提出してください。
通学	原則として徒歩または公共交通機関（電車・バス）を利用して通学します。短大専用の駐車（輪）場がないため、本学までの車・バイク・自転車での通学は認めていません。通学の際は、大声で談笑したり、道幅いっぱいに広がったりせず、公共のマナーを守りましょう。また、飲食しながら歩くことは適切な振る舞いではありません。犯罪や交通事故に巻き込まれないためにも注意してください。
服装 (平常・正装等)	平常の服装については、ミッションスクール総合学園の学生にふさわしい服装で通学するよう心がけましょう。正装が指定される行事などがあります。正装とは、紺・黒・グレー等のリクルートスーツに準じた服装に、白色無地のブラウス・シャツ。黒靴(パンプス、ローファーなど)にベージュ色のストッキングを着用のこと。ピンヒールは不可です。
上履き	本校舎、図書館棟ともに、履き替えは自由です。ただし、調理室、リトミック室、図工室は専用の靴をご用意いただき、履き替えをお願いします。
個人ロッカー	入学後、一人に一つロッカーが貸与されます。各自で鍵を用意し、施錠して使用してください。割り当てられたロッカー以外は使用できません。シールなどは貼らないでください。修了時は期日までに中身を空にし、清掃してください。消防法で定められているため、ロッカーの上には荷物は置けません。見つけ次第、処分します。

個人傘立て	入学後、一人に一つ傘立てが貸与されます。備え付けの鍵は、各自で管理してください。割り当てられた場所以外には、使用できません。鍵は、修了時に返却してください。紛失した場合は、1階事務室で再発行することができます。
設備・備品の取扱い	教室の机や椅子、壁、その他の教具・備品には、落書きをしたり傷を付けたりしないでください。また机や椅子を移動した場合は、必ず元の状態に戻してください。使用した教室の窓は閉め、施錠を確認してください。掲示物は、原則掲示板に貼付してください。なお、掲示する際は、1階受付にお声がけください。星美祭などのイベントの時には、あらかじめ設備の取扱いや掲示について、お知らせします。
美化	ゴミは、「燃えるゴミ」「燃えないゴミ」「缶・瓶・ペットボトル」に分別し、所定のゴミ箱に捨てること。消しゴムの消しカスなどは床に落とさず、各自でゴミ箱に捨ててください。
節電	各教室の照明、エアコンなどはこまめにスイッチを切り、節電に協力しましょう。
携帯電話・スマートフォン	授業時間中の私的な利用は禁止します。マナーを守って使用しましょう。学内のコンセント、PCを利用しての充電は禁止されています。
所持品の管理	所持品には記名し、空き教室や廊下、ステラホールなどの公共の場や個人ロッカーの上などに放置しないこと。放置されている物は撤去します。
遺失物・拾得物	落し物や忘れ物をした時、また拾得した時には、1階事務室に届けてください。一定期間、保管の上、処分します。
電源・消耗品の私的使用	コンセントの私的利用は固く禁じます。見つけた場合は撤去します。また、トイレトーパーなど本学で備え付けている消耗品を持ち出して私的に使用することは固く禁じます。
飲酒・喫煙	学園敷地内は、全面禁酒禁煙です。また本学では、成年に達していても、健康上の理由と周囲への配慮から、学内および大学近辺、通学路では全面禁酒・禁煙（電子タバコ含む）としています。なお、上記の事項に違反した者は、学則第75条に則り、処罰されます。
アルバイト・課外活動	アルバイトや課外活動をする場合は、学業や実習に支障がなく、本学学生としてのモラルに反しない範囲にしてください。学校に依頼のある保育関係のアルバイトは掲示でお知らせします。
授業中のマナー	原則、飲食禁止です。携帯電話・スマートフォンは机に出さないこと（特別な事情の場合はこれに限らない）。災害時の避難経路を確保するため、鞆類は通路ではなく、机の下に置きましょう。授業が行われている教室の近くでは、大声での会話は慎んでください。
インターネットに関するトラブル	学内のPCから悪質なサイトへのアクセスや書き込みは固く禁じます。ネット上への個人情報情報の公開・拡散や、違法コピー・ダウンロードは犯罪行為であり、法律で処罰されます。無断撮影はプライバシーの侵害となります。これらに違反した者は、学則第75条に則り処罰されます。詳細は情報教育ガイダンスで配布される資料を参照してください。
緊急時	火災、地震などが発生した場合については、別紙「防災マニュアル（防災マニュアルは日ごろから携帯しましょう。）」をよく読み、日ごろから備えておきましょう。
盗難	盗難の被害に遭わないため、貴重品は必ず身につけるか、ロッカーに入れて施錠しましょう。学内で被害に遭った場合は、速やかに1階事務室に届け出てください。
トラブル対応	通学時にストーカー行為や痴漢などの被害に遭った場合は、すみやかに110番通報し、その後、1階事務室に連絡してください。また、学生を狙った詐欺やハラスメント、新興宗教や薬物・危険ドラッグの勧誘などには常に気を付け、トラブルに巻き込まれないよう注意してください。何かありましたら、些細なことでも1階事務室に知らせてください。
整容について	学内においてヘアカラースプレーを使用しての整容することは、設備・備品の汚損に繋がるため、禁止されています。自宅で整えるようにしましょう。

10 健康に関すること

健康診断 健康診断証明書 抗体検査（麻しん・風しん） 証明書	毎年4月初旬、学校保健安全法に基づいて「定期健康診断」を実施します。受診しない場合は実習や就職活動の際に必要な「健康診断証明書」の発行ができませんので必ず受診してください。受診の結果、再検査や健康相談の受診が必要な場合は速やかに受診し、医師による証明書を提出してください。また、保育実習に参加する場合、麻しん・風しんの抗体を有していることの証明を提出してください。
保健室の利用	応急手当の設備（AED等）とベッド3台、車椅子が設置されています。軽い症状の怪我に対する応急手当を行います。利用したい時は1階事務室に申し出てください。保健室で休む場合の利用時間は9:00～16:30までとし、原則ベット等の利用は1回90分間とします。なお、医薬品の提供は原則行っていませんので、各自で体調に応じて常備薬を携帯してください。※ウイルス等の感染症流行時は、感染拡大防止のため利用ができない場合もあります。
医療機関の紹介	大学周辺にあるいくつかの医療機関を紹介しています。マイナ保険証又は資格確認証を持参し、受診してください。

学校感染症	学校感染症に罹患した場合は、学校保健安全法により登校できません。下記の感染症を診断された場合は、登校は控え、速やかに教務課に電話連絡してください。出席停止の手続きについては本学 Web サイト（各種証明書申請書類）で確認してください。
-------	---

「学校保健安全法施行規則第18条」—学校において予防すべき感染症の種類—

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（サーズ）、急性灰白髄炎（ポリオ）、鳥インフルエンザ（H5N1）、中東呼吸器症候群（マーズ）、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症および新感染症
第二種	インフルエンザ（H5N1を除く）、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（みずぼうそう）、新型コロナウイルス感染症、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症（O157）、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

11 海外渡航に関すること

渡航先で災害・事件・事故等が生じた場合の学生の安否確認等を行うため、海外渡航する際には「海外渡航届」を渡航前に1階事務室に提出してください。届出用紙は1階事務室窓口で受け取るか、本学 web サイトよりダウンロードしてプリントアウトして下さい。

12 奨学金

(1) 専攻科特別奨学金

2年次後期に国の「高等教育の修学支援新制度（以下「新制度」）を受け、かつ引き続き専攻科においても新制度と同等の受給条件を満たす学生に対し、新制度と同等の「授業料」の減免を行います。

※本奨学金は、2024（令和6）年度以降の専攻科入学生から適用されます。

授業料等減免

授業料等減免の上限額（年額） ※私立短期大学の場合

支援区分	授業料 減免上限額
第1区分 (および多子世帯)	62万円
第2区分	第1区分に対し2/3
第3区分	第1区分に対し1/3
第4区分	第1区分に対し1/4

(2) 小山君子（こやまきみこ）奨学金

「専攻科特別奨学金」対象者に対し、年度予算（約300万円）を人数及び新制度上の区分によって按分し、給付します。

※上限額は、新制度における給付奨学金（各区分ごと）に準じます。

[小山君子奨学金設立の経緯]

小山君子奨学金は、故小山君子さんからの贈り物です。小山君子さんは星美学園短期大学の職員として、学生が、清潔で明るいキャンパスライフを楽しめるように環境整備に尽力されました。学校を自分の家のように感じ大切にして下さっていました。仕事を離れてからも職員の方々の訪問とおしゃべりの一時を楽しんでおられました。平成27年8月29日に帰天されましたが、それ以前から星美学園のために財産を遺贈することを小山さんは決めていたのです。星美学園はこれを学生の奨学金として使わせていただくことが、いちばん喜んでいただけることと考え、そのお名前の奨学金制度をつくりました。

給付奨学金

学生生活を送るための生活費として、原則毎月、次の金額が学生の口座に振り込まれます（振込手数料は学生負担となります）。

支援区分	自宅通学	自宅外通学
第1区分	38,300円（42,500円）	75,800円
第2区分	25,600円（28,400円）	50,600円
第3区分	12,800円（14,200円）	25,300円
第4区分 （多子世帯に限る）	9,600円（10,700円）	19,000円

※生活保護世帯（受けている扶助の種類を問いません。）で自宅から通学する人及び児童養護施設等から通学する人等は、上表のカッコ内の金額となります。

（3）日本学生支援機構（貸与型奨学金）

日本学生支援機構の奨学金は学業に励む学生に貸与されるものであり、卒業後、貸与した学生本人には一定年限内に返還する義務が生じます。返還金は後輩の奨学金として再び活用される仕組みになっています。返還時の負担などを十分考慮し、学資として必要な適切な貸与金額を選んでください。

奨学金の種類には下記のものがあります。なお、第一種の場合には、家計や成績などに一定の推薦基準が設けられています。詳細については、1階事務室に問い合わせてください。

また、連絡事項、募集に関することは、e-pa や掲示などでお知らせします。

貸与金額

貸与金額については以下の通りです。

第一種奨学金（利息の無いタイプ）

【通常の月額】

申込時の家計収入が一定額以上の方は、各区分の最高月額以外の月額から選択することになります。

	金額（単位：円）
自宅	20,000、30,000、40,000、53,000
自宅外	20,000、30,000、40,000、50,000、60,000

第二種奨学金（利息が付くタイプ）

月額 20,000円～120,000円（10,000円刻み）のいずれかから希望貸与金額を選択できます。

〈日本学生支援機構 進学資金シミュレーター〉

日本学生支援機構のホームページで公開されている進学資金シミュレーターにて、どのくらいの支援が受けられるか、大まかに調べることができます。

<https://shogakukin-simulator.jasso.go.jp/>



（4）保育士修学資金貸付制度

指定保育士養成施設に在学し、保育士資格を取得して、卒業後は保育士業務に従事しようとする学生に対し、各地域の社会福祉協議会が無利子で修学資金の貸付を行う制度です。

貸付金額や期間、返還免除の条件等は各地域の社会福祉協議会によって異なります。詳細は、各自治体または、各地域の社会福祉協議会ホームページをご確認ください。

13 災害傷害保険

入学時に、下記の「学生教育研究災害傷害保険」「学研災付帯賠償責任保険」に加入します。下記に該当する場合は、1階事務室に申し出て手続きをしてください。詳細は入学時に配布されるしおりを参照してください。

学生教育研究災害傷害保険 (略称「学研災」)	授業・大学行事・学校施設および通学途中、または活動計画書の提出されるサークル活動中に生じた事故による外傷で、医療機関の治療を受けた場合、保険金が支払われる場合があります。
学研災付帯賠償責任保険 (略称「付帯賠償」)	授業・保育実習・大学行事およびその移動中で、他人に怪我をさせたり、他者の財産を破損したりした場合、保険金が支払われる場合があります。

また、任意で「学研災付帯学生生活総合保険（付帯学総）」にも加入することができます。制度詳細のお問い合わせやお申し込み先については、配布されるご案内にてご確認ください。

学研災付帯学生生活総合保険 (略称「付帯学総」)	学研災に加えて任意で加入できる保険です。教育研究活動中以外の日常の病気・傷害や賠償責任（ただし、主に国内での活動のみ対象）に関する保険です。加入を希望する場合は、学生による直接申込となりますので、ご案内に記載されている「取扱代理店」まで各自でお問い合わせください。
-----------------------------	--

2 就職／進路

キャリア支援

キャリアセンターでは、学生一人ひとりが目標を持って充実した学生生活を送り、自分の適性や希望に合った進路選択ができるよう、入学と同時に2年間または、3年間を通じて体系的、段階的なキャリア支援を行っています。一人ひとりが、自身の未来を主体的に決定し、自信をもって社会に出ていけるよう支援します。また、多様なニーズをもつ学生へのキャリア支援については、教員および関係機関と連携して個別に対応します。

【開室時間】

[授業期間] 月曜日～金曜日 9:00～17:00
[長期休業期間] 月曜日～金曜日 9:00～15:00

【主な支援内容】

- ・キャリア相談<要予約>（就職・キャリアに関する個別相談・履歴書指導）
- ・模擬面接<要予約>
- ・求人情報提供
- ・インターンシップ、ボランティア、アルバイト情報の掲示（校舎1階東階段横の掲示板）
就職フェア、就職説明会情報の掲示（キャリアセンター前掲示板）

資格を活かした就職先の種類

【幼稚園教諭二種免許状】

公立、私立幼稚園が主な就職先です。保育士資格を取得した場合には、認定こども園への就職も可能です。

【保育士資格】

公立、私立保育所、児童養護施設、乳児院、障がい児施設などの児童福祉施設が主な就職先です。幼稚園教諭免許とあわせれば、認定こども園への就職も可能です。

* 公立の幼稚園、保育所は、都道府県または市町村の採用試験要項に従って受験します。地域により採用試験の実施期間、試験内容が異なりますので、希望する地域のホームページを早めに確認してください。キャリアセンターでは、毎年、「公務員採用試験対策講座」を実施しています。

【特別支援学校教諭二種免許状】

専門的な障がい児支援が必要とされる現場や、臨時的任用教員として、特別支援学校へ就職することが可能です。小学校教諭免許を取得すれば、特別支援学校の正規採用の就職に繋げていくことも可能です。

【発達障がい児保育ベーシックプログラム】

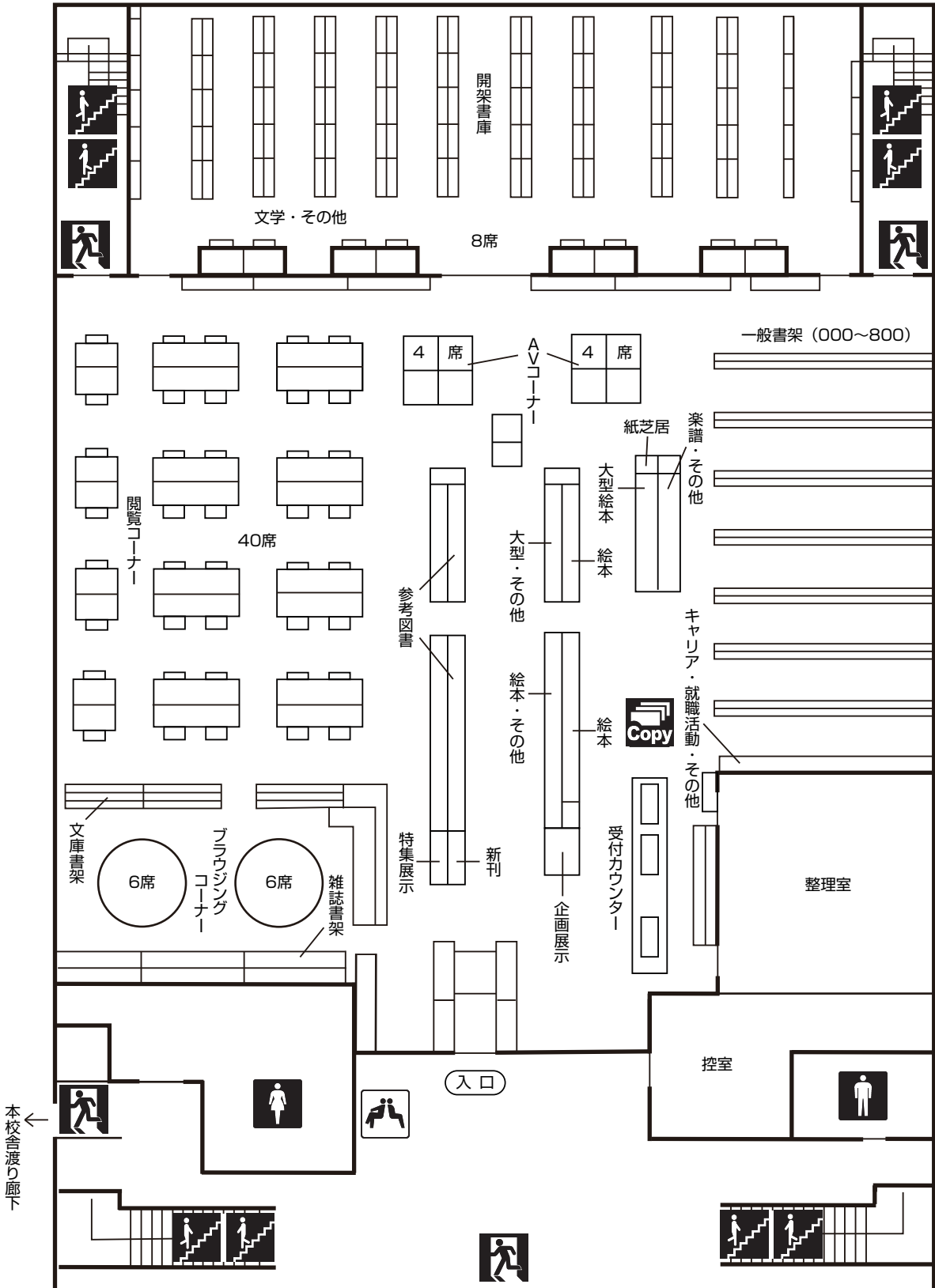
保育現場で支援のニーズの高いLD、AD／HD、自閉スペクトラム症など発達障がい児について学び、幼稚園、保育所などの保育現場への就職を助けます。保育士資格で療育など、児童発達支援を行っている現場に就職する際の強みになります。

2026年度 キャリア支援 年間計画






専攻科「進路を選ぶ」	
4月	キャリアガイダンス
5月	公務員の仕事説明会 公務員試験対策講座開始（希望者のみ） 性格検査の実施 ビジネスマナー
6月	面接対策（グループ） 卒業生との懇談会①（公務員・児童養護施設） 卒業生との懇談会②（幼稚園・子ども園） 卒業生との懇談会③（保育園）
7月	卒業生との懇談会④（特別支援学校） 性格検査フィードバック 夏休みの過ごし方
8月	就職に向けての個人面談
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	労働関連講座
2月	
3月	

*学生の個別相談は、随時行います。

図書館内設備配置図



本校舎渡り廊下

-  非常口
-  トイレ
-  階段
-  コピー機
-  休憩スペース

4 賞

- 本学では、建学の精神を理解し、その実践において秀でた活動をした学生に対して賞を与えることがある。

- 星美学園短期大学および本学の姉妹校に幼稚園または小学校より一貫して在籍した学生には、一貫教育賞として「星美学園（サレジアン）賞」を授与する。

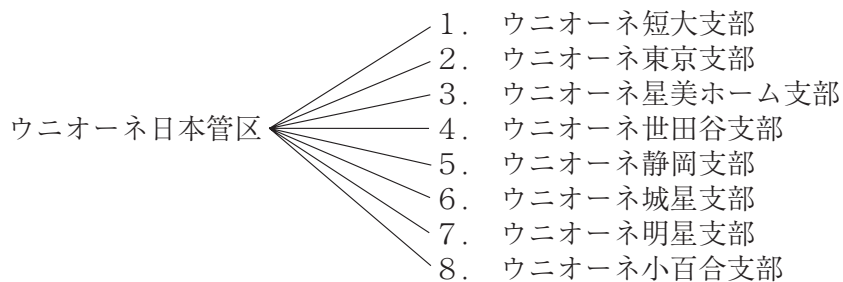
5 同窓会

星美学園短期大学同窓会は、「扶助者聖母会（FMA）同窓生世界連合モルネーゼ」に所属する。

この世界連合は、イタリア語で「一致」という意味を示す**ユニオーネ**（Unione）という名称を持ち、サレジアン・シスターズ（扶助者聖母会）が経営する学園・学校において、ドン・ボスコとマリア・マザレロの教えを学んだすべての学生・生徒等が加入する国際的な同窓会である。

ユニオーネの総本部はイタリアのローマにあり、世界 90 数か国の支部が、各国ごとに管区として本部に結ばれている。

日本管区は、赤羽に本部があり、下記の 8 つの姉妹校が支部として活動している。



本学の同窓会は<ユニオーネ短大支部>である。したがって、星美学園短期大学同窓会は、<ユニオーネ短大>と呼ばれる。

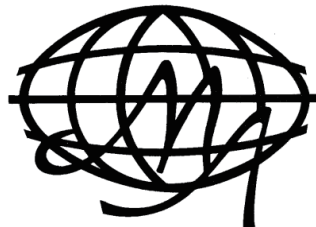
ユニオーネ短大は、会長・副会長・書記・会計・広報・会計監査等と、本部や学校との連携をはかるために、デレガータと呼ばれるサレジアン・シスターと顧問の教員とで組織されている。

同窓会は、機関誌『Respice Stellam』の発行をはじめ、大学行事等に積極的に参加し、同窓生相互の関わりを深め、母校を支援するなどの活動を行っている。

卒業前に、ユニオーネについての説明会が実施される。

卒業時には、学科より連絡員が選出され、同窓会との連絡を密にするよう心がけている。

本学内（2F）に、「UNIONE」という同窓会室がある。



unione のロゴマーク

6 年間行事予定

2026年4月～2026年6月

※日曜・祝日・休業日は、原則、校舎には入れません。

[ア]アッセンブリー

4月			5月			6月		
1	水	前期開始	1	金	学内ネットワーク停止	1	月	保育実習Ⅰ(施設)開始 (70時間10日間) <時間割授業なし>
2	木	履修登録締切	2	土	※休業日	2	火	<時間割授業なし>
3	金	学生健康診断	3	日	憲法記念日 ※休業日 学園電気設備点検	3	水	<時間割授業なし>
4	土	※休業日	4	月	みどりの日(遠隔授業日) ※休業日 学園電気設備点検	4	木	<時間割授業なし>
5	日	※休業日 教会暦：主の復活の主日	5	火	こどもの日(遠隔授業日) ※休業日 学園電気設備点検予備日	5	金	<時間割授業なし>
6	月	前期講義開始 履修登録確認訂正期間開始	6	水	5/3 振替休日(遠隔授業日) ※休業日	6	土	※休業日
7	火		7	木	学内ネットワーク復旧	7	日	※休業日
8	水		8	金		8	月	<時間割授業なし>
9	木		9	土	※休業日	9	火	<時間割授業なし>
10	金		10	日	※休業日	10	水	<時間割授業なし>
11	土	※休業日	11	月		11	木	<時間割授業なし>
12	日	※休業日	12	火		12	金	<時間割授業なし>
13	月	履修登録確認訂正期間終了 [ア]避難訓練	13	水	教会暦： 聖マリア・マザレロの祭日	13	土	保育実習Ⅰ(施設)終了 ※休業日
14	火		14	木		14	日	※休業日
15	水		15	金		15	月	
16	木		16	土	※休業日	16	火	
17	金		17	日	※休業日	17	水	
18	土	※休業日	18	月		18	木	
19	日	※休業日	19	火		19	金	
20	月	[ア]復活祭後の祝福式	20	水		20	土	公開講座：モンテッソーリ講座
21	火		21	木		21	日	※休業日
22	水		22	金		22	月	授業公開ウィーク開始
23	木		23	土	創立記念日の振替休日 ※休業日	23	火	
24	金		24	日	※休業日	24	水	
25	土	※休業日	25	月	創立記念日 [ア]聖母祭	25	木	
26	日	※休業日	26	火		26	金	
27	月		27	水		27	土	※休業日
28	火		28	木		28	日	ウニオーネ短大同窓会 ※休業日
29	水	昭和の日(遠隔授業日) ※休業日	29	金		29	月	
30	木		30	土	※休業日	30	火	
		※休業日 校舎に入れません。	31	日	※休業日			

2026年7月～2026年9月

[ア]アッセンブリー

7月			8月			9月		
1	水		1	土	※休業日	1	火	保育実習ⅡⅢ開始 (70時間10日間)
2	木		2	日	※休業日	2	水	
3	金	授業公開ウィーク終了	3	月	補講・追試験再試験期間開始	3	木	
4	土	※休業日	4	火	補講・追試験再試験期間	4	金	
5	日	※休業日	5	水	補講・追試験再試験期間	5	土	※休業日
6	月		6	木	補講・追試験再試験期間	6	日	※休業日
7	火		7	金	補講・追試験再試験期間終了	7	月	
8	水		8	土	夏期休業開始 ※休業日	8	火	
9	木		9	日	※休業日	9	水	
10	金		10	月		10	木	
11	土	※休業日	11	火	山の日 ※休業日	11	金	
12	日	※休業日	12	水	※休業日	12	土	※休業日
13	月	[ア]学長講話 / 全体修礼	13	木	※休業日	13	日	※休業日
14	火		14	金	※休業日	14	月	保育実習ⅡⅢ終了 履修登録確認訂正期間開始
15	水		15	土	※休業日	15	火	夏期休業終了
16	木		16	日	※休業日	16	水	後期開始 後期講義開始
17	金		17	月		17	木	
18	土	公開講座：保育教育特別セミナー	18	火		18	金	履修登録確認訂正期間終了
19	日	※休業日	19	水		19	土	※休業日
20	月	海の日(遠隔授業日) ※休業日	20	木		20	日	※休業日
21	火		21	金		21	月	敬老の日 ※休業日
22	水		22	土	※休業日	22	火	休日 ※休業日
23	木		23	日	※休業日	23	水	秋分の日(遠隔授業日) ※休業日
24	金		24	月		24	木	星美祭準備週間開始
25	土	※休業日	25	火		25	金	
26	日	※休業日	26	水		26	土	※休業日
27	月	定期試験期間開始	27	木		27	日	※休業日
28	火	定期試験期間	28	金		28	月	履修登録確認訂正期間終了
29	水	定期試験期間	29	土	※休業日	29	火	
30	木	定期試験期間	30	日	※休業日	30	水	
31	金	定期試験期間終了 前期講義終了	31	月				

星美祭準備週間

2026年10月～2026年12月

[ア]アッセンブリー

10月			11月			12月		
1	木	星美祭準備週間終了	1	日	※休業日	1	火	
2	金	星美祭準備日 <時間割授業なし>	2	月		2	水	
3	土	星美祭(第1日)	3	火	文化の日(遠隔授業日) ※休業日	3	木	
4	日	星美祭(第2日)	4	水		4	金	
5	月	10/4の振替休日 ※休業日	5	木		5	土	※休業日
6	火		6	金	マードレキアラ歓迎式	6	日	※休業日
7	水	授業公開ウィーク開始	7	土	※休業日	7	月	
8	木		8	日	※休業日	8	火	
9	金		9	月	[ア]追悼セレモニー	9	水	
10	土	※休業日	10	火		10	木	
11	日	※休業日	11	水		11	金	
12	月	スポーツの日(遠隔授業日) ※休業日	12	木		12	土	※休業日
13	火		13	金		13	日	※休業日
14	水		14	土	※休業日	14	月	
15	木		15	日	※休業日	15	火	
16	金		16	月		16	水	
17	土		17	火		17	木	
18	日	※休業日	18	水		18	金	
19	月	管区長短大訪問	19	木		19	土	※休業日
20	火		20	金		20	日	※休業日
21	水		21	土	※休業日	21	月	[ア]クリスマスを迎えるミサ
22	木		22	日	※休業日	22	火	
23	金		23	月	勤労感謝の日(遠隔授業日) ※休業日	23	水	定期試験期間開始
24	土	※休業日	24	火		24	木	講義終了
25	日	※休業日	25	水		25	金	冬期休業開始 クリスマス ※休業日
26	月	[ア]防災訓練(学生教職員合同) 授業公開ウィーク終了	26	木		26	土	※休業日
27	火		27	金		27	日	※休業日
28	水		28	土	※休業日	28	月	※休業日
29	木		29	日	※休業日	29	火	※休業日
30	金		30	月		30	水	※休業日
31	土	※休業日				31	木	※休業日

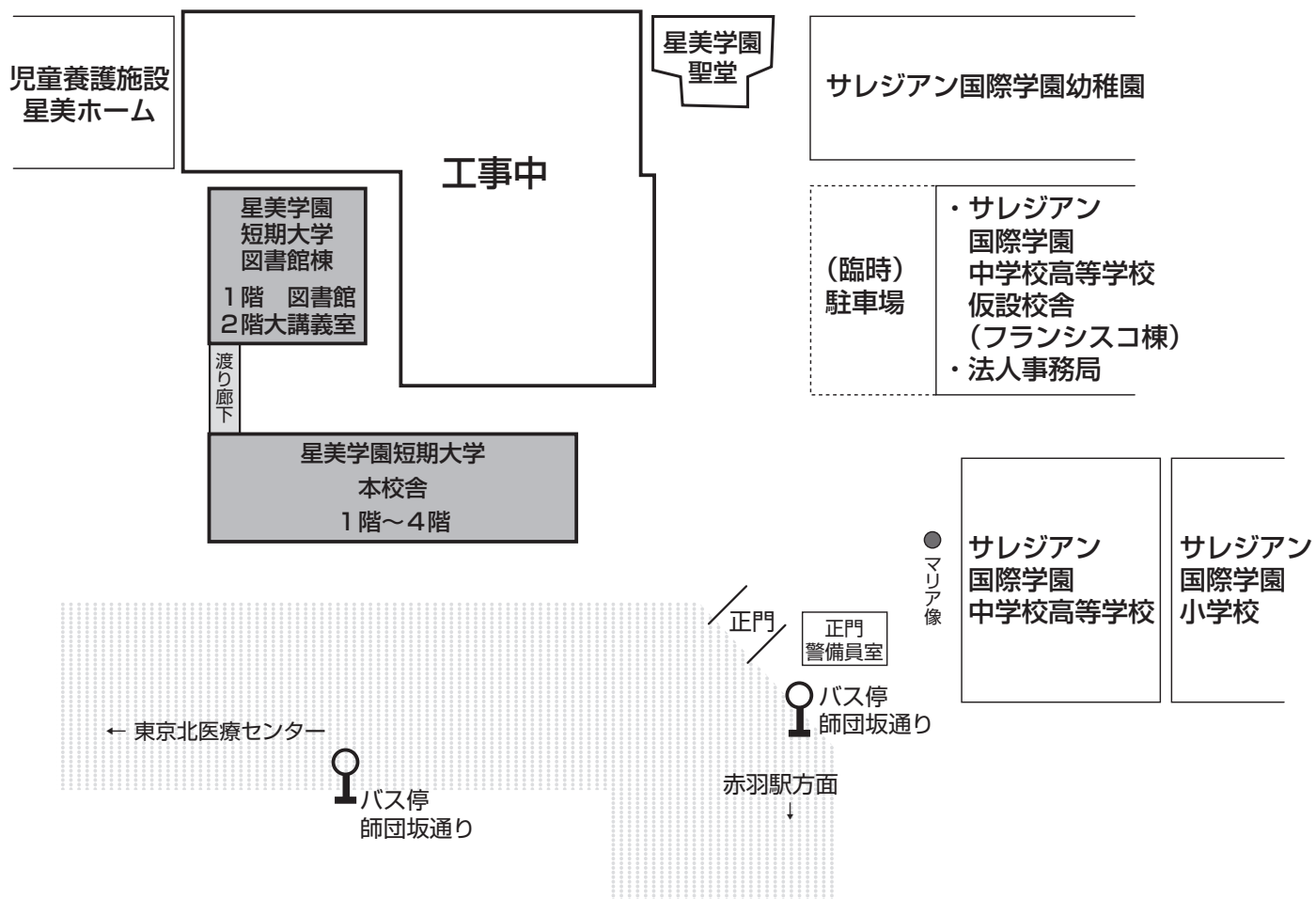
2027年1月～2027年3月

[ア]アッセンブリー

1月			2月			3月		
1	金	元日 ※休業日	1	月		1	月	
2	土	※休業日	2	火		2	火	
3	日	※休業日	3	水	ピアヘルパー試験日(予定)	3	水	
4	月	※休業日	4	木		4	木	
5	火	冬期休業終了 ※休業日	5	金		5	金	
6	水	講義開始	6	土	※休業日	6	土	※休業日
7	木		7	日	※休業日	7	日	※休業日
8	金		8	月		8	月	
9	土	※休業日	9	火		9	火	
10	日	※休業日	10	水		10	水	
11	月	成人の日(遠隔授業日) ※休業日	11	木	建国記念日 ※休業日	11	木	
12	火		12	金		12	金	
13	水		13	土	※休業日	13	土	修了式 閉学式
14	木		14	日	※休業日	14	日	※休業日
15	金		15	月		15	月	
16	土	※休業日	16	火		16	火	
17	日	※休業日	17	水		17	水	
18	月	[ア]学長講話 / 全体修礼	18	木		18	木	
19	火	定期試験期間終了 後期講義終了	19	金		19	金	
20	水	補講・追試験再試験期間開始	20	土	※休業日	20	土	※休業日
21	木		21	日	※休業日	21	日	※休業日
22	金		22	月		22	月	春分の日 ※休業日
23	土	※休業日	23	火	天皇誕生日 ※休業日	23	火	
24	日	※休業日	24	水		24	水	
25	月		25	木		25	木	
26	火	補講・追試験再試験期間終了	26	金		26	金	
27	水	個別指導日	27	土	※休業日	27	土	※休業日
28	木	個別指導日	28	日	※休業日	28	日	※休業日 教会暦：主の復活の主日
29	金	個別指導日				29	月	
30	土	春期休業開始 ※休業日				30	火	
31	日	教会暦：聖ヨハネ・ボスコの祭日				31	水	春期休業終了
		発達障がい児 BP 認定修了試験						

7 キャンパスマップ・校舎案内図

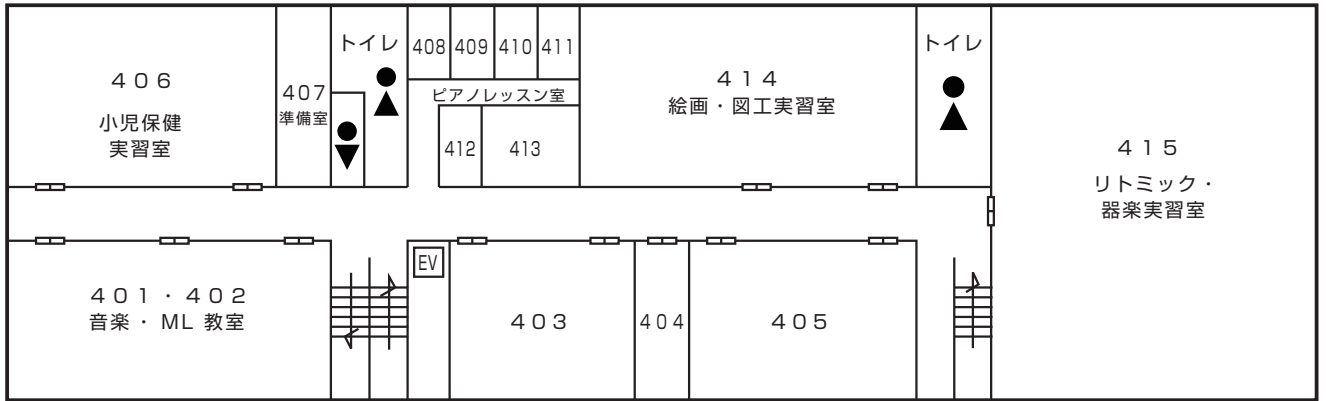
キャンパスマップ



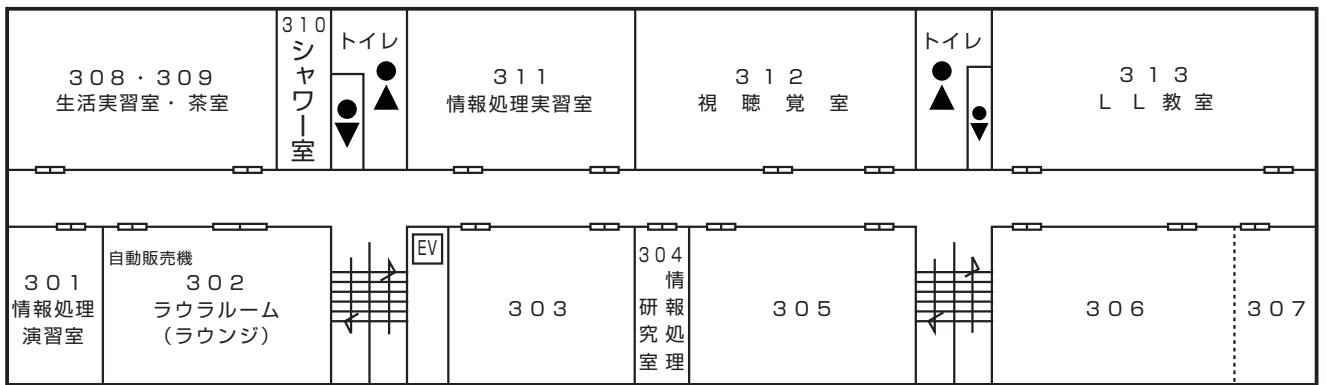
※令和8年度まで、学園工事の都合により、配置等が変更になる場合があります。

本校舎案内図

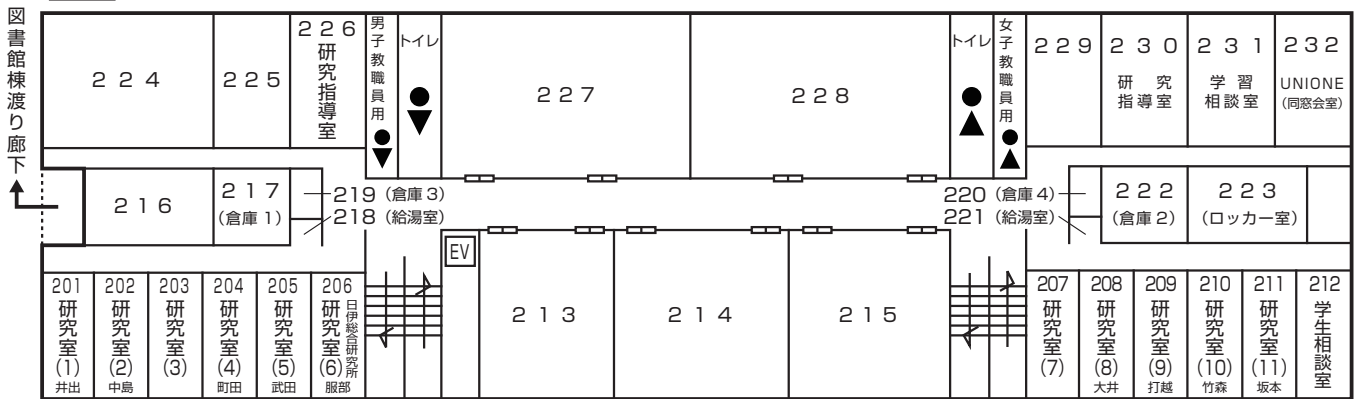
4 F



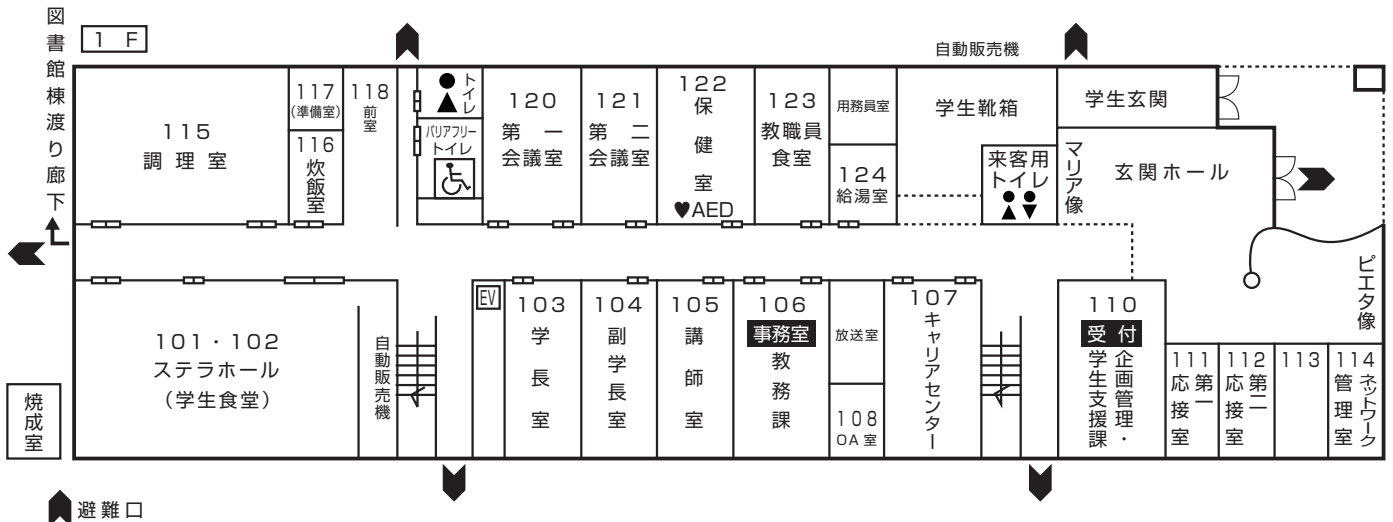
3 F



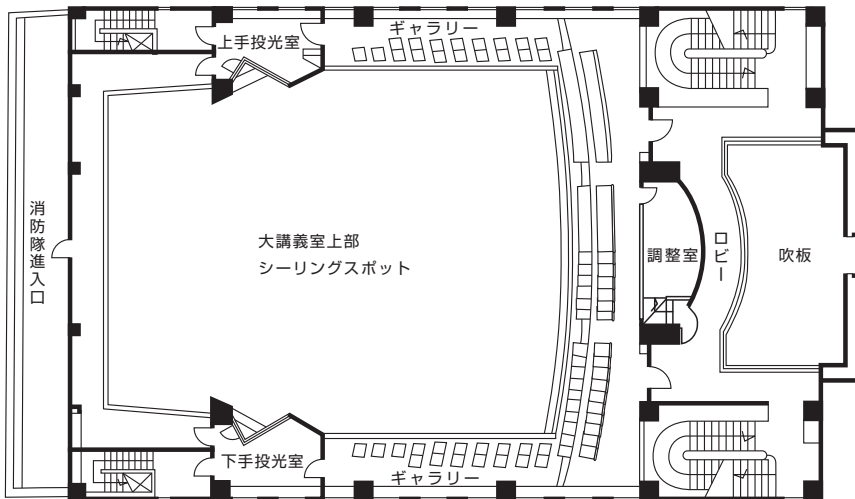
2 F



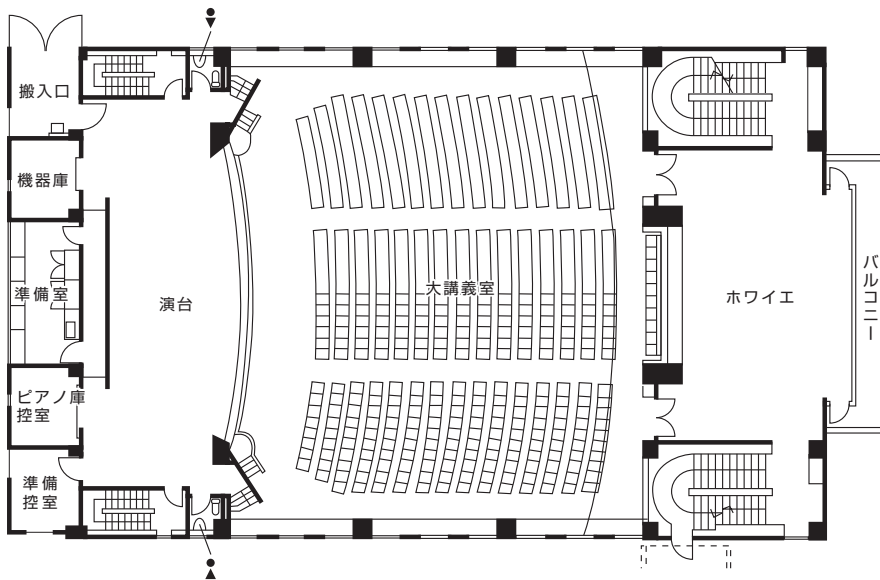
1 F



図書館棟案内図

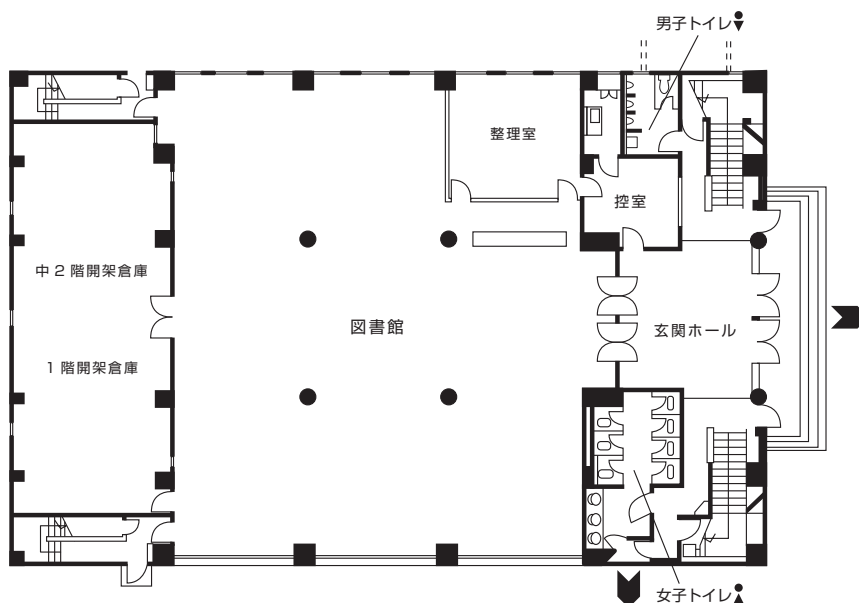


3 F



2 F

大講義室



1 F

図書館

第4章 講義要項

I 科目に関する項目										
①科目名	人格論 Personality theory					②科目コード	Y1-3C002			
③担当教員名	阿部 健一									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	4単位(60)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	キリスト教的な生き方の理解									
②授業の概要	トルストイの民話とマザー・テレサの言葉を通して、キリスト教的な生き方について理解する。各授業ごとに、予習表に基づいてグループワークを行い、理解を深める。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) マザー・テレサの言動に関心を持ち、それを表明できる。 2. (思考・判断・表現) トルストイの民話、マザー・テレサの言動について考え、自分の意見を表明できる。 3. (知識・理解) キリスト教的な価値観について、正しく表明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
	○									
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション			第16回	洗礼の子①悪を悪で取り除こうとする					
第2回	愛のあるところに神あり①人生への絶望			第17回	洗礼の子②玉座から見えたもの					
第3回	愛のあるところに神あり②絶望を癒やすもの			第18回	洗礼の子③洗礼の子が犯した罪					
第4回	愛のあるところに神あり③誰の中にもイエス様が			第19回	洗礼の子④洗礼の子が学んだもの					
第5回	人にはどれほどの土地があるか①自分の土地を持つ喜び			第20回	洗礼の子⑤追剥の回心					
第6回	人にはどれほどの土地があるか②広い土地への欲望			第21回	火を粗末にすると消せなくなる①事の起こり					
第7回	人にはどれほどの土地があるか③広い自分の土地の欲望			第22回	火を粗末にすると消せなくなる②悪に悪で対した結末					
第8回	人にはどれほどの土地があるか④必要だった土地の広さ			第23回	火を粗末にすると消せなくなる③平和のために					
第9回	ろうそく①悪にどう立ち向かうか			第24回	人はなんで生きるか①不思議な青年との出会い					
第10回	ろうそく②悪に勝利するもの			第25回	人はなんで生きるか②人は、与える愛を持っている					
第11回	イワンのばか①悪魔の手口			第26回	人はなんで生きるか③人は自分の未来を知らない					
第12回	イワンのばか②イワンと兄たち			第27回	人はなんで生きるか④地に落とされた天使					
第13回	イワンのばか③イワン王が治める			第28回	人はなんで生きるか⑤人は何によって生きているか					
第14回	イワンのばか④対大悪魔イワンの勝利			第29回	僕らが自分らしくいられる理由					
第15回	イワンのばか⑤まとめ			第30回	扉をあける					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：予習表により事前学習を行う。90分程度を要する。 復習：約90分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	トルストイ著『トルストイ民話集イワンのばか』岩波文庫 1932年 トルストイ著『トルストイ民話集人は何で生きるか』岩波文庫 1932年 M・K・ポール著『コロコタの聖なるマザー・テレサ』サンパウロ 2007年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関・意・態	思・判・表	知識・理解				③配点比率		
	1 定期試験							0	%	
2 小テスト		○	○	○				30	%	
3 提出物		○	○	○				30	%	
4 発表・実技・プレゼン		○	○	○				40	%	
5 受講態度								0	%	
6 自主学習態度								0	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	①予習表については、グループワークを経て、学生の解答状況・質問を踏まえ、解答を例示し、解説する。 ②小テストについては、回収後、その場で解答を例示し、解説する。 それ以外の時点でも、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児保育キャリア演習Ⅲ Career Exercise of Child Care and Education Ⅲ					②科目コード	Y1-3C001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	社会人になる上での総仕上げ									
②授業の概要	<p>本授業は、主に4つの内容から構成される。</p> <p>1つ目は、社会人に向けて自己の特性を理解する「キャリアアップ講座」である。教育・保育関連の職業の特性について理解し、自己分析を通して必要な資質、能力を振り返る。</p> <p>2つ目は、社会に必要な技能を身に付ける「キャリアセンター企画講座」である。就職活動に必要な求人票の閲覧方法や履歴書作成、面接練習を実施する。さらに、園長講話やOG懇談会を通して、就職活動に必要な準備を明確にする。</p> <p>3つ目は、他学年との交流を通して最上級学年の学生として今まで育んできた共感、協働性を発揮し、更にそれぞれに深めることである。これらは本学の教育理念に裏打ちされて行われるものであり、3年間の学習を俯瞰しつつ社会の入口に立つ準備を行うこととなる。</p> <p>4つ目は、本科から積み重ねてきた現場体験活動の体験をより広げ深めることである。</p>									
③履修者の到達目標(学習成果)	<p>1. [キャリアアップ] 自己の特性を理解し、自己分析を通して自身の資質・能力を振り返りつつ将来を考えることができる。</p> <p>2. [キャリアセンター講座] 社会に必要な技能が身についている。</p> <p>3. [共感・協働性] 周りの人の考え・思いを大切にしつつ自分自身を保ちながら共に活動することができる。</p> <p>4. [現場体験活動] 現場体験活動を通して実際の仕事に触れる。</p>									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援				
第1回	ガイダンス(キャリア演習Ⅲの1年間の概要とフィールドワーク)			第16回	面接及びマナーについて 社会人に必要な文章表現技術 レッスン③					
第2回	ガイダンス(クラス委員の選出・現場体験活動記録の説明)			第17回	就職活動①(個別相談・見学・面接・研修等)					
第3回	キャリアガイダンス 就職活動スケジュールの説明			第18回	就職活動②(個別相談・見学・面接・研修等)					
第4回	公務員の仕事説明			第19回	就職活動③(個別相談・見学・面接・研修等)					
第5回	就職活動に必要な知識・技能 ①進路について			第20回	面接対策(グループ・Web面接)					
第6回	就職活動に必要な知識・技能 ②進路希望調査			第21回	就職内定のお礼状作成					
第7回	履歴書の作成 社会人に必要な文章表現技術 レッスン①			第22回	就職活動の振り返り					
第8回	性格検査の実施			第23回	防災訓練②消防署の職員からの指導					
第9回	性格検査のフィードバック			第24回	労働関連講話「社会人として働き出したら」					
第10回	卒業生との懇談会①(公務員・児童養護)			第25回	現場体験活動の振り返り					
第11回	卒業生との懇談会②(幼稚園・こども園)			第26回	管区長講話					
第12回	卒業生との懇談会③(保育園)			第27回	同窓生としてのアイデンティティ					
第13回	卒業生との懇談会④(特別支援学校)			第28回	学生部主催講演会					
第14回	学長講話 社会人に必要な文章表現技術 レッスン②			第29回	学長講話					
第15回	夏期休暇中の過ごし方 防災訓練①保育現場での避難の実際			第30回	まとめ 3年間を振り返って					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	<p>予習：保育を中心にした社会事情、又政治・社会面に関するニュース・情報に日頃から目を向けておくことが予習となる。</p> <p>復習：授業内容について、学生生活や卒業後の社会人生活において活かせるよう必要と思われる内容について各自でファイリングや記録にまとめて保管する。</p> <p>課題を行うための時間は60分程度。</p>									
⑨テキスト	適宜プリントを配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	キャリアアップ	キャリアセンター講座	共感・協働性	現場体験活動(フィールドワーク)	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	80	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○		20	%			
6	自主学習態度					0	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価						比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	アドバイザー、キャリアセンター職員、アシスタント等、内容に関わりの深い担当者が必要に応じて対応、フィードバックを行う。									
IV その他										
専攻科修了必修科目である。										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（町田） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	音楽に関する研究または音楽作品創作を行う。									
②授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各自で設定したテーマに基づく研究、創作を行い、論文または作品（研究小論文を含む）にまとめる。 研究についての論述の仕方、論点の整理の仕方、書式、音楽研究発表に必要な方法・知識を学ぶ。 研究倫理について知る。 									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 【テーマの設定】【目次の設定】【修了研究提出後のレジュメ作成】文章を構成し、まとめることができる。 【創作・研究への取組】音楽に関する文章の表現、文書上での提示の仕方を知る。（作品の場合）楽譜の基本的な書き方が分かる。 【創作・研究への取組】研究資料の読み方を知る。 【創作・研究への取組】研究発表をする上で、倫理上やってはならないことが分かるようになる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
第1回	ガイダンス（ゼミでのスケジュール及び実施内容の確認）			第16回	夏期課題進捗状況報告と後期スケジュールの確認					
第2回	各自の研究計画の立案			第17回	文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て）					
第3回	各自の研究計画の立案第17回文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て） 第3回研究する上での資料の調べ方、扱い方① 図書館の利用			第18回	文章作成②第1章第1節					
第4回	研究する上での資料の調べ方、扱い方② ネットの利用			第19回	文章作成③第1章第2節					
第5回	研究する上での資料の調べ方、扱い方③『参考資料』という意識			第20回	文章作成④第2章第1節					
第6回	卒業研究では何をするのか、（論文とは、作品創作の場合）			第21回	文章作成⑤第2章第2節					
第7回	テーマの選定①選べるテーマ、テーマにならないもの			第22回	文章作成⑥第3章第1節					
第8回	テーマの選定②テーマにたどり着くために			第23回	文章作成⑦第3章第2節					
第9回	テーマの選定③各自のテーマ探し			第24回	文章全体の見直し					
第10回	テーマの仮決定			第25回	論文用ファイルの配布と提出のための確認					
第11回	各テーマに沿った資料探し、創作計画立案			第26回	文章作成⑨序論・研究目的、結論、終わりに、の確認					
第12回	資料整理の仕方、研究の場合の資料の扱い方			第27回	文章作成⑩参考資料一覧の確認					
第13回	目次の立て方			第28回	修論・作品提出のための最終確認					
第14回	文章を書く 1節に当たる文章を書いてみる			第29回	各自の論文・創作に関するレジュメの作成					
第15回	テーマの決定と目次の提出			第30回	ゼミ内での修了研究発表					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：各自が課題を決めて資料を読み、必要な文章をまとめ、作品ならスケッチを描いておく。 復習：授業でのコメントや指摘を受けて、修正したり先を進めたりしていく。 1日30分から3時間と、各自の進捗、内容、また時期によってかかる時間は幅が出てくる。									
⑨テキスト	授業の中で、適宜資料を配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	テーマの設定	目次の設定	創作・研究への取り組み	修了研究提出後のレジュメ作成	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験								0		%
2 小テスト								0		%
3 提出物	○	○		○				30		%
4 発表・実技・プレゼン			○					20		%
5 受講態度	○	○	○	○				25		%
6 自主学習態度	○	○	○	○				25		%
7 その他								0		%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題が提出されたところで、問題点、改善点を指摘し、次の課題を提示する。									
IV その他										

I 科目に関する項目																																																																						
①科目名	卒業研究ゼミナール（中島） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003																																																															
③担当教員名	中島 千恵子																																																																					
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け																																																															
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修																																																												
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修																																																												
⑫教職課程																																																																						
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目																																																																					
II 授業内容に関する項目																																																																						
①テーマ	①情報教育：情報通信技術の教育への活用に関わること。②教材開発：幼児保育に役立つ教材開発に関わること。																																																																					
②授業の概要	各自が興味・関心のある研究テーマを選定し、教材開発に関する研究手法を身につけることを目的とする。具体的には、教材の仕様（対象者、学習目標など）を検討し、教材を制作し、得られた結果の考察を行い、論文を執筆する。																																																																					
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマを選定し、研究計画を立案することができる。 2. 教材の仕様（対象者、学習目標など）を設定し、実際に教材を制作することができる。 3. 研究成果を論文にまとめることができる。 4. パワーポイントを活用したプレゼンテーションができる。																																																																					
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性																																																																	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○																																																																
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク																																																													
⑦授業の計画（授業の内容）	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス（研究計画の立案）</td> <td>第16回</td> <td>演習（試作の改善点の検討）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>テーマ選定（研究の動機）</td> <td>第17回</td> <td>演習（教材の改善）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>テーマ選定（現状の把握）</td> <td>第18回</td> <td>演習（教材の試用とグループディスカッション）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>研究の目的</td> <td>第19回</td> <td>演習（教材の改善）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>研究の方法</td> <td>第20回</td> <td>演習（教材の試用とグループディスカッション）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>教材の仕様（対象者、学習目標の設定）</td> <td>第21回</td> <td>演習（教材の改善）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>教材の仕様（情報構造・構成の検討）</td> <td>第22回</td> <td>考察（教材の利用方法など）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>教材の仕様（デザイン・配色の検討）</td> <td>第23回</td> <td>考察（教材の特徴、先行研究との比較など）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>教材の仕様（素材の検討）</td> <td>第24回</td> <td>考察（問題点と今後の課題など）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>教材の仕様（利用方法の検討）</td> <td>第25回</td> <td>結論の検討</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>教材の仕様（先行研究との比較）</td> <td>第26回</td> <td>論文の推敲、提出</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>教材の仕様（教材の特徴）</td> <td>第27回</td> <td>プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>演習（教材の素材収集）</td> <td>第28回</td> <td>プレゼンテーション準備（スライドの作成）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>演習（教材の試作）</td> <td>第29回</td> <td>プレゼンテーションリハーサル</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>中間発表会（グループディスカッション）</td> <td>第30回</td> <td>最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）</td> </tr> </table>										第1回	ガイダンス（研究計画の立案）	第16回	演習（試作の改善点の検討）	第2回	テーマ選定（研究の動機）	第17回	演習（教材の改善）	第3回	テーマ選定（現状の把握）	第18回	演習（教材の試用とグループディスカッション）	第4回	研究の目的	第19回	演習（教材の改善）	第5回	研究の方法	第20回	演習（教材の試用とグループディスカッション）	第6回	教材の仕様（対象者、学習目標の設定）	第21回	演習（教材の改善）	第7回	教材の仕様（情報構造・構成の検討）	第22回	考察（教材の利用方法など）	第8回	教材の仕様（デザイン・配色の検討）	第23回	考察（教材の特徴、先行研究との比較など）	第9回	教材の仕様（素材の検討）	第24回	考察（問題点と今後の課題など）	第10回	教材の仕様（利用方法の検討）	第25回	結論の検討	第11回	教材の仕様（先行研究との比較）	第26回	論文の推敲、提出	第12回	教材の仕様（教材の特徴）	第27回	プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）	第13回	演習（教材の素材収集）	第28回	プレゼンテーション準備（スライドの作成）	第14回	演習（教材の試作）	第29回	プレゼンテーションリハーサル	第15回	中間発表会（グループディスカッション）	第30回	最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）
第1回	ガイダンス（研究計画の立案）	第16回	演習（試作の改善点の検討）																																																																			
第2回	テーマ選定（研究の動機）	第17回	演習（教材の改善）																																																																			
第3回	テーマ選定（現状の把握）	第18回	演習（教材の試用とグループディスカッション）																																																																			
第4回	研究の目的	第19回	演習（教材の改善）																																																																			
第5回	研究の方法	第20回	演習（教材の試用とグループディスカッション）																																																																			
第6回	教材の仕様（対象者、学習目標の設定）	第21回	演習（教材の改善）																																																																			
第7回	教材の仕様（情報構造・構成の検討）	第22回	考察（教材の利用方法など）																																																																			
第8回	教材の仕様（デザイン・配色の検討）	第23回	考察（教材の特徴、先行研究との比較など）																																																																			
第9回	教材の仕様（素材の検討）	第24回	考察（問題点と今後の課題など）																																																																			
第10回	教材の仕様（利用方法の検討）	第25回	結論の検討																																																																			
第11回	教材の仕様（先行研究との比較）	第26回	論文の推敲、提出																																																																			
第12回	教材の仕様（教材の特徴）	第27回	プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）																																																																			
第13回	演習（教材の素材収集）	第28回	プレゼンテーション準備（スライドの作成）																																																																			
第14回	演習（教材の試作）	第29回	プレゼンテーションリハーサル																																																																			
第15回	中間発表会（グループディスカッション）	第30回	最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）																																																																			
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題およびプレゼンテーション等で行う）																																																																					
⑧自主学習の課題	予習：約30分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約30分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。																																																																					
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。																																																																					
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USBメモリは、各自で準備すること。																																																																					
⑪教材費	個人で使用する物品費は、自己負担とする。																																																																					
⑫履修条件／履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。																																																																					
III 学習項目と評価方法・配点比率																																																																						
①学習項目	研究テーマの選定	教材の制作	論文の記述	プレゼンテーション			③配点比率																																																															
②評価方法																																																																						
1	定期試験							0		%																																																												
2	小テスト							0		%																																																												
3	提出物	○	○	○	○			60		%																																																												
4	発表・実技・プレゼン				○			20		%																																																												
5	受講態度	○	○	○	○			20		%																																																												
6	自主学習態度							0		%																																																												
7	その他							0		%																																																												
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100		%																																																												
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題の成績評価に対する問い合わせに応ずる。																																																																					
IV その他																																																																						

I 科目に関する項目											
①科目名	卒業研究ゼミナール（井出） Graduation Research Seminar						②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	井出 麻里子										
④実務経験							⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	各自の設定したテーマについて研究成果をまとめる										
②授業の概要	自分の興味のある分野からテーマを設定し、個別指導を受けながら論文を執筆もしくは作品を制作し、3年間の集大成としてまとめ上げる。随時、学術研究における倫理規程や執筆上のルールについても解説する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマ、研究方法について設定できる。（研究テーマ・研究方法） 2. 研究テーマに関する情報を収集し、必要に応じたデータを作成することができる。（データ収集・データ作成） 3. 収集した情報・データを整理、分析し、論理的に構成することができる。（論理構成） 4. 自分自身の言葉で考えを論述するとともに、第三者に分かりやすく表現し、発表することができる。（文章表現・発表） 5. 研究倫理について理解し、研究のプロセスおよび「幼児教育研究」の執筆に活かすことができる。（研究倫理）										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
	○	○	○	○	○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、評価				第16回	論文作成に必要なWord機能について					
第2回	研究とは何か・研究倫理について				第17回	論文の書き方②：引用・要約の仕方					
第3回	研究の進め方①：研究ノートの使い方				第18回	データ作成①：事例の書き方					
第4回	研究の進め方②：文献研究				第19回	データ作成②：表のまとめ方					
第5回	研究の進め方③：フィールドワーク				第20回	データ作成③：写真画像の扱い					
第6回	研究テーマの設定①：文献の利用				第21回	個別指導③：データの扱い方					
第7回	研究テーマの設定②：インターネットの利用				第22回	個別指導④：本章					
第8回	先行研究の調べ方				第23回	個別指導⑤：終章					
第9回	個別指導①：テーマ設定と研究方法				第24回	タイトルの最終決定と表紙、目次の書き方					
第10回	ゼミ内発表会①：テーマ設定と研究方法				第25回	参考文献一覧、謝辞の書き方					
第11回	研究計画の立案				第26回	個別指導⑥：タイトルの決定					
第12回	論文の書き方①：序章の書き方				第27回	提出後の振り返りと研究発表会について					
第13回	論文構成について				第28回	個別指導⑦：研究発表会資料					
第14回	個別指導②：序章				第29回	ゼミ内発表会③：研究発表会					
第15回	ゼミ内発表会②：序章				第30回	卒業研究のまとめと自己評価					
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約30分の学習時間を要する。 復習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約30分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	授業時に資料を配付する。										
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要に応じて紹介する。										
⑪教材費	・作品制作を行う場合の材料費、実践現場での検証を行う場合の交通費などは各自で負担する。 ・大学ノート（B5サイズ）を1冊用意すること。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・オンデマンド授業の課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回授業で伝える）										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	研究テーマ・研究方法	データ収集・データ作成	論理構成	文章表現・発表	研究倫理	③配点比率				
1	定期試験						0	%			
2	小テスト						0	%			
3	提出物	○	○	○	○		75	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○		10	%			
5	受講態度	○	○	○	○		10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○		5	%			
7	その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール (打越) Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2単位 (60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	独自の視点で研究テーマに関する作品分析や実践を行い、研究成果としてまとめる。									
②授業の概要	前期は、個々の興味のあることについて発表し、討議しながら視野を広げ、研究の基礎資料をまとめる。後期からは本格的に執筆する。独自の視点で研究テーマに関する作品分析や実践を行い、研究成果としてまとめる。研究成果をまとめたものを他者にわかりやすく説明する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 研究計画にしたがって、幼児教育総合研究を執筆することができる。 2. 研究成果をレジメ・パワーポイントにまとめることができる。 3. 研究成果を発表することができる。									
④ディプロマブリシール (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
	○	○	○	○	○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業			ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション			実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	合同ゼミガイダンス			第16回	幼児教育総合研究 資料整理をする					
第2回	ゼミガイダンス、発表スケジュール作り			第17回	幼児教育総合研究 目次を書く					
第3回	研究テーマを考える			第18回	幼児教育総合研究 序論・研究目的を書く					
第4回	研究テーマを発表する			第19回	幼児教育総合研究 序論・研究方法を書く					
第5回	テーマにふさわしい参考文献を探す			第20回	幼児教育総合研究 第1章第1節を書く					
第6回	テーマにふさわしい先行研究を探す			第21回	幼児教育総合研究 第1章第2節を書く					
第7回	論文の書き方を学ぶ			第22回	幼児教育総合研究 第2章第1節を書く					
第8回	研究目的を考える			第23回	幼児教育総合研究 第2章第2節を書く					
第9回	研究方法を考える			第24回	幼児教育総合研究 各章をまとめる					
第10回	目次を考える			第25回	幼児教育総合研究 結論を書く					
第11回	研究方法にしたがって調査・分析等の準備をする			第26回	幼児教育総合研究 仕上げる					
第12回	研究方法にしたがって調査・分析等の情報収集をする			第27回	幼児教育総合研究 最終チェックをする					
第13回	研究方法にしたがって調査・分析等の実際の作業を行う			第28回	研究発表用のレジメを作成する					
第14回	作業状況について教員の個別指導を受ける			第29回	研究発表用のパワーポイントを作成する					
第15回	夏休みの計画を考える			第30回	ゼミ内で研究成果を発表する					
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：各回の課題に取り組む。約60分を要する。 復習：授業以外でも研究を進める。時期にもよるが、60分～240分を要する。									
⑨テキスト	なし									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 論文検索サイト (CiNii) で自分の研究テーマに関する先行研究を検索し、手元に用意すること。									
⑪教材費	各自の研究に必要な資料代。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	研究執筆	レジメ パワーポイント	研究成果の 発表					③配点比率	
	1 定期試験								0	%
2 小テスト									0	%
3 提出物	○	○							50	%
4 発表・実技・プレゼン				○					20	%
5 受講態度			○	○					20	%
6 自主学習態度	○	○	○	○					10	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	Google クラスルーム、または提出原稿を随時添削してフィードバックする。									
IV その他										
Google クラスルーム使用、ゼミの人数、時間割の状況によって、グループワークを取り入れることがある。										

I 科目に関する項目											
①科目名	卒業研究ゼミナール（大井） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003				
③担当教員名	大井 美緒										
④実務経験	幼稚園教諭（15年）					⑤担当形態	複数、クラス分け				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	幼児教育に関するテーマを設定し、卒業研究としてまとめる。										
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験をもつ教員が担当する。前期は、保育に関する事例等を提示し、子ども理解や保育者の援助など視点を定めて討論を行い考察をしていく。これらを通して幼児教育について関心のあるテーマを設定していく。後期は、目的を定めてテーマに関する研究に取り組み、卒業研究としてまとめあげ、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。										
③履修者の到達目標（学習成果）	1. [関心・意欲・態度] 自分の興味や関心をもとに探求できる研究テーマを設定できる。 2. [思考・判断・表現] 研究テーマに関連する文献や資料等情報を収集できる。 3. [技能] 収集した情報を整理、分析、考察し、自分の考えを論述し卒業研究としてまとめる。 4. [知識・理解] 研究内容について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○				
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	オリエンテーション 卒業研究の進め方				第16回	研究進捗状況の報告					
第2回	研究テーマの設定について				第17回	結果の整理方法					
第3回	研究テーマを探す①（先行研究の探し方）				第18回	結果の図の作成について					
第4回	研究テーマを探す②（文献の探し方）				第19回	結果の表の作成について					
第5回	先行研究の整理の仕方				第20回	結果の記述					
第6回	研究の動機・目的について				第21回	考察の書き方					
第7回	発表①研究テーマと構想				第22回	考察の作成					
第8回	卒業研究の書き方（基本的なルール）				第23回	結論の作成					
第9回	研究を進めるにあたっての倫理規定について				第24回	引用参考文献、謝辞の書き方について					
第10回	目次の作成				第25回	卒業研究全体の確認					
第11回	序論の書き方と作成				第26回	研究協力者への報告について					
第12回	研究方法の書き方				第27回	研究発表に向けて①（プレゼンテーションの作成）					
第13回	発表②（研究テーマ・序論・方法）前半グループ				第28回	研究発表に向けて②（資料の作成）					
第14回	発表②（研究テーマ・序論・方法）後半グループ				第29回	発表リハーサル					
第15回	夏休みの課題と今後の研究計画について				第30回	ゼミ内卒業研究発表会					
定期試験	なし										
⑧自主学習の課題	予習：テーマに関する文献を調べ要約する。指導内容を踏まえて研究を進めていくこと。予習には30分の学習時間を要する。 復習：助言や指導を受けた事項を確認し、加筆・修正をし、研究をまとめていく。復習には30分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	必要な資料は、随時は配布する。										
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要に応じて紹介する。										
⑪教材費	研究に必要な教材やフィールドワーク等にかかる費用は個人負担とする。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	授業に欠席した場合は、予習・復習事項を自ら取り組むこと。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率						
②評価方法											
1 定期試験										%	
2 小テスト										%	
3 提出物	○	○	○	○			50			%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30			%	
5 受講態度	○	○	○	○			10			%	
6 自主学習態度	○	○	○	○			10			%	
7 その他										%	
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は、添削をし個別指導をして返却する。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（竹森） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士・公認心理師					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	特別支援教育におけるアセスメントの理解／障がい児心理学の実践研究									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい児・者とその家族の心理支援、学校現場への巡回相談などの実践経験を活かし、実践現場へのフィールドワークを推奨し、授業を展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児心理学の先行研究や実践報告等を購読し、研究テーマとなる問題を設定する。さらに、現場での実践研究または調査研究を計画、実行、評価する力を養う。前期では、実践研究を進めるための必須技術であるインタビュー調査・介入研究についての理解を深める。また、研究を実施する上での倫理的配慮を学びながら、フィールドワーク先で実施可能な研究計画を立案する。後期には、収集したデータを分析・整理した上で結果をまとめ、そこから考察できる事象をまとめる。研究によって得られた成果を現場に報告する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育及び障がい児心理学の実践研究の手法（アセスメントを含む）と研究倫理に関する知識を習得する。 2. 現在のフィールドワークから、実践研究を計画し、実行する。 3. 実践報告や調査研究により収集したデータを分析・整理し、論理的に考察することができる。 4. 研究成果をまとめ、保育・教育の実践現場にわかりやすく報告する。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グループワーク	プレゼンテーション		グループワーク	実習・フィールドワーク	○	
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	前期ガイダンス			第16回	後期ガイダンスと研究進捗状況の報告					
第2回	実践研究演習1：インタビュー調査①			第17回	データの分析と結果の表示方法について					
第3回	実践研究演習2：インタビュー調査②			第18回	研究中間発表1：前半グループ					
第4回	実践研究演習3：介入研究①			第19回	研究中間発表2：後半グループ					
第5回	実践研究演習4：介入研究②			第20回	データの整理方法1：グラフの作成					
第6回	実践研究演習5：介入研究③			第21回	データの整理方法2：表の作成					
第7回	フィールドワーク先の決定と研究テーマの設定			第22回	考察の書き方について					
第8回	研究を進めるにあたっての倫理規程について			第23回	結論と要旨による結果のまとめ					
第9回	先行研究調査と文献引用について			第24回	研究論文の校正1：用語整理					
第10回	実践研究の手法について			第25回	研究論文の校正2：引用文献の確認					
第11回	研究テーマと研究フィールドの発表1：前半グループ			第26回	研究発表方法について					
第12回	研究テーマと研究フィールドの発表2：後半グループ			第27回	研究の報告と研究フィールドへのお礼					
第13回	データの種類と収集方法について			第28回	研究成果報告書の作成					
第14回	研究依頼文書の作成と送付			第29回	研究発表会・報告準備					
第15回	夏期休業中のフィールドワークについて			第30回	研究フィールドへの報告及びお礼の実践					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：引用文献となる文献を調べ、入手しておくこと。 復習：研究に関わる資料や授業での配布資料を整理し、研究論文執筆たえの手順と進捗を各自で確認すること。 ※予習・復習含め、60分程度の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	一般社団法人日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員『改訂 保育学研究倫理ガイドブック：子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために』フレーベル館、2012年									
⑪教材費	研究実施に必要な図書費、フィールドワークにかかる交通費、教材費は個人の負担とするが、相談を受け付ける。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特記事項なし。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	アセスメント	研究遂行力	論文執筆	研究倫理の理解	③配点比率				
1	定期試験								%	
2	小テスト								%	
3	提出物	○	○	○	○			40	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%	
5	受講態度								%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							20	%	
④ルーブリック評価	研究論文の作成において、一部ルーブリック評価を活用する。					比率合計	100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題（研究論文やレポート等）の成績評価に対する個別の問い合わせに応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（坂本） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子育て支援領域において研究テーマを設定し、卒業研究としてまとめ上げる。									
②授業の概要	公認心理師（臨床発達心理士）として子育て支援に従事してきた教員が担当する。保育・子育て支援において問題意識やテーマを絞り込み、フィールドワークから事象を客観的に捉え整理し、文献に基づきながら評価・考察する。これらの経過を記録し、卒業研究としてまとめ上げる。卒業研究は、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。Google classroomにより課題・資料を提示し、必要に応じて meet やメールによるオンライン個別指導を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 [関心・意欲・態度] 子育て支援に関する先行研究を概観し、探求したいテーマを設定できる。 2 [思考・判断・表現] 研究テーマについて多面的に考察し、先行研究や他者の意見をふまえて自分の意見を述べるができる。 3 [技能] 心理学的研究手法に基づき、目的に沿った研究の実施、結果の整理、考察ができる。 4 [知識・理解] 文献検索、論文作成の基本的事項と研究テーマに関する基礎知識を理解し卒業研究を作成できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	卒業研究の進め方				第16回	研究実施の準備				
第2回	子育て支援領域における研究テーマ				第17回	結果の整理方法				
第3回	研究テーマを探す① インターネットの検索方法				第18回	結果の表作成				
第4回	研究テーマを探す② 図書館における文献検索				第19回	結果の図作成				
第5回	先行研究の整理方法				第20回	結果の記述				
第6回	研究動機・構想の作成				第21回	考察の書き方				
第7回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第22回	考察の作成				
第8回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第23回	考察・結論の作成				
第9回	論文の書き方（基本ルールと目次の作成）				第24回	引用文献・資料・謝辞の書き方				
第10回	序論の書き方と作成				第25回	卒論最終チェック *ゼミ内卒論提出				
第11回	研究方法と方法の書き方				第26回	卒論の振り返りとまとめの作成				
第12回	個人発表②（目次、序論、方法）				第27回	研究協力者への報告書作成				
第13回	個人発表②（目次、序論、方法）				第28回	発表パワーポイントの作成				
第14回	研究実施に関する倫理				第29回	発表リハーサル				
第15回	研究の実施計画				第30回	ゼミ卒業研究発表会				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	・ 研究テーマに関連する書籍・論文を検索し、その内容について要約すること。 ・ 指導内容をふまえて、論文の執筆を進めていくこと。 ・ 授業外の時間に研究の実施を行うこと。 自主学習時間は、本授業の前後に各 90 分間を要する。									
⑨テキスト	なし *必要な資料は、随時配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書：白井利明・高橋一郎（著）「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 その他、参考資料などは随時紹介する。									
⑪教材費	フィールドワークおよび卒業研究に関わる経費は、個人負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・ フィールドワークをもとに卒業研究を行う。 ・ 受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待する。 ・ やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取る。こと。 ・ 本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回の講義で伝えます）。 ・ 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率			
②評価方法										
1 定期試験							0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物	○	○	○	○			50	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%		
5 受講態度	○	○	○	○			10	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○			10	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物については、添削し返却するとともに講評する。 発表については、内容・態度・技能について講評する。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究 Graduation Research					②科目コード	Y1-3C004			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	各自の設定したテーマについての研究成果をまとめる。									
②授業の概要	自分の興味・関心のあるテーマを設定し、指導教員のもと研究を進めて報告書の執筆や作品制作を行ない、3年間の集大成としてまとめる。(作品制作の場合でも報告書は付きねばならない。)									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定できる。 2. 研究テーマに関する情報収集ができる。 3. 集めた情報を整理し、分析することができる。 4. 自分の考えを論述できる(自分の表現したいものを制作物・作品として形にできる)。 5. 公に文書を発表、公表する際の倫理、研究倫理に基づき、研究発表ができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
	○			○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回	各自行った研究に基づいて、担当教員の指導を受けながら報告書としてまとめる。制作物の場合も報告書は必須であり、担当教員の指導に従ってまとめる。									
第6回	・提出分量(文字数、ページ数等)、書式、提出方法、提出日時、提出場所については、各担当教員の指示に従う。									
第7回										
第8回	・報告書、制作物の審査・評価後、研究発表を行うことがある。									
第9回	・提出した報告書、制作物は、専攻科修了までに本人に返却される。									
第10回	・担当教員から、保存資料として報告書のコピーの指定を受けることがある。コピーは図書館にて閲覧可能な資料として保存される。									
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
定期試験	報告書、制作物そのものが評価対象となる。									
⑧自主学習の課題	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑨テキスト	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑪教材費	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目								③配点比率		
②評価方法		各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。								
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物									%	
4 発表・実技・プレゼン									%	
5 受講態度									%	
6 自主学習態度									%	
7 その他			%							
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 A Special Seminar and Research A					②科目コード	Y6-3B001			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。									
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。 就職試験での音楽課題にも対応する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについての復習(英語音名)。									
第2回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音~臨時記号が付かない和音)。									
第3回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音~臨時記号が付く和音)。									
第4回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるハ長調の課題の実施)。									
第5回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるヘ長調の課題の実施)。									
第6回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによる変ロ長調の課題の実施)。									
第7回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音~臨時記号が付かない和音)。									
第8回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音~臨時記号が付く和音)。									
第9回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったハ長調の課題の実施)。									
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったヘ長調の課題の実施)。									
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったニ長調の課題の実施)。									
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。									
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。									
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:短音階、短調の曲想)									
第15回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:イ短調の課題の実施)									
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。									
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。									
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験							0	%	
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○			80	%	
3	提出物							0	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 B Special Seminar and Research B					②科目コード	Y6-3B002			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。									
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。就職試験での音楽課題にも対応する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。 ([特別演習A]と同じ授業概要、学習成果となっているが、レッスン課題はAとは異なる課題にて行うことになる)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			ディスカッション・ディベート		グループワーク			
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ハ長調の課題)									
第2回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ト長調の課題)									
第3回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ヘ長調の課題)									
第4回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:ハ長調の課題)									
第5回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:二長調の課題)									
第6回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:変ロ長調の課題)									
第7回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(付加6の和音:ハ長調の課題)									
第8回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(増3和音:ヘ長調の課題)									
第9回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短7の和音:ト長調の課題)									
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(長7の和音:ハ長調の課題)									
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(掛留和音:ハ長調の課題)									
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属9の和音:ヘ長調の課題)									
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:ト長調の課題)									
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:変ロ長調の課題)									
第15回	各自の課題曲のレッスン。日本の旋法とコードについて									
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。									
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。									
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。「特別演習A」が未履修であっても履修可。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○	80	%			
3	提出物					0	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	10	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価		取り入れていない				比率合計		100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 C Special Seminar and Research C					②科目コード	Y6-3B003			
③担当教員名	武田 秀美									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児保育のための児童文学（絵本）の研究									
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の「絵本」の研究を通して、「絵本」の意義や魅力について探求する。 また、幼児保育における読み聞かせに役立つ作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢・発達状況に応じた絵本の提供の方法と技術を学ぶ。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 幼児保育に必要な、児童文学（絵本）に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法と技術を身に付け、実践できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○					
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑧授業の計画（授業の内容）	第1回 授業の進め方、演習発表、成績評価、採り上げる絵本について、自分の好きな絵本について									
⑧授業の計画（授業の内容）	第2回 児童文学の概要（童話・昔話・民話・物語・絵本等）について									
⑧授業の計画（授業の内容）	第3回 日本の名作絵本の研究（1）『ももたろう』を読む 読後感の発表、「作品研究シート」の記入と意見交換									
⑧授業の計画（授業の内容）	第4回 『ももたろう』と、民話の絵本についての教員の解説									
⑧授業の計画（授業の内容）	第5回 日本の名作絵本の研究（2）『ねずみくんのチョコッキ』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
⑧授業の計画（授業の内容）	第6回 『ねずみくんのチョコッキ』についての教員の解説									
⑧授業の計画（授業の内容）	第7回 日本の名作絵本の研究（3）ノンタンシリーズ『ノンタンぶらんこのせて』「作品研究シート」記入・グループディスカッション・教員の解説									
⑧授業の計画（授業の内容）	第8回 日本の名作絵本の研究（4）『ぐるんぱのようちえん』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
⑧授業の計画（授業の内容）	第9回 『ぐるんぱのようちえん』についての教員の解説									
⑧授業の計画（授業の内容）	第10回 外国の名作絵本の研究（1）『こすずめのぼうけん』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
⑧授業の計画（授業の内容）	第11回 『こすずめのぼうけん』についての教員の解説									
⑧授業の計画（授業の内容）	第12回 外国の名作絵本の研究（2）『スイミー』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
⑧授業の計画（授業の内容）	第13回 『スイミー』についての教員の解説									
⑧授業の計画（授業の内容）	第14回 外国の名作絵本の研究（3）『黒ねこのおきゃくさま』「作品研究シート」の記入と作品についてのグループディスカッション									
⑧授業の計画（授業の内容）	第15回 『黒ねこのおきゃくさま』についての教員の解説、授業のまとめ									
⑧授業の計画（授業の内容）	定期試験 実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：採り上げる作品の読解と「作品研究シート」記入の宿題が出された場合は、必ず取り組み、授業に参加できるように準備する。 復習：授業で採り上げた作品や参考資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深めること。予習・復習ともに、約45分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	プリント教材を使用する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。									
⑪教材費										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	定員15名。 採り上げる絵本や数は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報	作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力	保育における 作品選定 および 実演の能力							③配点比率
②評価方法										
1 定期試験										0 %
2 小テスト										0 %
3 提出物	○	○	○							30 %
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○							50 %
5 受講態度	○	○	○							10 %
6 自主学習態度	○	○	○							10 %
7 その他										%
④ルーブリック評価	学生の演習発表の評価において用いている。						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 D Special Seminar and Research D					②科目コード	Y6-3B004			
③担当教員名	武田 秀美									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児保育のための児童文学(童話・昔話・民話・物語・絵本)の研究									
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の「児童文学」(童話・民話・昔話・物語・絵本)の研究を通して、児童文学の意義や魅力について探求する。また、幼児保育における読み聞かせに役立つ児童文学作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢に応じた児童文学の提供の方法を学ぶ。 具体的には、作品についての各自の作品研究、学生グループでの意見交換、各グループごとの意見の発表、教員による作品についての解説を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児保育に必要な、児童文学に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べるることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法について説明することができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑦授業の計画(授業の内容)	<p>第1回 授業の進め方、成績評価について</p> <p>第2回 児童文学の概要(童話・民話・昔話・物語・絵本等)について</p> <p>第3回 児童文学の研究の方法について(絵本『ぐりとぐらのかいすいよく』を例に)</p> <p>第4回 アンデルセン「おやゆび姫」の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について</p> <p>第5回 アンデルセン「おやゆび姫」の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第6回 アンデルセン「おやゆび姫」の研究(3) 幼児向け絵本版『おやゆび姫』の種類と内容について</p> <p>第7回 グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について</p> <p>第8回 グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第9回 グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(3) 幼児向け絵本版「こぶとりじいさん」の種類と内容について</p> <p>第10回 新美南吉「ごんぎつね」の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在</p> <p>第11回 新美南吉「ごんぎつね」の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第12回 新美南吉「ごんぎつね」の研究(3) 幼児向け絵本版『ごんぎつね』について</p> <p>第13回 レオ・バスカーリア『葉っぱのフレディ』の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在</p> <p>第14回 レオ・バスカーリア『葉っぱのフレディ』の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第15回 保育・児童教育における児童文学の意義と役割について</p> <p>定期試験 実施しない</p>									
⑧自主学習の課題	<p>予習：授業で採り上げる作品については必ず読み、研究・考察し、授業でのグループ学習(ディスカッション)に参加できるように準備する。</p> <p>復習：授業で採り上げた作品や参考文献・資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深める。予習・復習ともに、約45分の学習時間を要する。</p>									
⑨テキスト	プリント教材を使用する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項	定員15名。 授業中に採り上げる作品は必ず読み、「作品研究シート」を提出するとともに、グループ学習・口頭発表を行うことが履修の条件となる。 なお、採り上げる児童文学は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報	作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力	保育における 作品の選定と 与え方の知識						③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物	○	○	○					40	%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○					40	%	
5 受講態度	○	○	○					10	%	
6 自主学習態度	○	○	○					10	%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	なし							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 E Special Seminar and Research E					②科目コード	Y6-3B005			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	生成 AI を利活用した Web による情報発信技術（基礎）									
②授業の概要	Society5.0 の社会で AI（人工知能）により引き起こされる社会の大きな変化を認識し、デジタル社会に主体的に対応できる情報発信技術力を育成することを目的とする。具体的には、生成 AI を利活用する際に必要な知識と技術を学び、Web による情報発信のための企画立案の手法を身につける。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 生成 AI を使用する際の留意事項を理解し、生成 AI を利活用できる。 2. Web による情報発信のための企画立案の手法を説明できる。 3. テキストエディタを使って、HTML によるコーディングができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	イントロダクション、生成 AI の利活用について									
第 2 回	文書の基本構造を表す HTML									
第 3 回	演習（コーディング：分かりやすい情報表現）									
第 4 回	分散管理のためのリンク技術									
第 5 回	演習（コーディング：ハイパーリンク）									
第 6 回	表現を分離するスタイルシート									
第 7 回	演習（コーディング：スタイルシート）									
第 8 回	テーブル									
第 9 回	演習（コーディング：テーブル）									
第 10 回	マルチメディアオブジェクトの扱い									
第 11 回	演習（コーディング：マルチメディアオブジェクト）									
第 12 回	Web プロジェクトのワークフロー									
第 13 回	企画の立案									
第 14 回	演習（企画の立案：動機、目的、対象者）グループディスカッション・プレゼンテーション									
第 15 回	演習（企画の立案：期待効果、発信内容）グループディスカッション・プレゼンテーション									
定期試験	実施しない（評価は、授業時の小テスト、課題レポート、プレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 10 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	生成 AI の利活用	情報発信のための企画立案	HTML コーディング					③配点比率	
1	定期試験								0	%
2	小テスト		○						10	%
3	提出物	○	○	○					50	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					20	%
5	受講態度	○	○	○					10	%
6	自主学習態度	○	○	○					10	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計			100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 F Special Seminar and Research F					②科目コード	Y6-3B006			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	生成 AI を利活用した Web による情報発信技術（応用）									
②授業の概要	Society5.0 の社会で AI（人工知能）により引き起こされる社会の大きな変化を認識し、デジタル社会に主体的に対応できる情報発信技術力を育成することを目的とする。具体的には、生成 AI を利活用する際に必要な知識と技術を学び、Web による情報発信のための企画立案の手法を身につける。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得する。なお、後期は各自が興味・関心のあるテーマを選定し、Web サイトを制作する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 生成 AI を使用する際の留意事項を理解し、生成 AI を利活用できる。 2. Web による情報発信のための企画立案の手法を説明できる。 3. テキストエディタを使って、HTML によるコーディングができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	イントロダクション、生成 AI の利活用について									
第 2 回	Web サイト情報構造の設計									
第 3 回	演習（Web サイト情報構造の設計）									
第 4 回	ページ情報構造の設計									
第 5 回	演習（ページ情報構造の設計）									
第 6 回	デザイン・ガイドラインの設計									
第 7 回	演習（デザインガイドラインの設計）									
第 8 回	オブジェクト指向ベースのクライアントサイドスクリプト（JavaScript）									
第 9 回	演習（JavaScript）									
第 10 回	キャッチコピーの設定									
第 11 回	演習（キャッチコピー）									
第 12 回	演習（コーディング：基本構造）									
第 13 回	演習（コーディング：スタイルシート）									
第 14 回	演習（プレゼンテーション準備）									
第 15 回	まとめ（プレゼンテーション、ディスカッション）									
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題レポートおよびプレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	本講義を受講するためには、「特別演習 E」を事前に受講することが求められる。 授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 10 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	生成 AI の利活用	情報発信のための企画立案	HTML コーディング					③配点比率	
1	定期試験								0	%
2	小テスト								0	%
3	提出物	○	○	○					50	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					30	%
5	受講態度	○	○	○					10	%
6	自主学習態度	○	○	○					10	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 G (モンテッソーリ教育の理論) Special Seminar and Research G					②科目コード	Y6-3B007			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	モンテッソーリ教育の理論について理解する。									
②授業の概要	テキスト・配付資料や、視聴覚教材、モンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の理論について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. モンテッソーリ教育の基本原則について説明できる。(教育原理) 2. モンテッソーリ教具のカリキュラムや教具の意図について説明できる。(教具論) 3. モンテッソーリ教師および大人の役割について説明できる。(教師論)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google クラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、評価についてなど / モンテッソーリ教育とは									
第2回	マリア・モンテッソーリの生涯と業績									
第3回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理①「パン屑をあさる障がい児」のエピソード									
第4回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理②「円柱差しの女兒」のエピソード									
第5回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理③「敏感期」について									
第6回	モンテッソーリ教具について(モンテッソーリ教具の5分野)									
第7回	「日常生活の練習」教具の紹介と教具体験									
第8回	「感覚教具」① 教具の紹介と教具体験									
第9回	「感覚教具」② 感覚教具の特徴とねらい									
第10回	「算数教具」① 目的とカリキュラム									
第11回	「算数教具」② 教具の紹介と教具体験									
第12回	「言語教具」① 目的とカリキュラム									
第13回	「言語教具」② 教具の紹介と教具体験									
第14回	モンテッソーリ教師の役割：DVD視聴									
第15回	まとめ：モンテッソーリ教育における大人の役割									
定期試験	実施する(レポート)									
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約30分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	田中昌子著『マンガでやさしくわかるモンテッソーリ教育』日本能率協会マネジメントセンター2018年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業内で随時紹介する。									
⑪教材費	大学ノート(B5サイズ)を1冊用意すること。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・教具体験はグループワークの形式で行う。 ・オンデマンド課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること(クラスコードは初回授業で伝える)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	教育原理	教具論	教師論						③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験(レポート)			○						30	%
2 小テスト									0	%
3 提出物(ノート)	○	○	○						60	%
4 発表・実技・プレゼン									0	%
5 受講態度	○	○	○						5	%
6 自主学習態度	○	○	○						5	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 H (モンテッソーリ教育の実践) Special Seminar and Research H					②科目コード	Y6-3B008				
③担当教員名	井出 麻里子										
④実務経験						⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	モンテッソーリ教育の実践について知る。										
②授業の概要	画像・DVDなどの視聴覚教材や実際のモンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の実践について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。また、モンテッソーリ教育を実践している現場でのフィールドワークを行い、モンテッソーリ教育の実際を知る。										
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 各発達段階の特徴と、その時期にふさわしい養育・保育環境について説明できる。(発達と環境) 2. モンテッソーリ教育の実践事例を知り、その特徴を説明できる。(実践事例の理解) 3. モンテッソーリ教育の実践現場を体験し、レポートにまとめる。(実践現場体験)										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○			○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク		○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						○
⑦授業の計画(授業の内容)											
第1回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、フィールドワーク、評価についてなど										
第2回	モンテッソーリ・メソッドの実践① DVD 視聴と解説 『モンテッソーリ教育0歳児の家庭環境 出産～5ヶ月』										
第3回	0歳児の子育て環境(家庭におけるモンテッソーリ教育)										
第4回	モンテッソーリ・メソッドの実践② DVD 視聴と解説 『ニド モンテッソーリ教育0歳児の発達と環境』										
第5回	0歳児クラスの保育環境① スペースと家具の配置										
第6回	0歳児クラスの保育環境② モンテッソーリ教具と教師の役割										
第7回	モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説 『インファントコミュニティ モンテッソーリ教育 1～3歳児の生活教育』										
第8回	1～3歳児クラスの保育環境										
第9回	モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説 『子どもの家 モンテッソーリ教育 3～6歳児の感覚教育』										
第10回	3～6歳児クラスの保育環境										
第11回	モンテッソーリ園の特徴(一般園との比較を通して)										
第12回	フィールドワーク① 概要説明										
第13回	フィールドワーク② 事前学習										
第14回	フィールドワーク③ 園見学										
第15回	フィールドワーク④ フィールドワークの振り返りとモンテッソーリ教育の実践に関するまとめ										
定期試験	実施する(レポート課題)										
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約30分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約30分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	随時、資料を配付する。										
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業内で随時紹介する。										
⑪教材費	・大学ノート(B5サイズ)1冊を用意すること。 ・フィールドワークにかかる費用は各自の負担となる。										
⑫履修条件/履修上の注意事項	・前期に開講している「幼児教育研究G(モンテッソーリ教育の理論)」を履修していること。 ・オンデマンド課題はGoogle classroom 経由で提出するため、本科目のClassroomに必ず参加すること。(クラスコードは初回授業で伝える)										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目	発達と環境	実践事例の理解	実践現場体験						③配点比率		
②評価方法											
1 定期試験(レポート)			○						30	%	
2 小テスト									0	%	
3 提出物(ノート)	○	○							60	%	
4 発表・実技・プレゼン									0	%	
5 受講態度	○	○	○						5	%	
6 自主学習態度	○	○	○						5	%	
7 その他									0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習Ⅰ（保育時事問題演習） Special Seminar and ResearchⅠ					②科目コード	Y6-3B009			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	公務員採用試験に向けての面接・小論文対策									
②授業の概要	この授業では、公務員採用試験を受験希望の人を対象に、保育時事問題を取り上げ、試験で必要とされる小論文・面接・グループ討議等の力を身につける。保育士資格に必要な知識や自らの体験を総合的に捉え、自分の意見として人にわかりやすく伝えられるようにする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育時事問題について、自分の意見を文章にまとめることができる。 2. 保育時事問題について、自分の意見を人にわかりやすく伝えることができる。 3. 保育時事問題について、他者の意見を受け止めながら、自分の意見を伝えることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート		○					
	グループワーク	プレゼンテーション	○		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	ガイダンス・目標の設定									
第2回	小論文の基本的な考え方									
第3回	小論文の基本 実践① 公務員とは									
第4回	小論文の基本 実践①の振り返り									
第5回	保育に関する時事問題を調べる									
第6回	保育に関する時事問題を発表する									
第7回	小論文の基本 実践② 保育とは									
第8回	小論文の基本 実践②の振り返り									
第9回	保育時事問題・グループ討議の基本									
第10回	保育時事問題・グループ討議の実践									
第11回	保育時事問題・個人面接の基本									
第12回	保育時事問題・模擬面接									
第13回	保育時事問題・自己PRの基本									
第14回	保育時事問題・自己PRの実践									
第15回	総合問題（これまでの授業をふまえて、小論文としてまとめる）									
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：約10分間の学習時間を要する。（新聞などを読み、時事問題について情報収集をする） 復習：約60分間の学習時間を要する。（授業での課題を復習、または解き直しをする）									
⑨テキスト	鈴木鋭智・著『改訂版 何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ55』KADOKAWA 2020年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ※汐見稔幸・監修『保育所保育指針ハンドブック 2017年告示版』学研教育みらい ※近喰晴子・監修／コンデックス情報研究所編著『保育士採用試験重要ポイント＋問題集'26年度版』									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	公務員採用試験を受験する人は必ず受講すること。受験する可能性のある人もできれば受講すること。受講者の中で希望があれば、試験前に面接の個別練習を受けることができる。 ※受け身にならず、自分から進んで調べたり、質問することができる人を望む。 授業を欠席した場合には、Google classroomを確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取る。自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の課題を Google classroom より配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	小論文	面接練習スピーチ	グループディスカッション						③配点比率
	1 定期試験	○								20 %
2 小テスト										0 %
3 提出物	○									20 %
4 発表・実技・プレゼン			○	○						20 %
5 受講態度			○	○						10 %
6 自主学習態度	○									30 %
7 その他										0 %
④ルーブリック評価	取り入れていない								比率合計	100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小論文については添削して返却。面接練習スピーチ、グループディスカッションは授業時に随時コメントする。成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										
参考図書の※は購入すると試験に役立つ。Google クラスルームを使用する。										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 J (乳幼児のあそびと健康教育) Special Seminar and Research J					②科目コード	Y6-3B010			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児のあそびと健康教育									
②授業の概要	本科で触れることのできなかった乳幼児のあそびと健康教育を中心としながら、自然観察や伝統あそび・民俗舞踊の技能の習得、学外での学習も取り入れていく。また、子ども自身があそびの面白さや健康・安全を意識できるようなポイントをノートにまとめていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 乳幼児の様々な遊びを実践できるようになる。 2. 文献資料や DVD 資料などから、乳幼児のあそびと健康教育の重要ポイントをまとめることができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習 グループワーク		反転授業 プレゼンテーション		ディスカッション・ディベート 実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業				グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援					○
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス・自然観察あそび(学内)		実践(授業の進め方、Google classroom の活用法、評価方法についても説明します)							
第2回	乳幼児のあそび 発表									
第3回	園外保育を想定した自然観察あそび		実践							
第4回	表現あそび(布を使った表現)									
第5回	運動会の表現(民俗舞踊)		映像による学習と体験							
第6回	伝承あそびの良さ		理論							
第7回	伝承あそびの習得・けん玉		練習							
第8回	伝承あそびの習得・けん玉		検定							
第9回	伝承あそびの習得・お手玉		練習							
第10回	伝承あそびの習得・お手玉		検定							
第11回	伝承あそびの習得・あやとり		検定							
第12回	伝承あそびの習得・コマ		練習							
第13回	伝承あそびの習得・コマ		検定							
第14回	季節のあそび(クリスマス・正月のあそび)									
第15回	発達に即した巧技台のあそび(学外)									
定期試験	実施しない(授業課題のみ)									
⑧自主学習の課題	予習: 約 10 分間の学習時間を要する。(興味を持ったことについて調べる) 復習: 約 30 分間の学習時間を要する。(ノートまとめ、課題練習)									
⑨テキスト	適宜プリントを使用									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	たくさん体を動かすので、運動しやすい格好で出席すること(ミニスカート、ショートパンツ、肌の露出が大きい服は不可)。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。 巧技台は外部のイベントに参加予定(交通費は自己負担)。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	様々なあそびの実践	様々な遊びのまとめ							③配点比率
1	定期試験									0 %
2	小テスト									0 %
3	提出物		○							40 %
4	発表・実技・プレゼン	○								50 %
5	受講態度	○								5 %
6	自主学習態度	○	○							5 %
7	その他									%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	随時、Google classroom よりコメントする。 検定については、その場でコメントする。									
IV その他										
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは「保育内容の指導法・健康」の続きを使用してもよい。ルーズリーフ不可。 ・Google classroom を使用する。 ・(科目等履修生の状況も含め)受講者数、天候等によって内容の変更がある。 										

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 K Special Seminar and Research K					②科目コード	Y6-3B011				
③担当教員名	大井 美緒										
④実務経験	幼稚園教諭 (15年)					⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	子ども主体の保育の理解と振り返りの方法										
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験を持つ教員が担当する。子ども理解や援助、造形表現や遊び等、子ども主体の保育を展開していくための知識や技術について、事例検討および実践を通して学ぶ。										
③履修者の到達目標 (学習成果)	1 【関心・意欲・態度】 子ども主体の保育に関心を持ち、保育のあり方について探求することができる。 2 【思考・判断・表現】 子ども主体の保育の展開の仕方について考察し、設定保育の中ではどのような配慮等が必要か自分の意見を述べるができる。 3 【技能】 保育指導案の作成や振り返りに必要な情報を選択し可視化することができる。 4 【知識・理解】 子ども主体の保育を展開することの重要性について理解し、説明することができる。										
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート		○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グループクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○			
⑦授業の計画 (授業の内容)											
第1回	授業の概要と進め方について										
第2回	保育者の意図的な環境について										
第3回	園外保育について①グループ討議										
第4回	園外保育について②立案										
第5回	園外保育について③役割と準備										
第6回	園外保育の実際										
第7回	園外保育の振り返り										
第8回	保育の振り返りについて①ドキュメンテーションとは										
第9回	保育の振り返りについて②ドキュメンテーション作成										
第10回	保育の振り返りについて③ドキュメンテーション発表										
第11回	幼児の遊び①夢中になることとは										
第12回	幼児の遊び②集団での遊び										
第13回	行事と遊びの関係										
第14回	遊びの環境と援助について										
第15回	子ども主体の保育とは										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：各授業回のテーマについて、保育雑誌等で実際に現場でどのようなことが行われているのか調べる。予習には約30分の時間を要する。 復習：各授業回において、提示された課題に取り組む。復習には約30分間の学習時間を要する。										
⑨テキスト	授業時に資料を随時提示する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	製作物や見学等に関する費用については、各自の負担とする。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・やむを得ず欠席した場合は、翌週の授業の前日までに担当教員の研究室まで授業資料等を取りに来て、予習・復習に取り組むこと。 ・グループワークでは、主体的に参加し自分の意見を述べることを。また、他者の意見を尊重し対話をしながら進めていくこと。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法		①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			③配点比率		
1	定期試験									%	
2	小テスト									%	
3	提出物		○	○	○	○			50	%	
4	発表・実技・プレゼン		○	○	○	○			30	%	
5	受講態度		○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度		○	○	○	○			10	%	
7	その他									%	
④ルーブリック評価		取り入れている					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法		成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 M Special Seminar and Research M				②科目コード	Y6-3B013				
③担当教員名	服部 純一									
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14年)				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	発達障がい児の教育臨床(幼稚園・保育園・学校における特別な教育支援その1 基礎編)									
②授業の概要	来学する数名の発達障がい児への実際の教育支援を通して「個別の支援計画」の立て方や、支援計画を基に具体的な発達支援・学習支援のための教材づくり、支援のための基本的な方法を、臨床研究として実践的に学習する。特に、特別支援教育や障がい児保育、療育を志す学生については、ケースから学ぶ方法や教育者・保育者・療育者として求められる実践的な力を身につけられるアクティブラーニング形式の授業にしたい。指導者は1980年代に日本に個別の教育計画を概念を紹介し、埼玉県の特設支援教育課程編成要領の策定にも関わってきた経験から、個別の支援計画の立案から活用に至る具体的な方法を、個々の子どもの課題に合わせて立案し実践する保応報を指導する。教材の選択、教具の作成、支援の方法と評価、支援計画の修正などを実践的に学び、特別支援教育や療育に携わる支援者としての基礎的な技能を養う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 特別支援教育や発達支援などの療育活動に対する支援者としての基本的な知識が理解できる。 2. 教育相談として定期的に来学する数名の発達障がい児に対し、担当教員の指導の下で学習支援や療育活動ができるようになる。 3. 特別な支援計画を立てるポイントを把握し、数名の発達障がい児への臨床活動を通して適切な支援や評価が行えるようになる。 4. 特別な教育支援計画に沿った支援を展開するための、合理的な教材・教具の工夫ができるようになる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画(授業の内容)	第1回 初回ガイダンス(特別演習を通して学ぶ内容や発達支援・特別教育支援の基本的な考え方の説明) 第2回 臨床研究に関する打ち合わせ(来学するケースの紹介と臨床担当者の調整。バックアップする学生の役割の説明と教材づくりについて) 第3回 ケース研究A(発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生)への学習課題の把握と支援セッションへの試行。 第4回 ケース研究B(ADHDと診断された小学生)への学習課題の把握と支援セッションへの試行。 第5回 ケース研究C(発達障害から不登校傾向にある小学生)への学習課題の把握と支援セッションへの試行。 第6回 ケース研究Aへの学習支援セッション。(指導課題の把握、教材の選択、指導方法の研究を中心に) 第7回 ケース研究Bへの学習支援セッション。(指導課題の把握、教材の選択、指導方法の研究を中心に) 第8回 ケース研究Cへの学習支援セッション。(指導課題の把握、教材の選択、指導方法の研究を中心に) 第9回 ケース研究Aへの学習支援セッション。(個別に支援計画立案への試行を中心に) 第10回 オンデマンドによる基礎学習:特別な教育支援ニーズへの課題把握と支援方法の検討。(同テーマの資料による学習・課題提出も可) 第11回 オンデマンドによる基礎学習:特別な教育支援計画の立案のポイント(同テーマの資料による学習・課題提出も可) 第12回 ケース研究Bへの学習支援セッション。(個別に支援計画立案への試行を中心に) 第13回 ケース研究Cへの学習支援セッション。(個別に支援計画立案への試行を中心に) 第14回 ワークショップ:ケースA・B・Cそれぞれへの個別の支援計画の作成 第15回 まとめの講義									
定期試験	レポート課題の提出。特別な教育支援のありかたについて(個別の支援プランA・Bと支援セッションの活動計画提出)									
⑧自主学習の課題	予習:各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業(臨床研究)に臨む。予習には教材研究を含め約90分の学習時間を要する。 復習:各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。復習には約60分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費	なし。但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	臨床研究はケースの児童1名につき学生1~2名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。定員は8名まで。特別演習MとNのセットで受講されることを勧めるが、定員以内ならMのみの受講も可とする。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	特別な教育支援の理解	個別の療育的支援	子どもへの支援と評価	教材・教具の工夫			③配点比率		
1	定期試験(課題提出)	○	○	○	○			20	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物(授業セッションへの計画)	○	○	○	○			40	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			20	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他								%	
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物(個別の支援計画や教材・教具の工夫)については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 N Special Seminar and Research N				②科目コード	Y6-3B014				
③担当教員名	服部 純一									
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14年)				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	教育臨床（インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援と支援の連携）									
②授業の概要	特別支援学校・学級の教員、教育委員会の教育相談室長、特別支援学級設置小学校の校長経験を活かし、具体的な発達支援と特別支援教育で必要とされる実践的な支援法を臨床研究として展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児保育、療育について、教育相談として来学するケースに対し、個別の支援計画を立てながら、臨床的に発達支援を実施する方法をアクティブラーニング形式で学ぶ。特にNでは、学校との連携、放課後デイサービスとの連携、医療機関との連携をケースを通して具体的に試みる。ケースへの個別支援だけでなく、保護者の気持ちの寄り添った支援や子どもを取り巻く支援資源を把握した総合的な支援計画を検討し、インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援の実践のしかたについて、具体的に学べる体験的な授業にしていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブな保育・教育環境をつくるための特別な支援の方法や知識が理解できる。 2. 発達障がいのある児童や幼児に必要なとされる保育・教育環境が理解でき、子どもにとって必要な個別支援計画を作成し中間修正が考えられる。 3. 担当教員の指導の下での学習支援や療育活動の中で、適切な教材・教具の工夫ができる。 4. 療育活動を通して、子どもを取り巻く関係者への連携の取り方が工夫でき、インクルーシブな保育・教育が行えるようになる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート		グループワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			〇			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	初回ガイダンス(後期の授業におけるケースへの臨床研究と連携先とのかかわり方についての基礎知識)									
第2回	ケース研究A(発達障がいによる学習障がいのある小学生)への学習支援セッション。支援課題の確認とMで立てた計画の修正。									
第3回	ケース研究B(ADHDと診断された小学生)への発達支援セッション。支援課題の確認とMで立てた計画の修正。									
第4回	ケース研究C(発達障害から不登校傾向にある小学生)への特別支援セッション。支援課題の確認とMで立てた計画の修正。									
第5回	ケース研究A:特別支援セッションでの指導課題の検討と教材・指導手順の工夫の検討。									
第6回	ケース研究B:特別支援セッションでの指導課題の検討と教材・指導手順の工夫の検討。									
第7回	ケース研究C:特別支援セッションでの指導課題の検討と教材・指導手順の工夫の検討。									
第8回	講義:学校・保護者への支援と個別の支援計画の立て方									
第9回	ケース研究A:発達支援セッションプログラムの確認と小学校への中間レポートの下書き。									
第10回	ケース研究B:発達支援セッションプログラムの確認と小学校への中間レポートの下書き。									
第11回	ケース研究C:発達支援セッションプログラムの確認と小学校への中間レポートの下書き。									
第12回	ケース研究A:小学校や放課後デイサービスと医療機関との連携についてのレポート提出に向けた学習支援。									
第13回	ケース研究B:小学校や放課後デイサービスと医療機関との連携についてのレポート提出に向けた学習支援。									
第14回	ケース研究C:小学校や放課後デイサービスと医療機関との連携についてのレポート提出に向けた学習支援。									
第15回	まとめ:インクルーシブな保育・教育に向けた教育・保育現場の特徴と連携を拓ける支援のあり方について									
定期試験	レポート課題									
⑧自主学習の課題	<p>予習:各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業(臨床研究)に臨む。予習には教材研究を含め約90分の学習時間を要する。</p> <p>復習:各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。復習には約60分の学習時間を要する。</p>									
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費	なし。但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	臨床研究はケースの児童1名につき学生1~2名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。定員は8名まで。特別演習MとNのセットで受講されることを勧めるが、定員以内ならNのみの受講も可とする。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	インクルーシブ教育への理解	個別の支援計画の中間修正	教材・教具の工夫	連携への知識	③配点比率				
	1 定期試験	〇	〇	〇	〇	20	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物	〇	〇	〇	〇	〇	40	%			
4 発表・実技・プレゼン	〇	〇	〇	〇	〇	20	%			
5 受講態度	〇	〇	〇	〇	〇	10	%			
6 自主学習態度	〇	〇	〇	〇	〇	10	%			
7 その他							%			
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・提出物(個別の支援計画や教材・教具の工夫)については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。 									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 Q Special Seminar and Research Q				②科目コード	Y6-3B017				
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（11年）・公認心理師（6年）				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児期・学齢期における療育プログラムの計画と実施									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい・知的障がい児への療育や心理臨床の実践経験を活かし、具体的な支援事例を想定した実践的な授業を展開する。模擬療育を実施しながら、障がいを持つ子どもに行う療育支援プログラムについてアクティブラーニング形式で学ぶ。特に、自立活動を踏まえた療育指導及び教材作成を行い、実践する技術を養う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育における自立活動の概念について知り、療育プログラムに反映することができる。 2. 療育プログラムの遂行を共有する計画書を作成し、これに従って模擬療育を実施することができる。 3. 他者が行っている療育を見て、専門的見地から評価・コメントし、それらを療育ノートにまとめることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧ ICT 機器による授業や支援	ゲージクルラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○					
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 イントロダクション									
第2回	発達を促す療育									
第3回	様々な療育的アプローチ（1）									
第4回	様々な療育的アプローチ（2）									
第5回	療育機関について調べよう									
第6回	Stage I の教材を作って体験しよう									
第7回	Stage II の教材を作って体験しよう									
第8回	Stage III-1 の教材を作って体験しよう									
第9回	Stage III-2 の教材を作って体験しよう									
第10回	Stage IV の教材を作って体験しよう									
第11回	模擬療育説明+グループ分け									
第12回	模擬療育作成									
第13回	模擬療育作成									
第14回	模擬療育発表									
第15回	まとめ（アセスメントに基づく療育）									
定期試験	発表・実技で評価するため、実施しない。									
⑧自主学習の課題	予習：模擬療育で担当する教材について事前に調べること。 復習：実施した模擬療育のまとめノートを作成すること。 ※予習・復習ともに各30分程度の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に随時提示する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	実習費、教材費用：模擬療育で使用する教材費は、各自捻出すること。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	上の注意事項 履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：模擬療育では、参加者全員の前で発表を行うため、そうしたことに過度な心理的負担が生じる場合には受講しないことがのぞましい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	自立活動の理解	療育プログラム計画書の作成	模擬療育の実施	療育ノート	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物	○	○		○			50		%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○				40		%	
5 受講態度	○	○	○				5		%	
6 自主学習態度	○	○	○	○			5		%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	発表（実技）における評価についてはルーブリック評価を活用する。				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 R Special Seminar and Research R					②科目コード	Y6-3B018			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（11年）・公認心理師（6年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保護者支援									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、保護者との教育相談や巡回相談の実践経験を活かし、具体的な実践を想定した授業を展開する。保護者が抱える悩み・不安、期待について理解し、保護者理解の観点をアクティブラーニング形式で学ぶ。 また、対人援助を行う上で支援者がどのように保護者と関わるといふか、ペアワーク等の実践を通して体験的に理解し、保護者と良好な関係を構築するための基礎的な力を養う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者が抱えるさまざまな感情・悩みを知り、保護者に寄り添った対応をすることができる。 2. 保護者を理解するための観点を知り、どのような行動に着目すべきか表現することができる。 3. 保護者の様子を見立てる視点を知り、所見や記録に反映することができる。 4. 自己理解を深め、対人援助サービスを実施する上での自身の強みと課題を理解し、言葉で表現することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	発達臨床領域における保護者支援									
第2回	保護者が抱えるさまざまな悩み									
第3回	保護者相談に必要なコミュニケーション									
第4回	ストレスマネジメントを学ぶ									
第5回	アンガーマネジメントを学ぶ									
第6回	ペアレント・トレーニングを学ぶ①									
第7回	ペアレント・トレーニングを学ぶ②									
第8回	保護者相談①：相談の枠組みを作る									
第9回	保護者相談②：相手を労う									
第10回	保護者相談③：相手の話を傾聴する									
第11回	保護者相談④：相手に伝わりやすい工夫									
第12回	保護者相談⑤：わからない時にどうするか									
第13回	保護者相談⑥：困難事例への対処									
第14回	対人援助職に求められるセルフケア									
第15回	まとめ									
定期試験	授業内の実践・実技にて評価する									
⑧自主学習の課題	予習：授業時に配布する参考資料等に目を通しておくこと。 復習：保護者を支援するために必要な工夫について記録すること。 ※予習・復習それぞれに各30分の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に随時提示する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	特に必要なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：保護者対応を習得するために、多くの回でペアワーク（模擬面接等）を行う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保護者の理解	行動観察	観察記録	自己理解	③配点比率				
	1 定期試験									%
2 小テスト										%
3 提出物				○	○		50			%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	○		40			%
5 受講態度	○	○	○	○	○		5			%
6 自主学習態度	○	○	○	○	○		5			%
7 その他										%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100			%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 T Special Seminar and Research T					②科目コード	Y6-3B020			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	行動分析による発達支援の技法									
②授業の概要	行動分析学は心理学の中でも学習心理学という領域に分類される学問である。「私たちはなぜその行動をするのか」「なぜある行動をしないのか」「ある行動は長続きするのに、別の行動はなぜ長続きしないのか」「同じような状況に置かれても、なぜ人によってやる違うのか」など、行動の『なぜ?』を科学的に理解し解明する。授業では、事例を通じて行動分析学に関する基礎的な知識を得ることを目標とする。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 日常生活で生じるさまざまな事象に対し、機能分析を用い、原因・行動・結果を整理することができるようになる。 2. 人の行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようになる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google クラウドスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス									
第2回	好子出現による強化①(事例:祖父の発話)									
第3回	好子出現による強化②(事例:チューインガムとお通じ)									
第4回	嫌子消失による強化①(事例:恐怖の診察室)									
第5回	嫌子消失による強化②(事例:自閉スペクトラム症のAくん)									
第6回	嫌子出現による弱化①(事例:歯ぎしり)									
第7回	嫌子出現による弱化②(事例:習慣逆転法)									
第8回	好子消失による弱化①(事例:とあるクラスの良い子ゲーム)									
第9回	好子消失による弱化②(事例:タイムアウトと母の喜び)									
第10回	消去と復帰①(事例:招かれざる訪問)									
第11回	消去と復帰②(事例:Bくんの癩癩)									
第12回	分化強化と分化弱化①(事例:負けっぱなしのテニス部)									
第13回	分化強化と分化弱化②(事例:創造的行動)									
第14回	シェイピング(事例:子どもにメガネをかけさせよう)									
第15回	強化スケジュール(事例:迷信行動)									
定期試験	実施する(レポート課題)									
⑧自主学習の課題	予習:約15分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 予習:約15分間の学習時間を要する。授業内で配布した資料を読み、大切なポイントを押さえる。									
⑨テキスト	なし									
⑩参考書/参考資料/準備物等	杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・マロット&マロット『行動分析学入門(第2版)』産業図書、2023年 吉野智富美・吉野俊彦『プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック』学苑社、2016年									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> 英語論文を紹介する機会があるが、論文原本とともに抄訳を示すので英文読解に自信がなくとも安心して受講できる。 授業時間外の学習や発展的な学習に資するために、追加的な資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。 連絡事項は Goole classroom で伝えるため、必ず classroom に登録すること。また、classroom から提示される課題に取り組むことで出席が認められる授業回もある。出席するだけでなく、出された課題には必ず取り組み、提出すること。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		機能分析	課題分析	児童・生徒のアセスメント					③配点比率	
②評価方法										
1	定期試験	○	○	○					50	%
2	小テスト								0	%
3	提出物	○	○	○					20	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					20	%
5	受講態度	○	○	○					10	%
6	自主学習態度								0	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとの小課題については、授業内でフィードバックする。 最終レポートの最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。 									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 V Special Seminar and Research V				②科目コード	Y6-3B022				
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（11年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者についての知識・理解を深めていく。（応用）									
②授業の概要	保育士、ろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向的やりとりを進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたろう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援についての知識を身につける。ろう者に出会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【意識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマブリシール（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート		グループワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク		Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	前期の復習・後期ガイダンス（手話通訳あり）									
第2回	夏休みの日の過ごし方などを手話で表現する									
第3回	電車や駅場所に関する手話表現を学ぶ									
第4回	手話で自己紹介をする（応用）									
第5回	ゲストスピーカーによる講演①									
第6回	手話の質問文の表現を学ぶ									
第7回	手話の質問文を用いた会話を練習する									
第8回	手話の疑問文の表現を学ぶ									
第9回	手話の疑問文を用いた会話を練習する									
第10回	ゲストスピーカーによる講演②									
第11回	イベントに関する手話を学ぶ									
第12回	手話イベントの計画をする・手話での出し物の練習をする									
第13回	手話のイベントの実施									
第14回	後期の復習									
第15回	まとめと振り返り									
定期試験	実施する（実技試験・レポート）									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。 復習：講義内容に踏まえてGoogle Classroomにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、Google Classroomからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD付き）、白水社、2022年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	【参考書】 松岡和美、「わくわく！納得！手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】 透明マスク（推奨：ルカミィ／栄商会、顔が見えマスク／ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください									
⑪教材費										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA上位者が優先される）。 ・特別演習Wを履修していること。 ・本科目のGoogle Classroomに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、Google Classroomで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○	○	○	20	%			
2	小テスト			○		10	%			
3	提出物	○	○		○	15	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○		○		40	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	15	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 W Special Seminar and Research W				②科目コード	Y6-3B023				
③担当教員名	森井 圭									
④実務経験	保育士、アートワークショップ講師、障がいを持つ人と乳幼児の場づくり				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格			発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	造形表現を通して子どもの探求心、想像力、創造力を育む プロジェクト・アプローチの実践的理解									
②授業の概要	子どもの発想、主体性から子どもたちの学びを深めるアプローチを下記の点に留意し実践的に学びます。 ・日本、世界の優れた幼児教育のアプローチから学び、自らの“保育観”を広げる ・教師主導ではない、子どもたちの発想を主体に表現を深める造形活動を知る。 ・子どもの探求心、想像力、創造力を育むアプローチを実践的に理解を深める。 ・子どもの学びを通し、一過性ではない継続的な学びへと深化させるふりかえりの方法を学ぶ。 ・造形実践やフィールドワークで経験的・体験的に学ぶ。									
③履修者の到達目標(学習成果)	①プロジェクト・アプローチの概要、どのように実践するかの基礎を知る。 ②子どもたちが探求し、学ぶ気持ちを学生自身が感じ、経験する。 ③自らの学びを客観的に振り返り、共有することで、さらに学びを深める。									
④ディプロマブリシール(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	到達目標と活動概要 学生との対話を通して授業内容を一緒に考える									
第2回	先進的な幼児教育① 日本のプロジェクトアプローチ 園での実践例から									
第3回	先進的な幼児教育② 世界のプロジェクトアプローチ イタリアレージョ・エミリアの実践例から									
第4回	プロジェクト実践：様々な粘土の特性から造形表現の可能性を学ぶ マイクロスコープでのご探求									
第5回	プロジェクト実践：様々な粘土の特性から造形表現の展開を学ぶ 粘土でのご造形									
第6回	プロジェクト実践：粘土の実践からドキュメンテーションを作成する ドキュメンテーション作成 学びのふりかえり									
第7回	フィールドワーク① 近所を自然散策「自然」をテーマにしたワーク実践 葉っぱのステンドグラス 葉っぱの色遊び									
第8回	ワーク実践：絵の具で植物の色づくり さまざまな素材から色をつくる									
第9回	ポートフォリオ中間提出 対話とふりかえり 学外学習準備									
第10回	フィールドワーク② 学外学習 美術館もしくは意欲的な実践をする園に出かけます ※実施日は学生と相談の上調整									
第11回	プロジェクト実践：光と影あそび ～身近にある光と影探し&影絵をつくってみよう～									
第12回	プロジェクト実践：光と影あそび ～影絵でものがたりづくり&上演～									
第13回	プロジェクト実践をふりかえる(記録のまとめ方)									
第14回	自分の学び、気づきをポートフォリオにまとめる									
第15回	自分の学び、気づきをポートフォリオにまとめる									
定期試験	実施なし(提出物及びポートフォリオで評価)									
⑧自主学習の課題	ポートフォリオの作成と提出									
⑨テキスト	授業時に資料を配布									
⑩参考書/参考資料/準備物等	青木一永編著「つながらる保育スタートBOOK ～プロジェクト・アプローチを通して探求を支える～」東洋館出版社 2022									
⑪教材費	1500円 フィールドワークに関わる交通費は個人負担とする。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	定員10名 動きやすい、汚れても良い服装で参加する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目			③配点比率						
	探究的な学びの実践	プロジェクトの理解	まとめ(ポートフォリオ)							
1	定期試験								%	
2	小テスト								%	
3	提出物	○	○	○				70	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○					5	%	
5	受講態度	○	○					20	%	
6	自主学習態度			○				5	%	
7	その他								%	
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業内で提出作品に対するフィードバックを教員より、学生同士で実施									
IV その他										
写真撮影、アプリ使用に際し、携帯電話を用いる(スマートフォンが望ましいが、それ以外も可)。										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの食と栄養 I Food and Nutrition for Children I					②科目コード	Y3-3A001			
③担当教員名	新澤 佳代									
④実務経験	管理栄養士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養 (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	栄養に関する基本的知識と乳児期の食生活									
②授業の概要	管理栄養士の資格を持つ教員が担当する。子どもの食生活は、発育・発達の上でとても重要であり、将来の食習慣にまで影響を及ぼす。そのために、栄養素の種類や体内での働き、ライフステージ別の特徴や望ましい食生活について理解し、適切に指導できる能力を養う。グループワークや調理実習を適宜取り入れて実践を身につける。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 栄養の基本的概念を理解し、各栄養素の働きと健康との関わりについて説明することができる。 2. 食生活の基本について理解し、説明することができる。 3. 乳児期の食生活の特徴について理解し、説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	子どもの健康と食生活の意義・子どもの食生活の現状と課題									
第2回	栄養の基礎①栄養の基本的概念									
第3回	栄養の基礎②食べ物の消化と吸収									
第4回	栄養の基礎③エネルギーになる栄養素									
第5回	栄養の基礎④からだを作る栄養素									
第6回	栄養の基礎⑤ビタミン、ミネラル									
第7回	栄養の基礎⑥日本人の食事摂取基準・食事バランスガイドと食事									
第8回	栄養の基礎⑦献立作成と調理の基本									
第9回	食中毒について									
第10回	妊娠期・胎児期の栄養									
第11回	乳児期の栄養①乳汁期									
第12回	乳児期の栄養②離乳期									
第13回	乳児期の栄養③調乳と離乳食の調理実習									
第14回	乳児期の栄養④離乳食の調理実習									
第15回	まとめ									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：授業内容に該当する教科書の部分を事前に読み、ポイントをつかんでおくこと。 調理実習では衛生面が重要となるので、各自で身支度や器具・食材の扱い方を確認しておくこと。 (約30分の学習時間を要する) 復習：授業で得た内容を振り返り、テキストや配布資料を読み直し、大切な点や調理の反省点などをまとめておくこと。 授業で示された課題の提出期限は厳守し、必ず提出すること。 (約30分間の学習時間を要する)									
⑨テキスト	青木三恵子編著『子どもの食と栄養「生きる力」を育むために』講談社									
⑩参考書/参考資料/準備物等	・『オールガイド食品成分表』実教出版 ・中村丁次著『楽しくわかる栄養学』羊土社 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・その他、適宜授業で紹介する									
⑪教材費	教材費、材料費として2,000円									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・調理実習の際はエプロン、三角巾(バンダナ)、マスク、ハンドタオル・上履き(実習靴)を準備し、身だしなみを整える。 (不適切なアクセサリーを外し、長い髪は束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる。)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	栄養に関する基本的知識	食生活の基本	乳児期の食生活					③配点比率	
1	定期試験	○	○	○					50	%
2	小テスト	○							10	%
3	提出物	○	○	○					25	%
4	発表・実技・プレゼン								0	%
5	受講態度	○	○	○					15	%
6	自主学習態度								0	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	採点した課題等を授業内で返却、講評する。									
IV その他										
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合がある。										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの食と栄養Ⅱ Food and Nutrition for Children Ⅱ					②科目コード	Y3-3A002			
③担当教員名	新澤 佳代									
④実務経験	管理栄養士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養 (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児期以降・特別な配慮を要する子どもの食生活と食育の実践									
②授業の概要	管理栄養士の資格をもつ教員が担当する。幼児期の心身の発達と食生活について理解し、望ましい食生活について考える。さらに、生涯発達と食生活について、家庭や児童福祉施設における食生活について、日本や世界の食文化について理解を深める。アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもへの対応について理解する。適宜、ディスカッション・ディベート・グループワークを取り入れ、実践へと結び付ける。幼児期を対象とした調理実習や食育演習を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 幼児期の食生活の特徴を説明することができる。 2. 日本の食文化について理解し、望ましい食生活について説明できる。 3. 疾病、体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもの特徴を理解し、対応方法を説明することができる。 4. 幼児を対象とした食育計画の立案、実践、評価をし、一連の食育実践を行うことができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑦授業の計画(授業の内容)	⑧ディプロマポリシー(DP)との関係 ⑨アクティブ・ラーニング実施内容 ⑩ICT機器による授業や支援									
⑧ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性 ○ ②専門知識・技能 ○ ③共感性 ○ ④コミュニケーション ○ ⑤協働性 ○									
⑨アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習 グループワーク ○ 反転授業 プレゼンテーション ○ ディスカッション・ディベート ○ 実習・フィールドワーク ○									
⑩ICT機器による授業や支援	⑧ディプロマポリシー(DP)との関係 ⑨アクティブ・ラーニング実施内容 ⑩ICT機器による授業や支援									
⑪授業の計画(授業の内容)	第1回 幼児期の栄養①幼児期の発育発達と食生活 第2回 幼児期の栄養②幼児期の食事の献立作成 第3回 幼児期の栄養③調理実習 第4回 学童期・思春期の食生活 第5回 生涯発達と食生活 第6回 家庭や児童福祉施設における食事を栄養 第7回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①疾病および体調不良の子どもへの対応 第8回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養②食物アレルギーのある子どもへの対応 第9回 特別な配慮を要する子どもの食と栄養③障害のある子どもへの対応 第10回 食文化①日本の食文化「和食」 第11回 食文化②世界の食文化 第12回 食育の基本と内容①食育の意義・目的と基本的考え方 第13回 食育の基本と内容②食育計画の立案 第14回 食育の基本と内容③食育計画の準備 第15回 食育の基本と内容④食育計画のまとめ・発表									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：授業内容に該当する教科書の部分を事前に読み、ポイントをつかんでおくこと。 調理実習では衛生面が重要となりますので、各自で身支度や器具・食材の扱い方を確認しておくこと。(約30分の学習時間を要する) 復習：授業で得た内容を振り返り、テキストや配布資料を読み直し、大切な点や調理の反省点などをまとめておくこと。 授業で示された課題の提出期限は厳守し、必ず提出すること。(約30分間の学習時間を要する)									
⑨テキスト	青木三恵子編著『子どもの食と栄養「生きる力」を育むために』講談社									
⑩参考書/参考資料/準備物等	・『オールガイド食品成分表』実教出版 ・中村丁次著『楽しくわかる栄養学』羊土社 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・その他、適宜授業で紹介する									
⑪教材費	教材費、材料費として1,500円									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・調理実習の際はエプロン、三角巾(バンダナ)、マスク、ハンドタオル、上履き(実習靴)を準備し、身だしなみを整える (不適切なアクセサリを外し、長い髪は束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	幼児期の食生活	日本の食文化	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	幼児期の食育	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○					50	%	
2 小テスト			○					10	%	
3 提出物	○							10	%	
4 発表・実技・プレゼン				○				10	%	
5 受講態度	○	○	○	○				20	%	
6 自主学習態度								0	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	採点した課題、小テスト等を授業内で返却、講評する。									
IV その他										
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合があります。										

I 科目に関する項目							
①科目名	社会的養護 I Theory of Social Care for Children I				②科目コード	Y2-3A001	
③担当教員名	平野 美香						
④実務経験	臨床心理士（19年）、公認心理師（6年）				⑤担当形態		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義
⑩必選別	必修	⑩必選別	選択				
⑪関連免許資格等	幼児種免許	特二種免許	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程							
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の本質・目的の管理に関する科目 社会的養護 I（講義）						
II 授業内容に関する項目							
①テーマ	子ども虐待と社会的養護の現状と基本理念、代替養育（施設養護／家庭的養護）について学ぶ						
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども・家庭支援を行ってきた教員が担当する。虐待を受けるなど、家庭で養育されることが適当ではない子どもを社会で養育する仕組みを社会的養護と言う。本講では、社会的養護の現状と課題、家庭に代わる代替養育の場である施設養護と家庭養護（里親・養子縁組）等について学ぶ。また、事例検討で子ども虐待の実態と対応について学びを深め、支援方法を考えられるようになることを目的とする。子どもの支援者としての自覚を持ち、平日頃から、子ども家庭福祉に関する時事問題に関心を寄せてほしい。授業はパワーポイントとレジュメを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。また、Google classroomを活用し、授業資料や課題を提示することで、学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は、Google classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。						
③履修者の到達目標（学習成果）	1【社会的養護の現状と課題・原理の理解】社会的養護の現状と課題・原理を理解し、説明できる。 2【虐待と対応】子ども虐待について知り、子どもや養育者に対する支援を考えることができる。 3【施設養護・家庭養護の現状と課題】施設養護と家庭養護について、現状と課題を述べることができる。 4【関心と意見】子ども家庭福祉に関する問題に関心をもち、自分なりの考えを述べるることができる。						
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク			
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○
⑦授業の計画（授業の内容）							
第1回	子ども・家庭を取り巻く現状と社会的養護						
第2回	社会的養護の現状と基本理念、子どもの権利擁護						
第3回	社会的養護の原理とケアワーカーの役割						
第4回	子ども虐待と児童相談所の機能						
第5回	子ども虐待の対応①現状と事例検討の基礎知識・方法						
第6回	子ども虐待の対応②事例検討 レポート作成						
第7回	施設養護①児童養護施設						
第8回	施設養護②乳児院・③母子生活支援施設						
第9回	施設養護④障がい児施設						
第10回	施設養護⑤児童心理治療施設						
第11回	施設養護⑥児童自立支援施設						
第12回	施設養護⑦児童自立援助ホーム						
第13回	地域の中の福祉施設—子ども家庭支援センター（事例検討 レポート作成）						
第14回	家庭的養護①日本の社会的養護システムの課題と今後の方向						
第15回	家庭的養護②里親制度、ファミリーホーム、養子縁組制度						
定期試験	筆記試験（レジュメ持ち込み可）を実施する						
⑧自主学習の課題	予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースを敏感に取り入れ、自分なりに考える。意見や疑問点を授業で質問できるとよい。 復習：配布レジュメと Classroom にアップしたパワポ資料を読み返す。実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結びつけて考え、具体的なイメージを持つよう努める。レポート課題がある場合は、作成する。						
⑨テキスト	不要。講師が準備したパワーポイントとレジュメを用いる。						
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館						
⑪教材費	なし						
⑫履修条件／履修上の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。						
III 学習項目と評価方法・配点比率							
①学習項目	社会的養護の現状と課題	虐待と対応	施設養護・家庭養護の現状と課題	関心と意見	③配点比率		
②評価方法							
1 定期試験	○	○	○	○	75	%	
2 小テスト					0	%	
3 提出物		○	○	○	15	%	
4 発表・実技・プレゼン					0	%	
5 受講態度	○	○	○	○	5	%	
6 自主学習態度	○	○	○	○	5	%	
7 その他					0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。成績評価についての問い合わせには個別に応じる。						
IV その他							

I 科目に関する項目									
①科目名	社会的養護Ⅱ Theory of Social Care for Children Ⅱ					②科目コード	Y4-3B002		
③担当教員名	平野 美香								
④実務経験	臨床心理士（19年）、公認心理師（6年）					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程									
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	社会的養護における子どもの理解と実践的ケアを学ぶ								
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども家庭支援を行ってきた教員が担当する。前期、社会的養護の授業を通して学んだ現状や制度の知識を基に、子ども理解のためのアセスメントの基礎知識、虐待の影響と対応、自立への支援等学び、社会的養護を必要とする子どもたちへの実践的な理解と対応力を身に付けることを目的とする。また、子ども虐待や施設での子ども対応に関する事例検討を通して、子どもや家族の状態をアセスメントし、支援方法を自分なりに考える力を培う。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。また、Google classroomを活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。								
③履修者の到達目標（学習成果）	1【子どもの理解】子どもや家族の状態を理解するための基礎知識を身につけ、ある程度アセスメントできる。 2【虐待の影響と対応の理解】虐待を受けた子どもの状態とそのケアについて、説明できる。 3【支援方法】子どもや家族の状態の理解に基づいて、支援方法を複数述べるができる。 4【考え伝える】知識と情報をもとに自分なりに考え、相手に伝えることができる。								
④ディプロマブリシ（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○		
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 子ども虐待の死亡事例と保育所の対応 ①現状と解説・事例の読み込み 第2回 子ども虐待の死亡事例と保育所の対応 ②事例検討 グループワーク・レポート作成 第3回 子どもの理解ーアセスメントの基礎知識 ①アセスメントとは ②愛着障害 第4回 子どもの理解ーアセスメントの基礎知識 ③トラウマ 第5回 子どもの理解ーアセスメントの基礎知識 ④その他のこころの障害 第6回 子どもを迎えるとき ①児童票の読み方と見立て ー事例検討 グループワーク・レポート作成 第7回 子どもを迎えるとき ②子どもを迎える準備とケア 第8回 施設での集団生活 第9回 子ども同士のトラブルの対応 ー事例検討 事例検討 レポート作成 第10回 家族関係への支援 ①家族再統合に向けて 第11回 家族関係への支援 ②生い立ちの整理 第12回 虐待の影響と対応 ①身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト 第13回 虐待の影響と対応 ②性的虐待 第14回 自立への支援 第15回 職員の働き方ーチームワークと代替養育者による虐待の防止 定期試験 筆記試験（レジュメ・テキスト持ち込み可）を実施する								
⑧自主学習の課題	予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースに敏感になって取り入れ、自分なりに考える。疑問や意見を授業時に言えるとよい。 復習：Classroom にアップしたパワポ資料と、授業で書き込んだ配布レジュメを読み返す。レポート課題がある場合は、作成する学んだことを、実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結び付けて考え、具体的なイメージを持つよう努める。								
⑨テキスト	中山正雄編著『実践から学ぶ社会的養護の内容』教育情報出版 2019.2								
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件／履修上の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは初回授業で伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷する。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し提出すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	子どもの理解	虐待の影響と対応の理解	支援方法	考え伝える			③配点比率	
1	定期試験	○	○	○	○			75	%
2	小テスト							0	%
3	提出物	○	○	○	○			15	%
4	発表・実技・プレゼン			○	○			2	%
5	受講態度	○	○	○	○			5	%
6	自主学習態度	○	○	○	○			3	%
7	その他							0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100 %		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目									
①科目名	子育て支援 Childcare Support (Exercises)					②科目コード	Y4-3B003		
③担当教員名	平田 美智子								
④実務経験	社会福祉士					⑤担当形態	単独		
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 子育て支援 (演習)								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	保育現場における子育て支援の在り方について学ぶ								
②授業の概要	子育て支援の現状と課題について学んだ上で、子育て支援の実際について多様な事例から支援の必要性と意義について理解を深めることを目的とする。また、講師の児童相談所や福祉事務所勤務における実務経験に基づき、相談支援の基本を踏まえながら、保育者の実践について演習方式で学ぶ。さらに、地域資源の活用と専門機関との連携を視野に入れた支援に関する知識を養う。								
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 子育て支援の意義や原則、援助・支援方法の具体的内容を述べるができる。 2. 保護者を支援するための基本姿勢を理解し、グループ・ディスカッションを通して仮想事例に基づいた支援計画を立案・検討することができる。 3. 地域資源や専門機関等について調べ、グループワークを通して子育て支援に必要な連携について考えることができる。								
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)									
第1回	ガイダンス(授業のねらい・進め方・成績評価の説明)と子育て支援の意義を知る								
第2回	保育と子育てに関する概要を学ぶ								
第3回	子どもの権利と子育て支援を学ぶ								
第4回	保育の専門性と子育て支援を学ぶ								
第5回	子育て支援の展開過程・子育て支援における計画・記録・評価								
第6回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者との信頼関係の構築								
第7回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者の理解とかかわり方								
第8回	(ディスカッションを含む演習方式) 地域資源の活用と関係機関との連携・協力								
第9回	(ディスカッションを含む演習方式) 保育所の特性を生かした保護者への支援								
第10回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を要する保護者への支援(児童虐待)								
第11回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を必要とする保護者への支援(ひとり親・外国人家族)								
第12回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援								
第13回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援								
第14回	(ディスカッションを含む演習方式) 児童発達支援センターにおける子育て支援								
第15回	子育て支援の課題についてのまとめ、振り返り授業内レポート								
定期試験	実施しない								
⑧自主学習の課題	予習: 約30分間の学習時間を要する。 復習: 約30分間の学習時間を要する。								
⑨テキスト	小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集「学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現在社会『演習・保育と子育て支援』」2022 みらい								
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件/履修上の注意事項	毎回の授業では、他の教科や実習で学習した知識・経験を基に、積極的にディスカッションに参画し、発表を行って下さい。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
②評価方法	①学習項目	保護者支援の意義や原則等	支援の基本的理解と支援計画	支援方法の考案				③配点比率	
	1 定期試験							0	%
2 小テスト		○	○	○				70	%
3 提出物		○	○	○				10	%
4 発表・実技・プレゼン		○	○	○				10	%
5 受講態度		○	○	○				10	%
6 自主学習態度								0	%
7 その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習 I (施設) Training of Childcare I					②科目コード	Y5-3C001			
③担当教員名	打越 みゆき 井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(70)	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習 I (実習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設における実習									
②授業の概要	施設実習を通して、施設の役割・機能、子ども・利用者の理解と対応、施設の子ども・利用者の生活と環境、健康管理・安全対策の理解、保育士の職務や職業倫理について具体的に理解する。日々の実践について実習日誌に記録し、自己省察を行うとともに自己評価する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活と一日の流れ									
第3回	1. (2) 施設の役割と機能									
第4回	2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録									
第5回	2. (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり									
第6回	3. 養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や援助									
第7回	3. (2) 子どもの心身の状態に応じた対応									
第8回	3. (3) 子どもの活動と生活の環境									
第9回	3. (4) 健康管理、安全対策の理解									
第10回	4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用									
第11回	4. (2) 記録に基づく省察・自己評価									
第12回	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容									
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第14回	【事後】実習体験の分かち合い									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	守巧(他著)『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友(編著)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・施設からの総合評価が D (不合格) 評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	20	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	30	%			
7	実習施設からの評価	○	○	○	○	40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている(実習日誌)				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導 I (施設) Practical Training of Childcare I					②科目コード	Y5-3C002			
③担当教員名	打越 みゆき 井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習指導 I (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能、利用者の支援、職務および職業倫理を実習から修得するための事前事後指導									
②授業の概要	保育所以外の施設の役割・機能、子ども・利用者の生活、施設における保育士等の専門職の役割・職業倫理について理解を深める。 これらの学びをふまえて、実習課題を立案し、実習の目的を明確にするとともに、実習に対する心構えを身につける。事後指導により、施設保育士の役割や職務および実習課題の達成度を振り返り、自己課題を明確にする。 公認心理師(臨床発達心理士)および保育士資格を有する教員が担当し、事例や映像資料をふまえた施設および利用者理解と施設保育士の職責について解説する。 反転授業および自主学習課題として、Google classroom を活用し授業資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 施設理解：保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能と利用者、保育士の職務と職業倫理の基本を理解できる。 2. 実習課題・日誌：これまでの実習経験や事前学習をふまえて、実習課題を立てるとともに、実習日誌の記録方法を習得する。 3. 心構えとマナー：実習に対する心構えやマナーについて理解し、実践に結びつけることができる。 4. 自己課題の発見：実習前後に自己課題について具体的に振り返ることができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	○	○	ディスカッション・ディベート	○			
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク				
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業 ○ グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援 ○									
第1回	施設実習の目的と先輩との情報交換									
第2回	保育所以外の施設の概要									
第3回	施設実習の1日の流れ・実習生調書の作成									
第4回	施設実習のオリエンテーション準備									
第5回	施設理解と実習内容—実習施設についての調べ学習—									
第6回	施設理解と実習課題の準備									
第7回	施設職員の講話									
第8回	実習課題の設定									
第9回	実習施設の理解と対応 *グループワーク									
第10回	実習施設の子ども・利用者への関わり *グループディスカッション									
第11回	日誌分析—施設実習の日誌の書き方—									
第12回	事前指導(グループ)									
第13回	実習直前指導—実習の心構えと倫理—									
第14回	事後指導 *グループディスカッション									
第15回	事後指導(個別)									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む(30分程度の学習時間を要する)。 復習：毎回の課題に取り組む(30分程度の学習時間を要する)。									
⑨テキスト	守巧(他著)『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友(編著)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・実習ハンドブックを持参すること。 ・履修上の注意事項：「保育実習 I (施設)」が不合格・失格の場合、本科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には Google classroom および meet を活用しオンデマンドまたは双方向型授業を実施する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	施設理解	実習課題・日誌	心構えとマナー	自己課題の発見			③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			60	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			40	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は随時返却する。									
IV その他										
学生要覧「保育士となる資格の取得」に関するページを熟読すること。										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習Ⅱ（保育所）Training of Childcare Ⅱ					②科目コード	Y5-3C003			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(70)	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育実習 保育実習Ⅱ（実習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育士として必要な資質・能力・技術の習得、指導計画の立案・実践・振り返り、保護者への対応方法・子育て支援の方法の習得									
②授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」における実習での課題を踏まえ、保育全般に参加し、保育士の職務の理解、子どもの個人差・発達の違いによる対応方法、保護者への対応の方法、子育て支援のニーズと地域の社会資源との連携について学ぶ。また、一日の保育あるいは保育の一部分を担当する指導計画を立案・実践し、振り返りを行い、今後の自己の学習課題とその具体的方法について明確にする。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、保育所理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：保育所の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 保育所の役割や機能の具体的な展開(1) 養護と教育が一体となって行われる保育									
第3回	1. (2) 保育所の社会的役割と責任									
第4回	2. 観察に基づく保育理解(1) 子どもの心身の状態や活動の観察									
第5回	2. (2) 保育士等の動きや実践の観察									
第6回	2. (3) 保育所の生活の流れや展開の把握									
第7回	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携(1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解									
第8回	3. (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援									
第9回	3. (3) 地域社会との連携									
第10回	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価(1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解									
第11回	4. (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価									
第12回	5. 保育士の業務と職業倫理(1) 多様な保育の展開と保育士の業務									
第13回	5. (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理									
第14回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験 実施しない										
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	大豆生田啓友(編著)「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所からの総合評価がD(不合格)評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌は、実習終了後3日以内に実習保育所に提出する。 ・保育所から日誌が戻り次第、教務・学生支援課に提出する。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
②評価方法	1 定期試験					0	%			
	2 小テスト					0	%			
	3 提出物	○	○	○	○	20	%			
	4 発表・実技・プレゼン					0	%			
	5 受講態度	○	○	○	○	10	%			
	6 自主学習態度	○	○	○	○	30	%			
	7 実習施設からの評価	○	○	○	○	40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている(実習日誌)				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所） Practical Training of Childcare II					②科目コード	Y5-3C004				
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験						⑤担当形態	複数				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		選択必修		発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅱ（演習）										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所における子どもの最善の利益を考慮した保育を実習により修得するための事前事後指導										
②授業の概要	保育所保育士としての実践力を習得するための事前準備を行う。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら、保育所の役割や機能、保育の実践力、保育士の専門性と職業倫理などについて理解を深める、実習課題を立てる。また責任実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士・公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、事例などを通して子ども理解および保育士の役割・職責などについて解説する。反転授業および自主学習課題として Google classroom を活用し資料や課題を提示する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・保育士の理解：保育所の役割・機能と保育士の職務を理解できる。 2. 実習課題：既習の科目やこれまでの実習の学びと関連つけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 3. 保育実践・計画：子どもの発達や実態をふまえて責任実習に向けた準備をすることができる。 4. 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。 										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○	○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		○	ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	保育実習Ⅱの意義と目的										
第2回	実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成										
第3回	保育実習Ⅰ 日誌分析										
第4回	保育実習Ⅱの日誌の書き方										
第5回	子どもの発達の理解と保育技術										
第6回	責任実習・指導案の準備										
第7回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—										
第8回	事前指導（個別）										
第9回	実習後の振り返りと自己評価										
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション										
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見										
第12回	保育所保育指針を踏まえた保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク										
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・日本保育士研修センター）										
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）										
第15回	保育実習のまとめとその共有 ※グループワーク										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む（約30分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約30分の学習時間を要する）。										
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを持参すること。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	保育所・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括			③配点比率			
	1 定期試験							0	%		
	2 小テスト							0	%		
	3 提出物	○	○	○	○			60	%		
	4 発表・実技・プレゼン							0	%		
	5 受講態度	○	○	○	○			40	%		
	6 自主学習態度							0	%		
	7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する										
IV その他											
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること											

I 科目に関する項目											
①科目名	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設） Training of Childcare Ⅲ						②科目コード	Y5-3C005			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験							⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（70）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習Ⅲ（実習）										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所以外の児童厚生施設等における実習										
②授業の概要	児童厚生施設等において、その役割や機能、保育士の業務や職業倫理、子どもの保育及び保護者への支援について、実践的、かつ総合的に理解する。 また、援助計画を立案し、実践するとともに、実習の振り返りを行い、今後の学習課題と課題実現の具体的方法を明確にする。										
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性				
		○		○	○		○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク		○					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援							
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション										
第2回	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能										
第3回	2. 施設における支援の実際										
第4回	2（1）受容し、共感する態度										
第5回	2（2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解										
第6回	2（3）個別支援計画の作成と実践										
第7回	2（4）子どもの家族への支援と対応										
第8回	2（5）多様な専門職との連携										
第9回	2（6）地域社会との連携										
第10回	3. 保育士の多様な業務と職業倫理										
第11回	4. 保育士としての自己課題の明確化										
第12回	【事後】学生による実習終了報告										
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価										
第14回	【事後】実習体験の分かち合い										
第15回	【事後】実習日誌の振り返り										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入										
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・施設からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。 										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価			③配点比率			
1	定期試験							0	%		
2	小テスト							0	%		
3	提出物	○	○	○	○			20	%		
4	発表・実技・プレゼン							0	%		
5	受講態度	○	○	○	○			10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			30	%		
7	実習施設からの評価	○	○	○	○			40	%		
④ルーブリック評価	取り入れている（実習日誌）						比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設） Practical Training of Childcare Ⅲ					②科目コード	Y5-3C006			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】(告示別表第2による教科目) 保育実習 保育実習指導Ⅲ (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	児童厚生施設等の役割、保育・支援の実践、職員の職務・職業倫理を実習により修得するための事前事後指導									
②授業の概要	児童厚生施設等の児童福祉施設の役割、利用者への支援、職員の職務および職業倫理について理解を深める。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら児童福祉施設の役割や機能について理解を深め、実習課題を立てる。 また、児童厚生施設等における子ども、保護者への対応や保育実践の基本について修得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士および公認心理師(臨床発達心理士)を有する教員により、子どもの保育および保護者支援、職業倫理等について事例やグループワークなどを用いて解説する。Google classroom を活用し資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 施設・保育士の理解：児童厚生施設の役割・機能と職員の職務・職業倫理を理解できる。健全育成につながる遊びについて考えたり、児童館が行う子育て支援の内容と重要性について理解したりできる。 実習課題：既習の科目や実習を関連づけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 保育実践・計画：利用者の理解・対応を修得するとともに部分実習の準備をすることができる。 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	保育実習Ⅲの意義と目的									
第2回	保育実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成									
第3回	保育実習Ⅰ 日誌分析									
第4回	保育実習Ⅲの日誌の書き方									
第5回	児童厚生施設の役割・機能および職員の職務・職業倫理									
第6回	部分実習・指導案の準備									
第7回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—									
第8回	事前指導(個別)									
第9回	実習後の振り返りと自己評価									
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション									
第11回	事後指導(個別) および事後指導をふまえた自己課題の発見									
第12回	保育の在り方を省察する(外部講師・日本保育士研修センター) ※グループワーク									
第13回	保育士として働くための心構え(外部講師・日本保育士研修センター)									
第14回	保育士として働くための心構え(外部講師・新人保育士)									
第15回	児童福祉施設の機能と保育士の職務の理解 まとめとその共有 ※グループワーク									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：教科書の実習に関する部分を読んでおく(約30分の学習時間を要する)。 復習：毎回の課題に取り組む(約30分の学習時間を要する)。									
⑨テキスト	守巧(他著)『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友(編著)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを持ってくる。 ・「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習指導Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習指導Ⅰ(施設)」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	施設・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験								0		%
2 小テスト								0		%
3 提出物	○	○	○	○				60		%
4 発表・実技・プレゼン								0		%
5 受講態度	○	○	○	○				40		%
6 自主学習態度								0		%
7 その他								0		%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する。									
IV その他										
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること										

I 科目に関する項目										
①科目名	ベビーシッター論 Theory of Home Visit Child Care				②科目コード	Y4-3B001				
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（19年）、公認心理師（6年）				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	家庭訪問保育について学び、居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働くための知識を身につける									
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、子ども家庭支援に関わってきた教員が担当する。家庭訪問保育は従来、細やかで柔軟性を持った保育サービスとして子育て家庭を支えてきたが、現在では国の子育て支援制度の中に居宅訪問型保育として正式に位置づけられ、その重要性を増している。 本講では、家庭訪問保育者の役割と責務、発達に即した保育内容、子育てアドバイス等、家庭における子ども・親への支援を学び、制度上の居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働く基礎知識を身に付けることを目指す。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行う。また Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1【家庭訪問保育の理解】国の子育て支援制度である居宅訪問型保育と一般型の家庭訪問保育について説明できる 2【安全と健康の理解】子どもの安全と健康を守る知識を持つ 3【家庭保育の実践】発達に即した家庭での保育や、親への支援を考えることができる 4【現場の対応と連携】現場の問題に対し、同僚や他職種・機関と連携して支援に臨む姿勢を持つことができる →									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	家庭訪問保育の体系									
第2回	居宅訪問型保育の概要と課題（事例レポート）									
第3回	家庭的保育者の姿勢と子どもの「育ち」の理解									
第4回	一般型家庭訪問保育、産後ケア									
第5回	新生児の発達とケア									
第6回	乳児の発達とケア									
第7回	幼児の発達とケア									
第8回	小児保健①子どもの健康管理									
第9回	小児保健②子どもに多い病気と対応									
第10回	リスクマネジメントと事故対応									
第11回	居宅訪問型保育における保育内容・環境整備・運営									
第12回	子どもの遊び・感覚									
第13回	特別に配慮を要する子どもへの対応									
第14回	保護者支援～気がかりな保護者（事例レポート）									
第15回	子育てアドバイスと保育現場での対応（事例レポート）									
定期試験	筆記試験（テキスト、レジュメ持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回に次回授業の学習箇所について知らせるので、その範囲のテキストを読んでくること。 復習：授業で書き込んだ配布レジュメとテキスト、classroom にアップしたパワポ資料を再読み、気が付いた点をレジュメに書き込むこと。レポート課題がある場合は、作成すること。									
⑨テキスト	全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際』中央法規（第3版・2022）									
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業で紹介する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも提示する）、Classroom を利用して授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	家庭訪問保育の理解	安全と健康の理解	家庭保育の実践	現場の対応と連携	③配点比率				
1	定期試験	○	○	○	○	75	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物			○	○	15	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	5	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%			
7	その他						%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										
「認定ベビーシッター」資格取得に該当する科目である。										

I 科目に関する項目										
①科目名	発達障がい児指導法演習 Practice in Developmental Disorders Guidance					②科目コード	Y5-3C007			
③担当教員名	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験	臨床心理士 / 臨床発達心理士 / 公認心理師					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	インクルーシブ保育現場での発達障がい児支援に関する基礎実践									
②授業の概要	臨床心理士・臨床発達心理士・公認心理師として、発達障害児への療育指導、保育・教育現場への巡回相談、発達障害児をもつ家族への支援に関する実務経験を有する教員による授業である。本授業では、発達障がいの基本的な行動特徴について確認した上で、保育現場で発達障がい児に適切にかかわられるよう、①行動問題について見立てを行う事例検討、②子どもおよび保護者のニーズを踏まえた個別の保育・指導計画の立案、③行動問題が生じた際の支援方法について模擬保育場を設定して練習するシミュレーション・トレーニングを実施する。受講者が自ら考えて実践するアクティブラーニングの形式で授業を展開する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 発達障がい児の基本的な行動特徴を踏まえ、行動問題の原因を予測し、いくつかの支援方法を提案することができる。 2. 発達障がい児と保護者のニーズを踏まえ、個別の保育・指導計画を立案することができる。 3. インクルーシブ保育の環境づくりの知識を習得する。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	イントロダクション(インクルーシブ保育とは)			第16回	インクルーシブ保育実践・振り返り					
第2回	子どものアセスメントとインクルーシブ保育現場での実践			第17回	インクルーシブ保育教材(宿題)に関する情報交換会					
第3回	発達障がいの特性を理解する			第18回	ロールプレイの意義と効果について					
第4回	保育現場における事例検討とは			第19回	シミュレーション・トレーニング事前説明					
第5回	事例検討①:(感覚障害をもつ子ども)			第20回	シミュレーション・トレーニング① ※事例検討と同様の題材にて実施					
第6回	事例検討②:(行動調節が困難な子ども)			第21回	シミュレーション・トレーニング②					
第7回	事例検討③:(衝動性の高い子ども)			第22回	シミュレーション・トレーニング③					
第8回	個別の保育・指導計画とは			第23回	シミュレーション・トレーニング・まとめ					
第9回	個別の保育・指導計画の作成方法			第24回	園内支援体制と現職者研修					
第10回	実践事例:個別の保育・指導計画の実施と修正			第25回	保護者の心理と早期支援					
第11回	個別の保育・指導計画と園内支援体制づくり			第26回	発達に偏りのある子どもの保護者への支援(虐待防止)					
第12回	行動問題を理解する枠組み(FBAの視点)			第27回	保育及び教育的ニーズとは何か					
第13回	発達の視点からの子ども理解			第28回	保育・教育現場における合理的配慮					
第14回	インクルーシブ保育教材の紹介/夏休み宿題の提示			第29回	個別の保育・教育支援計画と移行支援					
第15回	インクルーシブ実践・事前指導			第30回	インクルーシブ保育実践に関するまとめ					
定期試験	前期・後期それぞれ実施する。									
⑧自主学習の課題	予習:事前に配られた事例理解シートを読み込むこと。 復習:事例検討やシミュレーション・トレーニングで学んだ技術をノートに記入し、記載した事項や情報を復習すること。 ※予習・復習にそれぞれ約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	大石幸二監修 遠藤愛・太田研著「カンファレンスで深まる・作れる 配慮を要する子どものための個別の保育・指導計画」学苑社									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	インクルーシブ教材作成費用は自己負担									
⑫履修条件/履修上の注意事項	履修条件:特になし 履修上の注意事項:発達障害児保育ベーシックプログラムの必修科目であるが、本資格取得を希望しない者も履修可能である。 その他:シミュレーション・トレーニングには、原則、全て出席すること。詳細は、授業時に説明する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	発達障がいの理解	行動問題の理解と対応	個別の保育・指導計画の作成	インクルーシブ保育の環境づくり					③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○					70 %	
2 小テスト									0 %	
3 提出物				○					10 %	
4 発表・実技・プレゼン		○	○						20 %	
5 受講態度									0 %	
6 自主学習態度									0 %	
7 その他									0 %	
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計		100 %			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題(試験やレポート等)の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

星美学園短期大学 学生要覧・講義要項

発 行 者 星美学園短期大学
〒115-8524
東京都北区赤羽台 4-2-14
Tel. (03) 3906-0056
Fax. (03) 5993-1600
発行年月日 2026年4月1日
(100部)
印 刷 上毛印刷株式会社
Tel. (03) 3984-8576